“Zoom-Zoom”・・・

それは英語で「ブー、ブー」という車の走行音をあらわす、子供言葉です。
誰でも、子供の頃は、動くことに対するあこがれがありました。
車のエンジン音が響くと、ドキドキする感じ。
カラダがビュンビュン流れる時の、快感。
めまいがするようなうれしさ。

きっと、みんな知っていたはずです。
でも、大人になると、ちょっと忘れていたりする。
それを、マツダは忘れません。
それが、私たちの“Zoom-Zoom”の意味。

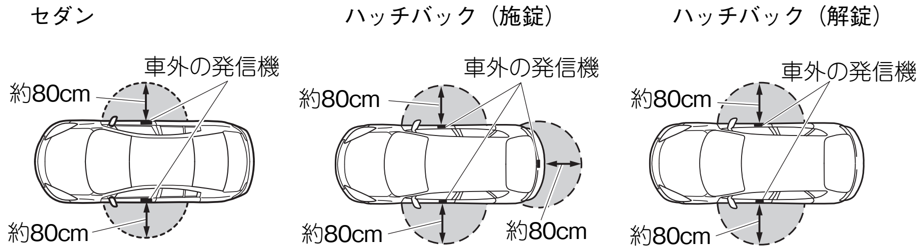
小さい時に知っていた、
ウズウズするような走る喜びを忘れていない皆様のために、
素晴らしいクルマを作り続けます、という
私たちの新しいブランド・パーソナリティのコア・エッセンスです。

アドバンストキー

● アドバンストキーの作動範囲

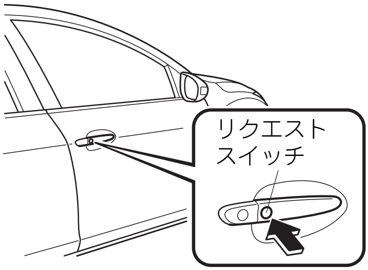
アドバンストキーを携帯し、フロントドアまたはリヤゲートのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リヤゲート/トランクが施錠/解錠します。

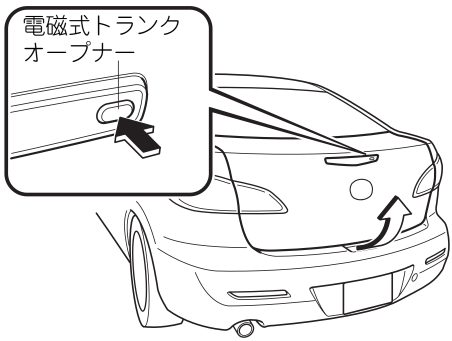
（点線の円）の範囲で操作ができます。



● ドア、リヤゲート/トランクの施錠/解錠

フロントドア





リクエストスイッチを押して施錠/解錠できます。

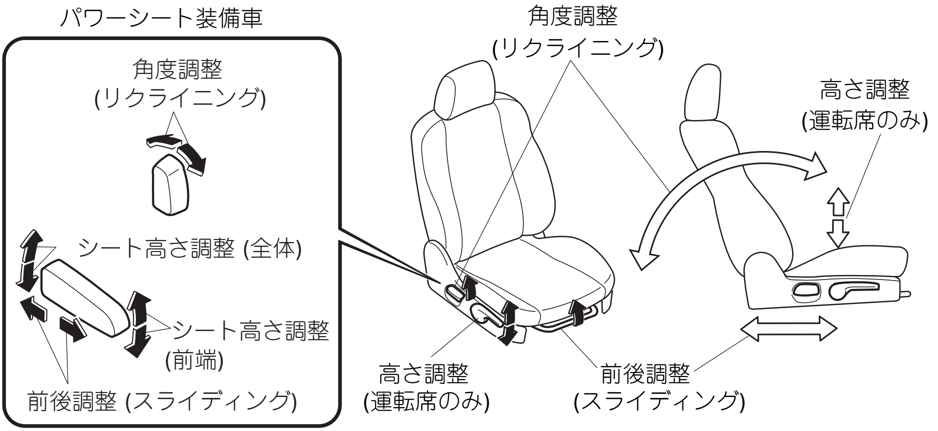
	施錠時	解錠時
非常点滅灯/チャイム	1回作動	2回作動

電源ポジションがONのときは、以下の条件が揃ったときのみ電磁式オープナーを使って、リヤゲート/トランクを開けることができます。(セダンはアドバンストキー装着車のみ)
- ・車両が停止しているとき
- ・パーキングブレーキがかかっている（マニュアル車）か、セレクトレバーがPの位置にある(オートマチック車)とき

詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

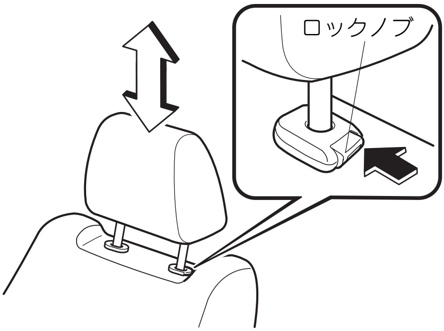
シート、ヘッドレスト、シートベルト、ハンドル、ミラーの調整

● シート



● ヘッドレスト

フロントシート

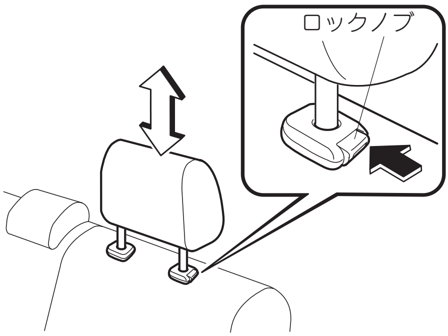


ヘッドレストの中央が耳の高さにくる位置に調整します。

■ 高くするとき
そのまま引き上げます。

■ 低くするとき
ロックノブを押したまま下げます。

リヤシート



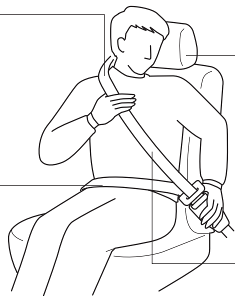
■ 使用するとき
ロック位置まで引き上げます。

■ 使用しないとき
ロックノブを押したまま下げます。

詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

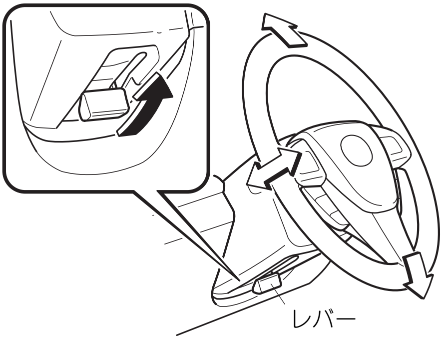
運転する前に

● シートベルト



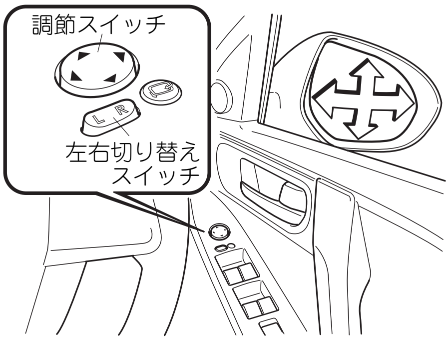
● ハンドル

レバーを持ち上げて、ハンドルを適切な位置に調節し、調節後は、レバーを下げて固定します。

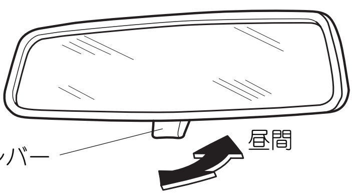


● ドアミラー

1 左右切り替えスイッチを押します。
2 調節スイッチを押して、角度を調節します。



● ルームミラー

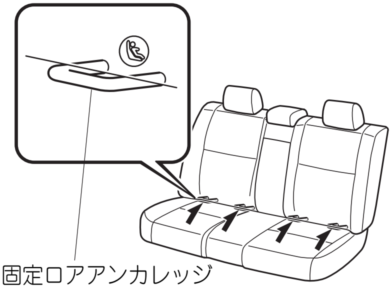


夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いて切り替えます。
なお、オートタイプは電源ポジションがONのとき、後続車からのヘッドランプの光を自動で軽減します。

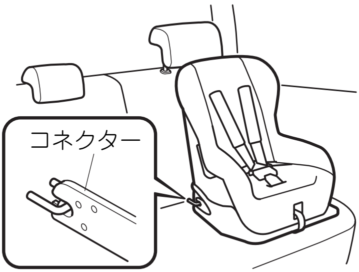
詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

・リヤシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
・お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使用してください。選択の目安表は本文を参照してください。

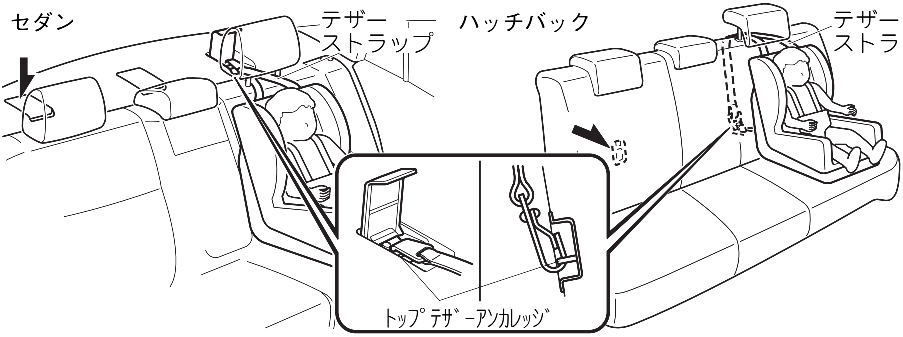


1 お子さま専用シートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
2 フロントおよびリヤシートが確実に固定されていることを確認してください。
3 リヤシートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。



4 ヘッドレストを引き上げます。
5 チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。

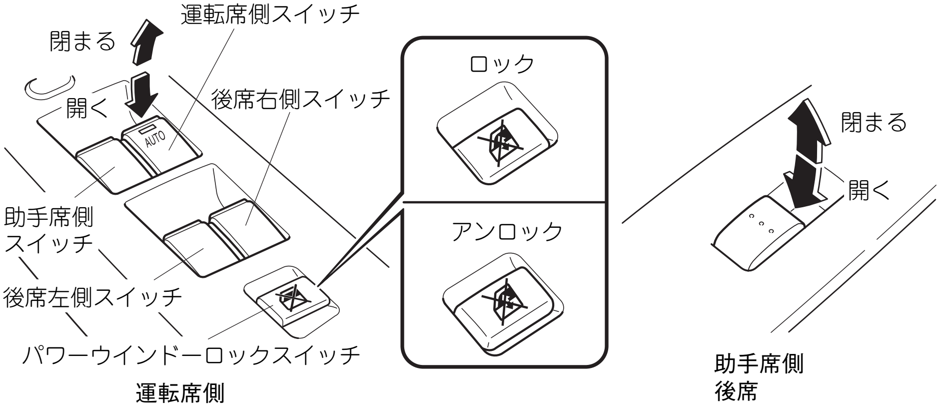
6 チャイルドシートのテザーストラップを下記イラストのように通して、トップテザーアンカレッジにかけます。



7 テザーストラップがたるまないように調節します。
8 チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

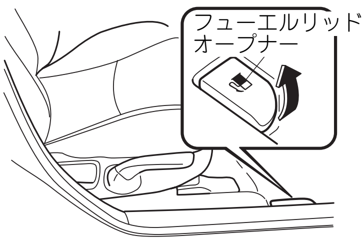
窓ガラスの開閉



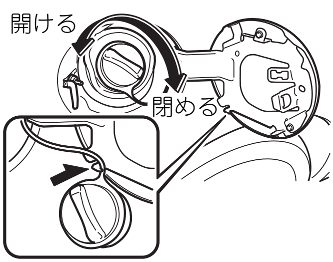
スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。
助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。

給油するとき

使用燃料	MZR 2.3 DISI Turbo 以外	無鉛レギュラーガソリン
	MZR 2.3 DISI Turbo	無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン
タンク容量 (参考値)	MZR 2.3 DISI Turbo 以外	55L
	MZR 2.3 DISI Turbo	60L



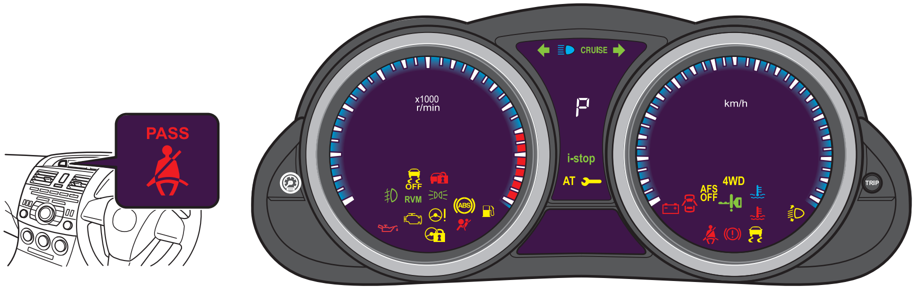
1 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引くとフューエルリッドが開きます。



2 取りはずしたキャップはフューエルリッドの内側にかけます。
キャップを閉めるときは、カチッ、カチッと2回以上音がするまで締め付けてください。

詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

警告灯/表示灯配置図



	ブレーキ警告灯
	故障警告表示灯
(ABS)	ABS警告灯
	充電警告灯
	油圧警告灯
	エンジン警告灯
	高水温警告灯 (赤)
i-stop	i-stop警告灯 (橙)
	i-stop表示灯 (緑)
RVM	RVM警告灯 (橙)
	RVM表示灯 (緑)
4WD	4WD警告灯
AT	オートマチックトランスミッション警告灯
	電動パワーステアリング警告灯
	エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯
	燃料残量警告灯
	シートベルト警告灯
PASS	

	半ドア警告灯
	KEY警告灯 (赤)
	KEY表示灯 (緑)
	電動ハンドルロック警告灯
	TCS/DSC作動表示灯
OFF	DSC OFF表示灯
AFS OFF	AFS OFF表示灯
	ヘッドランプオートレベリング警告灯
	低水温表示灯 (青)
P	セレクトレバー位置表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯
	方向指示/非常点滅表示灯
	セキュリティ表示灯
CRUISE	クルーズメイン表示灯 (橙)
	クルーズコントロール表示灯 (緑)
	車幅灯表示灯
	フォグランプ表示灯

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

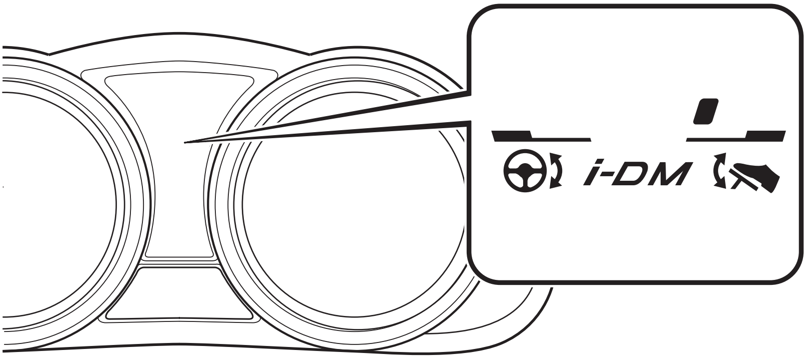
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

● i-DMとは

「i-DM」はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得/向上をサポートします。

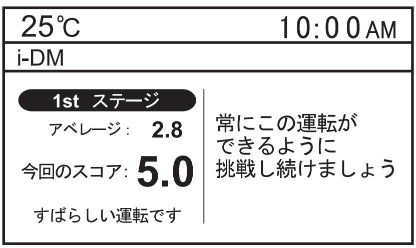
● インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の適正状態を診断し、ランプ及びゲージを通じてドライバーにリアルタイムに結果を知らせます。



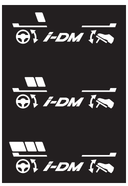
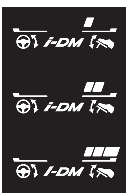
● i-DM表示

運転終了後、電源ポジションをONからOFFにしたとき、今回のスコアに応じて、文字による運転評価メッセージとワンポイントアドバイスを一定時間表示します。 (ティーチング機能)



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

運転操作の状況は、次のように表示されます。(コーチング機能)

ランプの種類	点灯パターン	内容
グリーンランプ 	点灯表示	やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。
ブルーランプ 	点灯表示	しなやかな運転を示します。特に以下の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 **走行タイプ1** 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 **走行タイプ2** 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。
ホワイトゲージ 	 揺れ小 ↕ 揺れ大 ハンドル操作によって起こる体の横揺れを左側のゲージに3段階で点灯表示	体が揺れる運転を示します。やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまり良くない運転です。
	 揺れ小 ↕ 揺れ大 アクセル/ブレーキ操作によって起こる体の縦揺れを右側のゲージに3段階で点灯表示	

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

i-stop (アイ・ストップ)

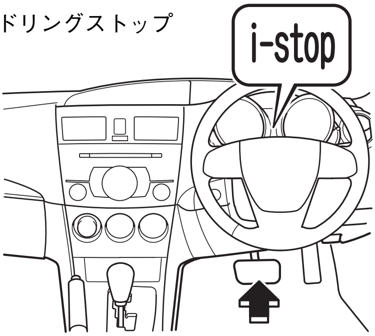
● i-stopとは

i-stopは燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで車両を停止させた時、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

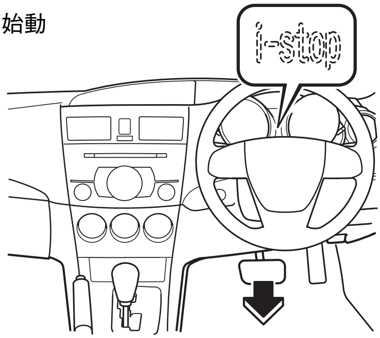
● アイドリングストップ・再始動

1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop表示灯 (緑) が点灯します。
2 走行状態 (Rレンジ以外) からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。(i-stop表示灯 (緑) はアイドリングストップ中も点灯します。)
3 ブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動し、i-stop表示灯 (緑) が消灯します。

アイドリングストップ



再始動



● i-stop表示灯/i-stop警告灯

i-stop表示灯 (緑)



アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。
ブレーキペダルを強く踏まずに停車させると、アイドリングストップせずに点滅します。

i-stop警告灯 (橙)



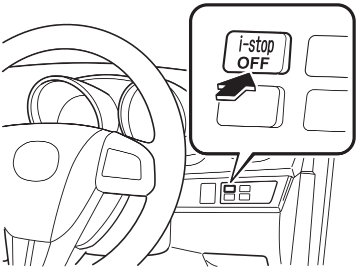
電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
i-stop OFFスイッチを押してシステムを解除すると点灯します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

● i-stop警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。

● i-stop OFFスイッチ



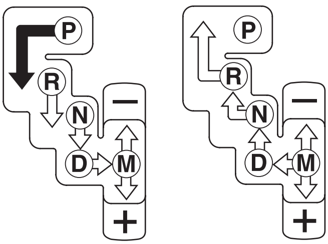
i-stopの解除
・スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
・メーター内のi-stop警告灯 (橙) は点灯します。

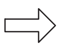
i-stopの作動
・スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
・メーター内のi-stop警告灯 (橙) は消灯します。

オートマチックトランスミッション

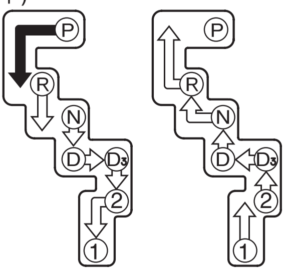
● セレクトレバーの操作

(2WD車)



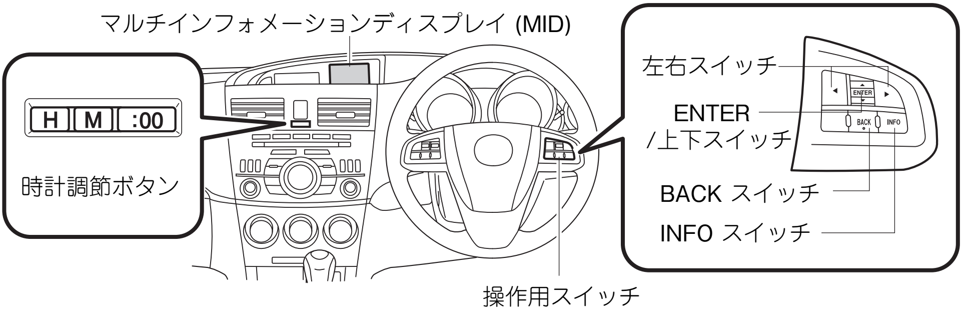
レバー操作	
	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
	ゲートにそって、そのままセレクトレバーを操作します。

(4WD車)

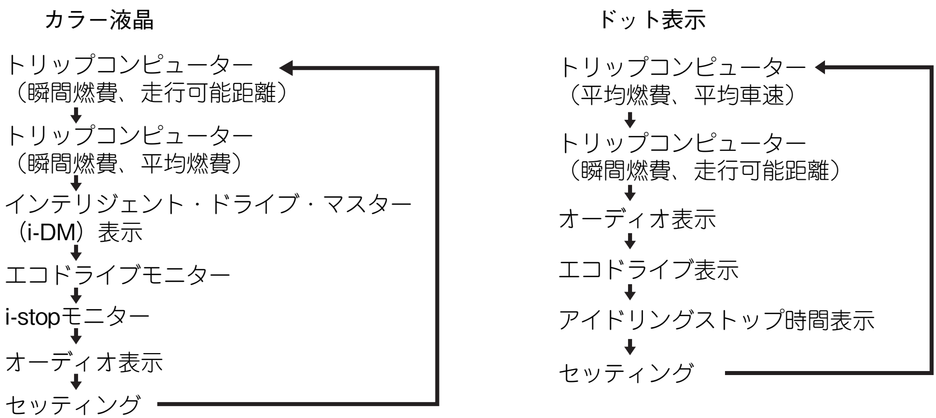


詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

マルチインフォメーションディスプレイ (MID)



マルチインフォメーションディスプレイは次の情報を表示します。
INFOスイッチを押すごとに表示を切り替えます。なお、表示内容はグレードや仕様などにより異なります。



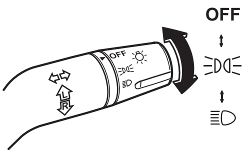
詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

スイッチの使いかた

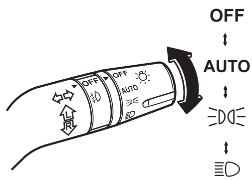
● ヘッドランプ/方向指示器

ヘッドランプ

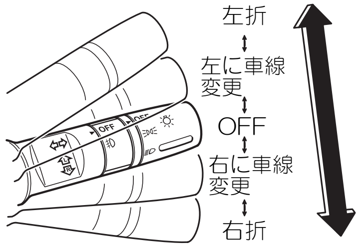
標準タイプ



オートライト機能付きタイプ



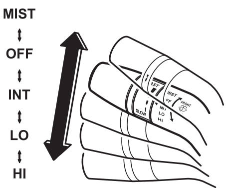
方向指示器



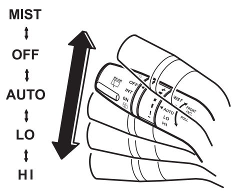
● ワイパー/ウォッシャー

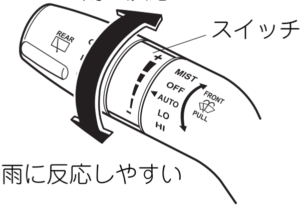
フロントワイパー

標準タイプ



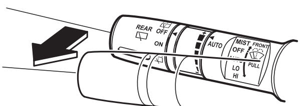
オートワイパー機能付きタイプ



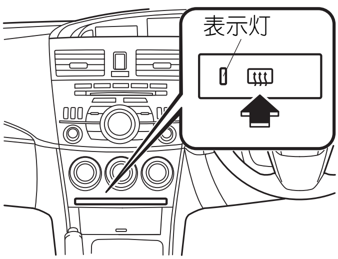


レバーをAUTO位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、ワイパーが自動で作動します。
スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

フロントウォッシャー



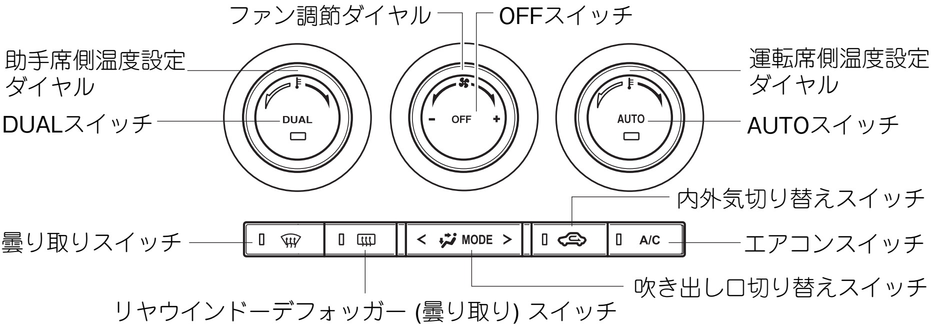
● リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ



電源ポジションがONのとき使用でき、スイッチを押すと約15分間作動します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

フルオートエアコン



●通常の使いかた

1 AUTOスイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え、吹き出し風量が自動的に調整されます。

2 温度設定ダイヤルを操作して希望温度にあわせます。
運転席と助手席の設定温度を独立して調節するときは、DUALスイッチを押す、または助手席側温度設定ダイヤルをまわして独立モードにします。

3 作動を停止したいときは、OFFスイッチを押します。

●吹き出し口の選択

上半身に送風するとき



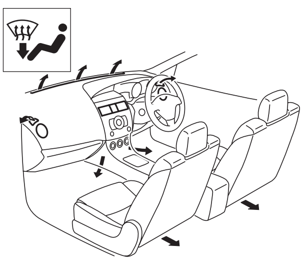
上半身、足元に送風するとき



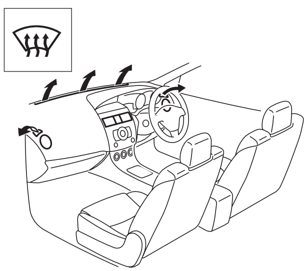
主に足元に送風するとき



足元への送風とガラスの曇りを取るとき



ガラスの曇りを取るとき



詳しくは第3章「快適装備の使いかた」をお読みください。

日常点検

日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

●運転席にすわって

- ブレーキペダルの踏みしろ (踏み込んだときの床板とのすき間)
- ブレーキの効き
- パーキングブレーキの引きしろ
- エンジンのかかり具合、異音
- アイドリングおよび加速の状態

●エンジンルームをのぞいて

- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- ウォッシャー液の量
- ブレーキ液の量
- バッテリー液の量

●全体を見まわして

- ウォッシャー液の噴射状態
- ワイパーの払拭状態
- 灯火装置および方向指示器の点灯または点滅具合、汚れ、破損
- タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常磨耗、溝の深さなど

ランプ類、電気装置が作動しない

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

詳しくは第4章「お手入れのしかた」または、
別冊のメンテナンスノート「日常点検整備のしかた」をお読みください。

トラブルが起きたら

パンクしたとき

交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動し、タイヤを交換します。
パンクした時は、タイヤパンク応急修理キットまたはスペアタイヤにより応急処置してください。

オーバーヒートしたとき

1 安全な場所に車を止めます。
2 エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。

エンジンルームから蒸気が出ているとき

エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待って、ボンネットを開け、エンジンを始動してください。

エンジンルームから蒸気が出ていないとき

エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。
電動ファンが作動していることを確認し、高水温警告灯 (赤) が消灯したらエンジンを止めます。

けん引について

けん引はできるだけマツダ販売店またはJAFなどに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

警告灯/警報チャイム

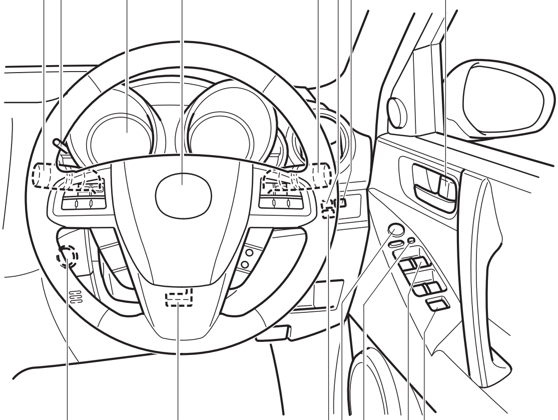
警告灯が点灯･点滅、チャイムがなったときは、本文で詳細を確認してください。解決できない場合は、マツダ販売店に連絡してください。

詳しくは第5章「トラブルが起きたら」をお読みください。

目次

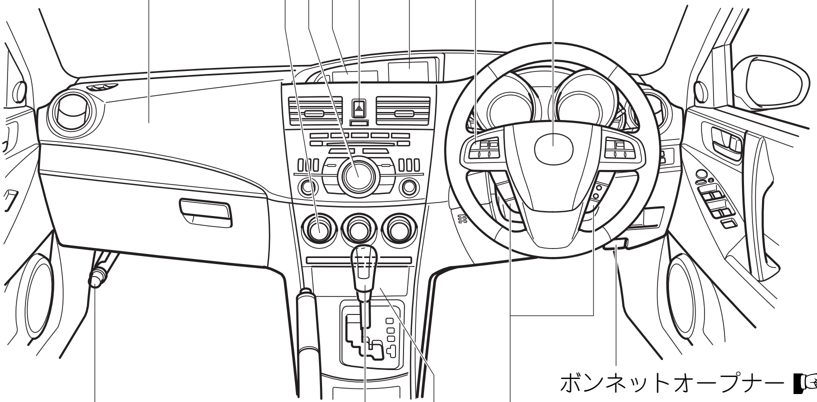
イラスト目次

ハンドルまわり



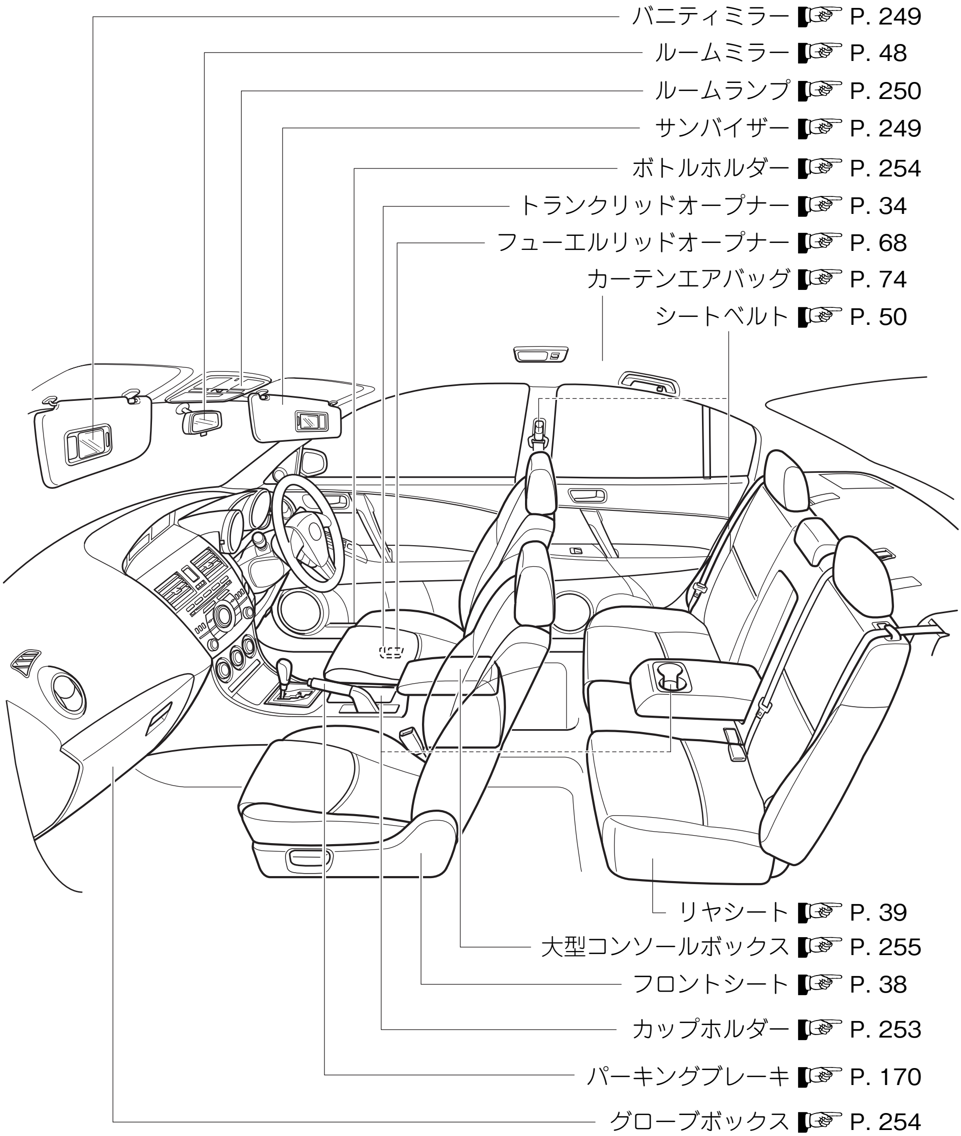
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

運転席まわり



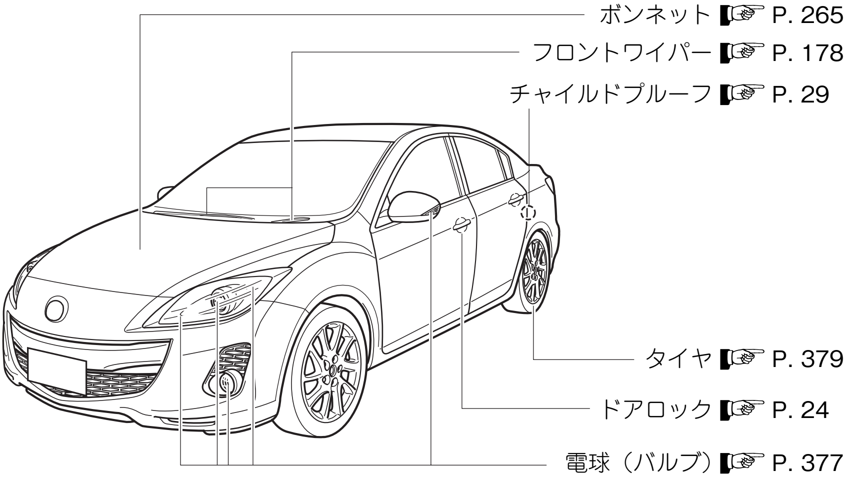
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

室内



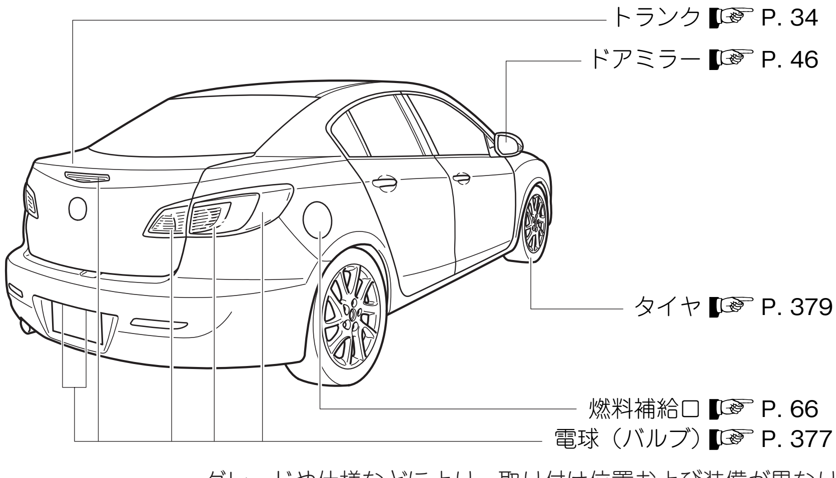
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

フロントト外観 (セダン)



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

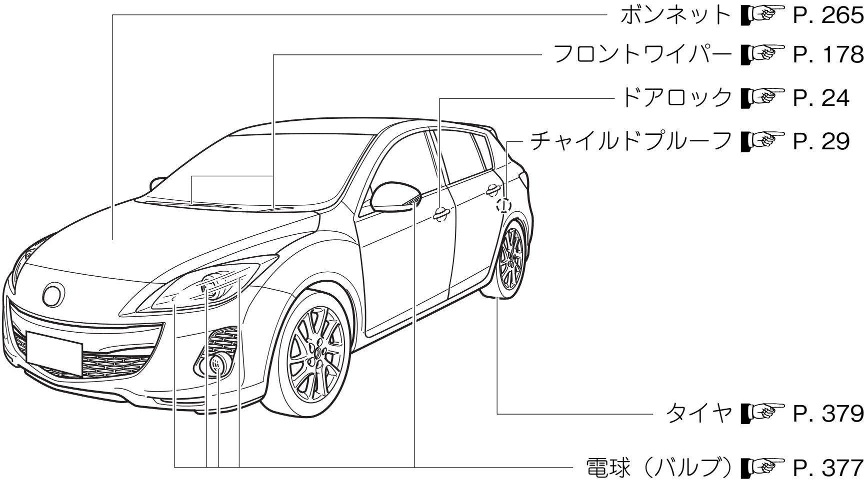
リヤ外観 (セダン)



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

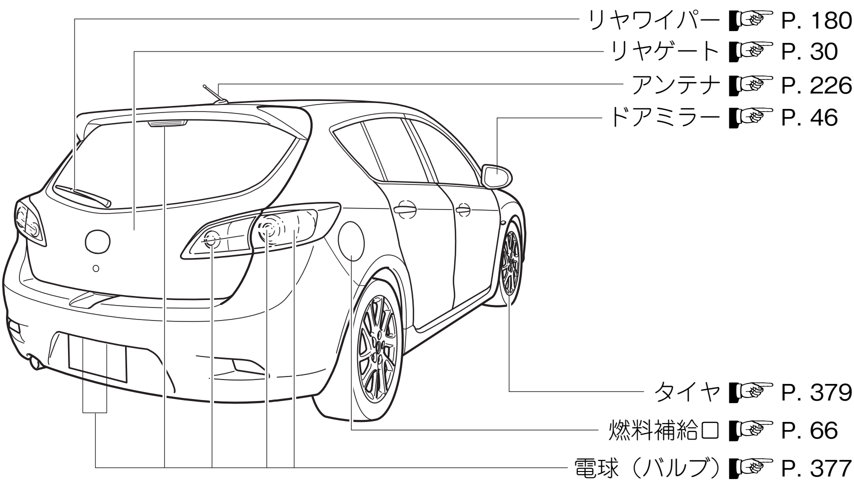
イラスト目次

フロント外観 (ハッチバック)



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

リヤ外観 (ハッチバック)



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

MEMO

詳細目次

1 運転する前に

2 運転するときに

3 快適装備の使いかた

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

1 運転する前に

安全なドライブのために

お出かけ前に

日常点検は必ず実施する

263 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

日常点検としてバッテリー液の量を定期的に点検する

272 ページの「バッテリーの点検」をよくお読みください。

日常点検としてタイヤを定期的に点検する

270 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

66 ページの「給油するとき」をよくお読みください。

燃料補給時の注意

66 ページの「給油するとき」、68 ページの「フューエルキャップの開閉」をよくお読みください。

荷物を積むときは固定する

30 ページの「リヤゲートの開閉」をよくお読みください。

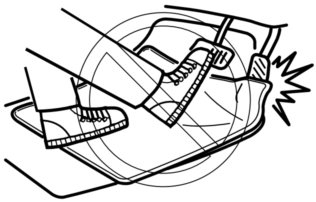
可燃物、危険物は積まない

燃料のはいった容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると、ペダルを正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットは車に合ったものを使用する



車に合ったものを、フロアカーペットの上にしっかり固定して使用してください。フロアマットを敷くときは次の点を守ってください。

- 大きすぎるフロアマットは使用しない
- フロアマットは重ねて使用しない

フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

正しい運転姿勢に調節する

37 ページの「正しい運転姿勢」をよくお読みください。

シートベルトは全員着用する

51 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」をよくお読みください。

外気取り入れ口をふさがない

214 ページの「エアコンを使用する前に」をよくお読みください。

お子さまを乗せるとき

お子さまはリヤシートに乗せる

56 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

お子さまにもシートベルトを着用させる

51 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」、74 ページの「エアバッグの注意点」をよくお読みください。

安全なドライブのために

チャイルドシートは正しく取り付ける

56 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

ドア、窓ガラスの開閉は大人が操作する

24 ページの「ドアの開閉」、29 ページの「チャイルドプルーフの使いかた」をよくお読みください。

窓から手や顔を出させない

63 ページの「窓ガラスの開閉」をよくお読みください。

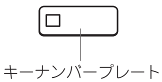
安全装備について

SRS エアバッグシステムの注意

73 ページの「SRS エアバッグシステム」をよくお読みください。

キーについて

キーナンバープレート

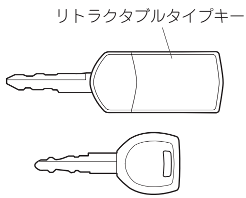


お客様以外のかたにキーナンバーを知られないために、キーナンバープレートにキーナンバーを打刻しています。

知識

- **保管するときは**
  キーナンバープレートは車両以外の安全な場所に、大切に保管しておいてください。
- **紛失したときは**
  万一、キーを紛失したときは、マツダ販売店でキーナンバーをもとにキーを作ることができます。マツダ販売店にご相談ください。

リトラクタブルタイプキー



キーはエンジンの始動 / 停止のほかにドア、リヤゲートの施錠 / 解錠に使用します。キーは 2 本あります。

注意

必ず守る

リモートコントローラーは次のようなことに注意してください。故障につながるおそれがあります。

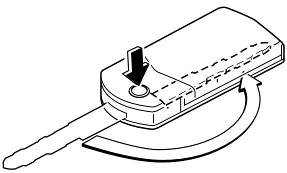
- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **分解しないでください。**
- **直射日光が当たる所や、高温になる所に放置しないでください。**

キー

知識

- **リモートコントローラーの紛失について**
  リモートコントローラーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。
- **リモートコントローラーを追加するときは**
  別売りのリモートコントローラーを購入される場合、お手持ちのコントローラーとあわせて、同じ車両で 3 個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

リトラクタブルタイプキーは、キーとリモートコントローラーが一体となっています。キーを使わないときは、キー部分を格納することができます。

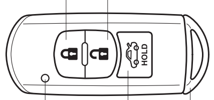


1 ボタンを押してキーを回します。
2 キーを収納するときは、ボタンをはなした後、カチッと音がするまでキーを押し込みます。

アドバンストキー

知識

アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。

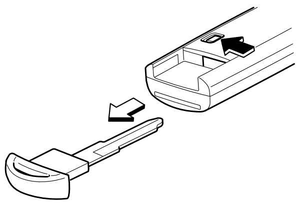


アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム機能はキーを取り出すことなく、エンジンの始動 / 停止のほかにドア、リヤゲート / トランクの施錠 / 解錠ができます。アドバンストキーは 2 本あります。

補助キー

アドバンストキーに内蔵されています。

補助キーの取りはずしかた



キー

アドバンストキーの注意点

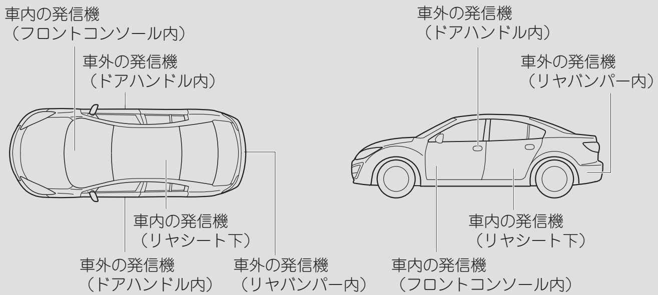
警告

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方へ

禁止

車内・車外の発信機から約 22cm 以内に医療用機器を近づけない。

電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



必ず守る

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用機器を使用している方は、アドバンストキーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバンストキーレスエントリー＆プッシュボタンスタートシステム機能を作動させないようにすることもできます。

i-stop 装備車は機能を作動させないようにすると、アイドリングストップ機能は作動しません

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

アドバンストキーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはアドバンストキーが正常に作動しないことがあります。

- 携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
- 金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
- パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
- 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
- 近くに電波を発する設備があるとき

アドバンストキーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないで下さい。

アドバンストキーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- 強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 重い物を上に置かないでください。
- 直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。
- 磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。
- システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。

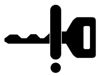
航空機内ではアドバンストキー / リモートコントローラーを操作しないでください。アドバンストキー / リモートコントローラーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、アドバンストキー / リモートコントローラーのスイッチが容易に押されないように注意して下さい。

キー

知識

- **電池の寿命について**

  電池の寿命は、約 1 年程度です。メーターに KEY 表示灯 (緑) が点滅した場合は、新しい電池と交換してください。



- **アドバンストキーの紛失について**

  アドバンストキーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。

- **アドバンストキーを追加するときは**

  別売りのアドバンストキーを購入される場合、お手持ちのコントローラーとあわせて、同じ車両で 6 個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

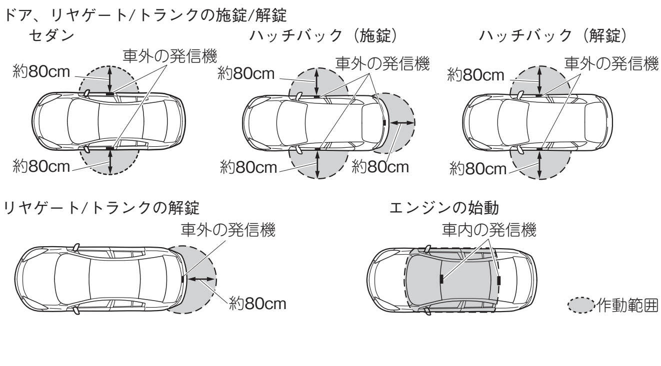
アドバンストキーレスエントリー＆プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作

アドバンストキーの作動範囲

アドバンストキーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

知識

- 次の場合、アドバンストキーの作動範囲がせまくなったり、作動しない場合があります。
  - 電池が消耗しているとき
  - 強い電波、ノイズのある場所
  - 窓ガラスやドアハンドル、リヤゲートに近づきすぎた場合
- 次のような場所にアドバンストキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - リヤパッケージトリムの上 (セダン)
- 荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
  車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。
- 作動範囲内にアドバンストキーを検知すると、作動表示灯がしばらくの間点滅します。



運転する前に
運転するときに
室内装備の使い方
お手入れのしかた
トラブルが起きたら
車両スペック
さくいん

ドア

ドアの開閉

同時にすべてのドア、リヤゲート / トランクの施錠 / 解錠ができます。

警告

必ず守る **ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認する。**
半ドアのまま走行すると、走行中に不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **お子さまにドアの開閉をさせない。**
手、足、首などをはさみ重大な傷害につながるおそれがあります。

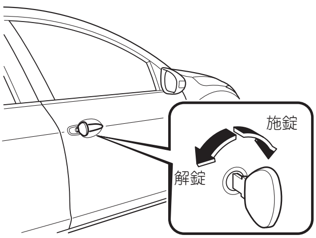
注意

必ず守る 強風時にドアを開閉するときは､注意して開閉してください。ドアが風にあおられると､思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

車から離れるときは
必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

キー / 補助キーによる施錠 / 解錠



運転席ドアに、キーまたは補助キーを差し込み、まわすとすべてのドア、リヤゲート / トランクの施錠 / 解錠ができます。

アドバンストキーによる施錠 / 解錠

リクエストスイッチ

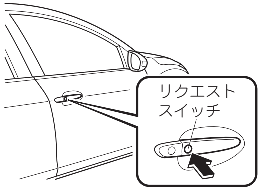
アドバンストキーを携帯し、フロントドアまたはリヤゲートのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リヤゲート / トランクが施錠 / 解錠します。

知識

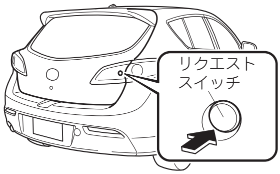
施錠について

いずれかのドアまたはリヤゲートが開いていると施錠できません。

フロントドア



リヤゲート（施錠のみ）



■ 施錠するとき
リクエストスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。

■ 解錠するとき
リクエストスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

ドア

知識

- リクエストスイッチで施錠した後は、ドア、リヤゲート / トランクが確実に施錠されたことを確認してください。
- リクエストスイッチを押さずに、自動的に施錠するように設定を変えることができます。

  オートロック機能

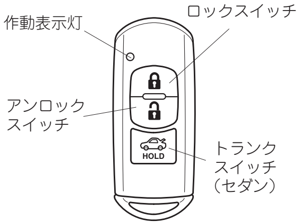
  アドバンストキーを携帯してすべてのドア、リヤゲート / トランクを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると約 3 秒後に自動的に全ドア、リヤゲート / トランクを施錠します。(作動範囲から出ない場合でも約 30 秒後に自動的に施錠します。) ただし、以下のようなときは施錠されません。
  - 車内に別のアドバンストキーがあるとき。
  - ドア、リヤゲート / トランクが完全に閉まる前に作動範囲を出たとき。
- リクエストスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - ドアまたはリヤゲート / トランクを開ける。
  - 補助キーをキースロットに差し込む。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。
- リクエストスイッチを押してからドアが解錠されるまでに数秒かかることがあります。

リモートコントロール機能

リモートコントロール機能を使用すると、車の周囲 1m 以内ですべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。
スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- 次の場合はリモートコントロール機能は作動しません。
  - キースロットに補助キーを差し込んでいるとき
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているとき
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。



■ 施錠するとき
ロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。

■ 解錠するとき
アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

知識

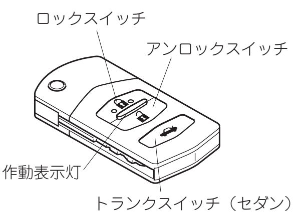
- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - ・ドアまたはリヤゲート / トランクを開ける。
  - ・補助キーをキースロットに差し込む。
  - ・電源ポジションを OFF 以外にする。

リトラクタブルタイプキーによる施錠 / 解錠

リトラクタブルタイプキーを使用すると、車の周囲 1m 以内ですべてのドア、リヤゲート / トランクの施錠 / 解錠ができます。
スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- 次の場合はキーレスエントリーシステムは作動しません。
  - ・エンジンスイッチにキーを差し込んでいるとき
  - ・いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているとき
- キーレスエントリーシステムの作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。



ドア

■ 施錠するとき
ロックスイッチを押します。
非常点滅灯が 1 回作動します。

■ 解錠するとき
アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯が 2 回作動します。

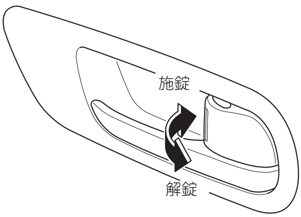
ドア

知識

● **作動のお知らせについて**
- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- ロックスイッチまたはアンロックスイッチを連続して押すと、非常点滅灯が不規則に点滅することがあります。

● アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内にドアまたはリヤゲート / トランクを開けなかった場合、自動的に施錠されます。

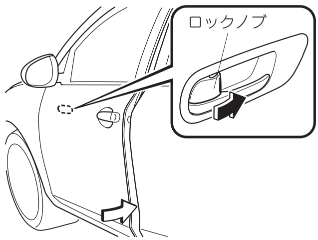
ロックノブによる施錠 / 解錠



運転席ドアのロックノブを操作します。すべてのドア、リヤゲート / トランクの施錠 / 解錠ができます。

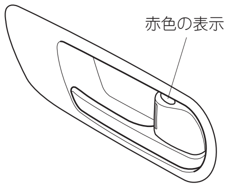
車外から操作するとき

車内のロックノブを施錠側にし、ドアを閉めるだけで施錠できます。



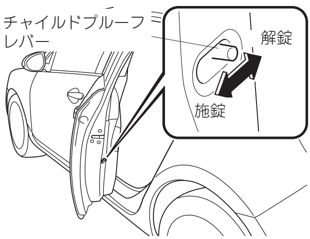
知識

- 運転席ドアはキーの閉じ込みを防止するために、この方法では施錠できません。
- キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
- ロックノブを解錠しているときは赤色の表示が見えます。



チャイルドプルーフの使いかた

お子さまをリヤシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。



チャイルドプルーフレバーを施錠側にしてドアを閉めると、ロックノブの位置に関係なく、車内からはリヤドアを開けることができません。
ドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にし、車外のドアハンドルを引いてください。

リヤゲート

リヤゲートの開閉

警告

禁止

荷室内に人を乗せない。
急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

リヤゲートは必ず閉めてから走行する。
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

必ず守る

荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。
走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

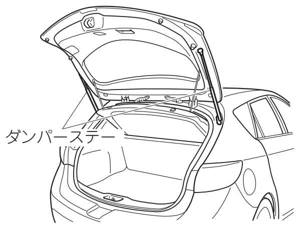
注意

必ず守る

荷室の荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。

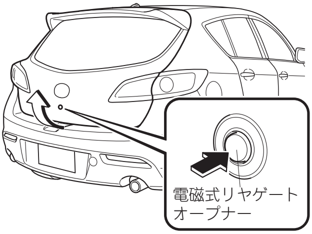
禁止

リヤゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リヤゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。



リヤゲートの施錠 / 解錠はドアと連動しています。

リヤゲートを開けるとき



ドアを解錠し、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを持ち上げます。

アドバンストキー装備車はアドバンストキーを携帯して電磁式リヤゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリヤゲートを開けることができます。

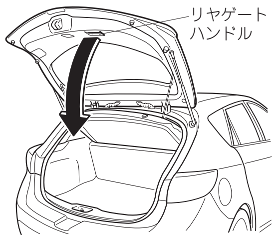
電源ポジションがONのときは、車両が停止し、パーキングブレーキがかかっている(マニュアル車)か、セレクトレバーがPの位置にある(オートマチック車)ときのみ、リヤゲートを開けることができます。

知識

- アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能を使ってリヤゲートを開けるときは、電磁式リヤゲートオープナーを押してからすぐに解錠されないことがあります。
- 電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けずに一定の時間が経過するとリヤゲートが少し浮いた状態のままリヤゲートを開けることができなくなります。
  - **リヤゲートを開ける場合**
    もう一度、電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けてください。
  - **リヤゲートを閉める場合**
    一度、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを開け、1秒以上待ってから閉めてください。
- ドアが施錠されている状態から、車内にアドバンストキーを入れたままリヤゲートを閉めると、リヤゲートは閉まりますが、ロックされません。電磁式リヤゲートオープナーを押すことにより、リヤゲートを開けることができます。
- 電磁式リヤゲートオープナーを押してから2～3秒後、ラッチの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- リヤゲートを閉めた直後は、アドバンストキーの車内閉じ込み確認のため、1～2秒間はリモートコントロール機能を使用してリヤゲートを開けることができない場合があります。

リヤゲート

リヤゲートを閉めるとき



リヤゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。リヤゲートハンドルを使用すると便利です。

⚠ 警告

必ず守る

リヤゲートを閉めたあとは、確実にロックされていることを確認する。

走行中にリヤゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

必ず守る

リヤゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

トノカバーの使いかた グレード/仕様別装備

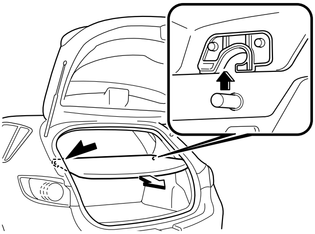
⚠ 注意

- トノカバーの上に重い荷物を置くなどして、無理な力をかけないでください（最大荷重約 5kg）。無理な力がかかると、トノカバーが変形または、損傷するおそれがあります。また、リヤゲートが下がり、けがをするおそれがあります。（必ず守る）
- トノカバーが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま使用すると、走行中不意にトノカバーがはずれて、けがをするおそれがあります。（必ず守る）



ストラップをリヤゲートのフックにかけておくと、リヤゲートと同時に開閉します。

トノカバーを取り外すとき



フックからストラップをはずし、トノカバー全体を手前に引きます。

トランク

トランクの開閉

⚠ 警告

禁止
トランクルーム内に人を乗せない。
トランクルームに閉じ込められると中から開けません。また、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る
トランクリッドは必ず閉めてから走行する。
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

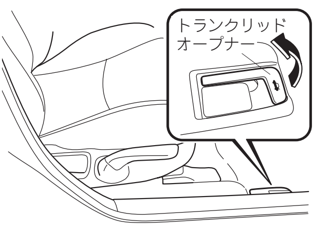
⚠ 注意

必ず守る
荷室の荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。

禁止
トランクリッドを開けるときは、トランクリッドを全開にしてください。トランクリッドを途中で止めると、振動や突風などでトランクリッドが閉まり、けがをするおそれがあります。

トランクを開けるとき

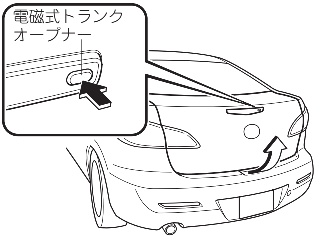
車内から開けるとき



運転席右下にあるトランクリッドオープナーを引き上げます。

車外から開けるとき

電磁式トランクオープナーの操作による開けかた (アドバンストキー装備車)



ドアを解錠し、電磁式トランクオープナーを押しトランクを持ち上げます。

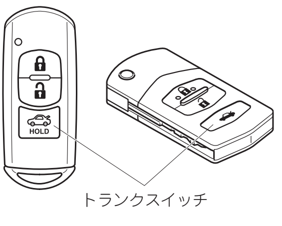
アドバンストキーを携帯して電磁式トランクオープナーを押すと、施錠されている状態でもトランクを開けることができます。

電源ポジションが ON のときは、車両が停止し、パーキングブレーキがかかっている (マニュアル車) か、セレクトレバーが P の位置にある (オートマチック車) ときのみ、トランクを開けることができます。

知識

- アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム機能を使ってトランクを開けるときは、電磁式トランクオープナーを押してからすぐに解錠されないことがあります。
- ドアが施錠されている状態から、車内にアドバンストキーを入れたままトランクを閉めると、トランクは閉まりますが、ロックされません。電磁式トランクオープナーを押すことにより、トランクを開けることができます。
- トランクを閉めた直後は、アドバンストキーの車内閉じ込み確認のため、1 ～ 2 秒間はリモートコントロール機能を使用してトランクを開けることができない場合があります。

リモートコントロール機能による開けかた



トランクスイッチを約 1 秒押すと開きます。

トランク

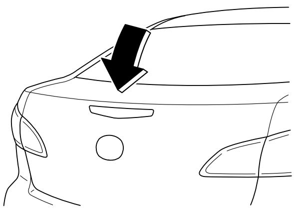
トランクルームランプ

トランクリッドを開けると、トランクルームランプが点灯します。

知識

エンジンを停止しているときに、トランクを長時間開けたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

トランクを閉めるとき



トランクリッドをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。

警告

必ず守る

トランクリッドを閉めたあとは、トランクリッドをゆさぶって確実にロックされていることを確認する。

走行中にトランクリッドが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

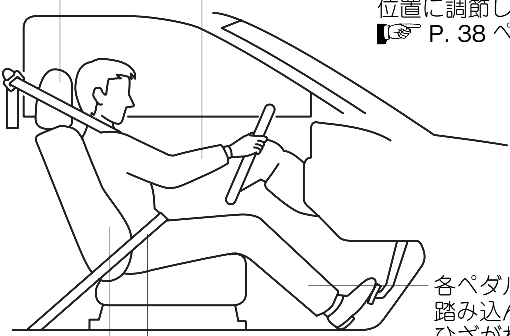
注意

必ず守る

トランクリッドを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調整してください。



⚠ 警告

シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。（必ず守る）
走行中に行なうと、運転姿勢が不安定になったり、前方不注意になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。（禁止）
正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれは必要以上に倒さない。（禁止）
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に物を置かない。（禁止）
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シート

⚠ 注意

必ず守る　シートを調整する際は、調整する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

フロントシートの調節

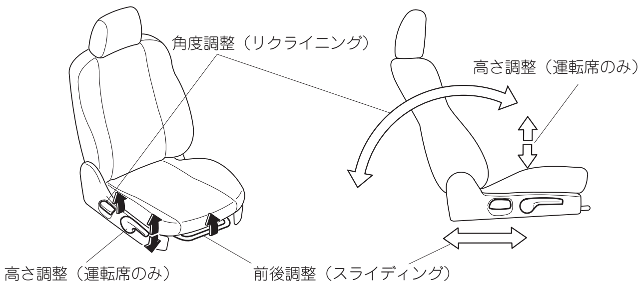
⚠ 警告

必ず守る　**操作後は確実にロックされていることを確認する。**
走行中シートが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

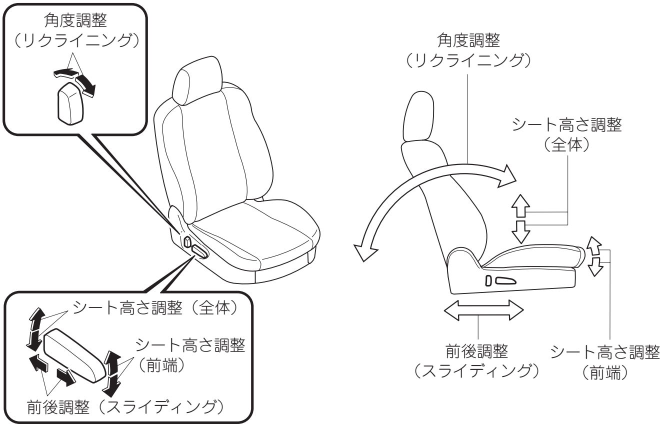
⚠ 注意

必ず守る　後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

マニュアルシートの使いかた

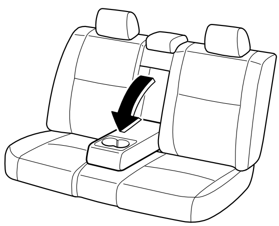


パワーシートの使いかた



リヤシートの操作

アームレストの使いかた



前に倒して使用します。

荷室を作るとき

リヤシートの背もたれを倒すと荷室として広げることができます。

シート

⚠ 警告

禁止

倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて走行しない。
シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

背もたれを倒した車内でお子さまを遊ばせない。
お子さまがトランク / ラゲッジルーム内に入り、背もたれがもどった場合、トランク / ラゲッジルーム内に閉じ込められるため思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定する。
固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

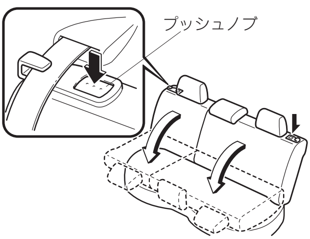
荷物を運ぶときは、シート背もたれの高さを越えないようにする。
後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

背もたれを折りたたむとき

⚠ 注意

必ず守る

背もたれを前に倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、プッシュノブを押す指などにけがをするおそれがあります。



プッシュノブを押して背もたれを前に倒します。

もとにもどすとき

⚠ 警告

必ず守る

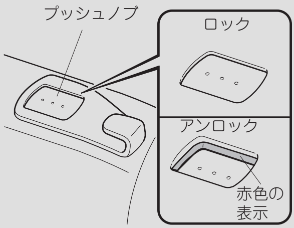
背もたれをもとにもどすときは、3点式シートベルトがはさまれていないことを確認する。

シートベルトが背もたれにはさまれた状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

背もたれをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認する。

プッシュノブ後部に赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



背もたれを後ろに押しつけロックさせます。背もたれをもとの位置にもどした後は、確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレストの使いかた

すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

ヘッドレストを調節するとき

⚠ 警告

禁止

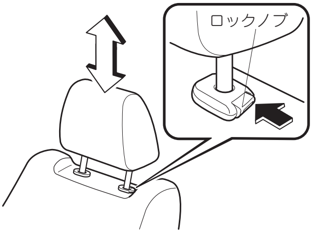
高さを調整しないままで走行しない。

高さを調整しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、ハッチバックの全ての後席とセダンの中央席ヘッドレストは引き上げた状態で使用してください。

シート

ヘッドレストの中央が耳の高さにくる位置に調整します。

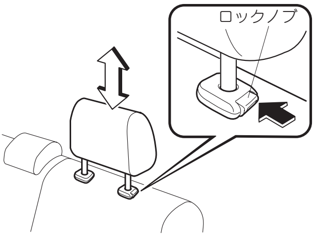
フロントシート



■ 高くするとき
そのまま引き上げます。

■ 低くするとき
ロックノブを押したまま下げます。

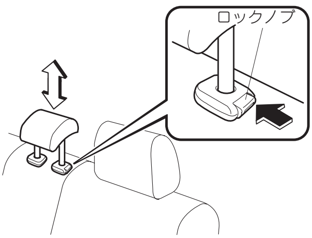
リヤシート左右席



■ 使用するとき
ロック位置まで引き上げます。

■ 格納するとき
ロックノブを押したまま下げます。

リヤシート中央席



■ 使用するとき
ロック位置まで引き上げます。

■ 格納するとき
ロックノブを押したまま下げます。

ヘッドレストを脱着するとき

■ ヘッドレストを取りはずすとき
ロックノブを押しながら引き上げます。

■ ヘッドレストを取り付けるとき
ロックノブを押しながら差し込みます。

⚠ 警告

禁止

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。

取りはずした状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認するため、持ち上げる。

ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、効果を発揮できず、思わぬけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

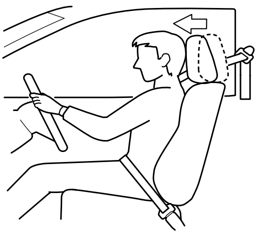
必ず守る

ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きをまちがえて取り付けると、衝突時などにヘッドレストがはずれ、けがをするおそれがあります。

必ず守る

フロントシート・リヤシートそれぞれのヘッドレストは、各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。

アクティブヘッドレスト



フロントシートには、アクティブヘッドレストが装備されています。
アクティブヘッドレストは、万一の追突時に、背もたれが乗員を受け止める力を利用してヘッドレストが瞬時に前方へ移動することで、頭部の過度な後方向への傾きを防ぎ、首への負担を軽減します。また、アクティブヘッドレストは、むち打ち症が多く発生するといわれている低速から中速での追突時に効果を発揮します。

⚠ 警告

禁止

背もたれやヘッドレストにテレビなどの用品を取り付けない。

また、背もたれのポケットに重い荷物や厚手の雑誌、地図帳などを入れないでください。万一追突された時にアクティブヘッドレストの効果が損なわれるおそれがあります。

シート

知識

- アクティブヘッドレストは、追突された時作動します。その後は、もとの位置に戻ります。
- アクティブヘッドレスト調節方法は、通常のヘッドレストと同じです。正しく調節してください。

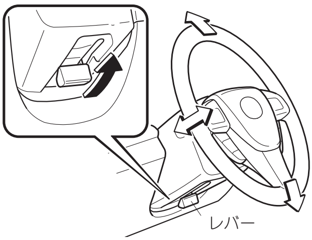
ハンドルの調節

⚠ 警告

調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
必ず守る
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。
必ず守る
走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドル操作が適切にできる位置に調節することができます。



1 レバーを持ち上げて、ハンドルを適切な位置に調節します。
2 調節後は、レバーを下げて固定します。

ドアミラー

ドアミラーの操作

⚠ 警告

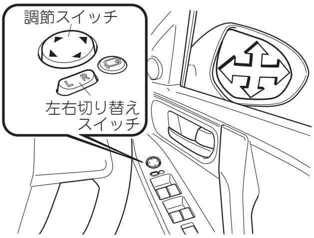
必ず守る

調節は走行前に行なう。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラーの角度調節

電源ポジションが ACC または ON のとき調節ができます。



1 左右切り替えスイッチの右側 (運転席側) または左側 (助手席側) を押します。

2 調節スイッチを押して、後方が十分確認できるように調節します。

3 ミラーの調節後は、左右切り替えスイッチを中立位置にもどします

ドアミラーを格納するとき

⚠ 注意

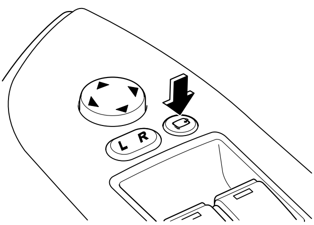
禁止

ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。

⚠ 注意

必ず守る

電動格納ミラーはスイッチで操作してください。手動で操作すると、ミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。



電源ポジションが ACC または ON のときに格納できます。
格納スイッチを押すと格納されます。
もう一度押すともとにもどります。

キー OFF 後作動機構

ドアミラーは、電源ポジションを ON から OFF にした後でも、約 40 秒間は角度調節や格納することができます。

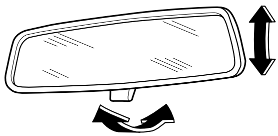
ルームミラー

ルームミラーの操作

警告

調節は走行前に行なう。
必ず守る
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

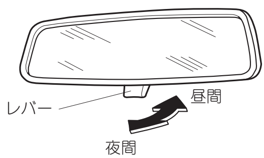
ルームミラーの角度 / 高さ調節



ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように調整します。

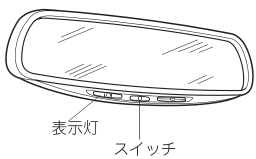
後続車のヘッドランプがまぶしいとき

マニュアルタイプ



通常はレバーを押した状態にします。
夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いて切り替えます。

オートタイプ

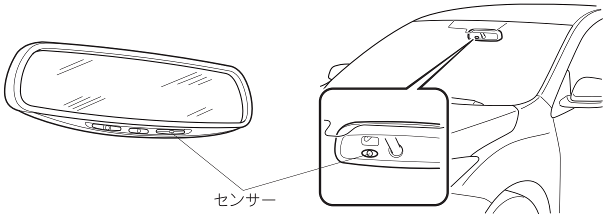


電源ポジションが ON のとき、後続車からのヘッドランプの光を自動で軽減します。
スイッチを押す毎に ON、OFF が切り替わります。
スイッチが ON のときは表示灯が点灯します。

知識

<u>センサーについて</u>

センサーをガラスクリーナーでふいたり、ステッカーやカバーなどで覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



電源ポジションが ON のときチェンジレバーを R にいれると防眩機能は停止します。

シートベルト

シートベルトの種類

シート	シートベルトの機構
フロントシート	プリテンショナー & ロードリミッター機構付 ELR (緊急時固定) 3 点式シートベルト
リヤシート左右席	ELR (緊急時固定) 3 点式シートベルト
リヤシート中央席	

警告

必ず守る

シートベルトは正しく着用する。

正しく着用していないと、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- **プリテンショナー機構について**
  - 車両前方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
  - プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- **事故などにあったときは**

  プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

ELR (緊急時固定) 機構

3 点式シートベルトには ELR (緊急時固定) 機構が装備されています。
シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー機構

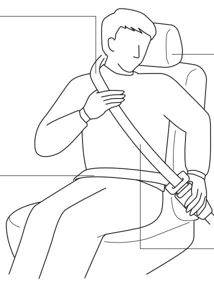
フロントシートベルトには、プリテンショナー機構が装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

ロードリミッター機構

ロードリミッターは、車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。
運転席 / 助手席シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

シートベルトの正しい着用のしかた

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



⚠ 警告

着用について

必ず守る
シートベルトは全員が着用する。
着用しないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る
シートベルトは正しく着用する。
急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されないため車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る
お子さまを乗せる際は、必ずお子さま専用シートを使用する。
シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。

シートベルト

警告

禁止

1つのシートベルトを同時に2人以上で使用しない。

2人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

シートベルトの改造や交換をしない。また、クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。

万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

ベルトがねじれた状態で使用しない。

ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

禁止

肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。

ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

背もたれは必要以上に倒さない。

急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。

シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。

ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



禁止

シートベルトのバックルの中に異物を入れない。

異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

お子さまを乗せるときは

お子さまはできるだけリヤシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させる。

お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。

ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

シートベルトを分解しない。

分解すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

事故などにあったときは、衝撃でシートベルト本来の機能が損なわれているおそれがあるので、必ずマツダ販売店で点検を受ける。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

プリテンショナー機構付きベルトが装備された車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。

プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしない。

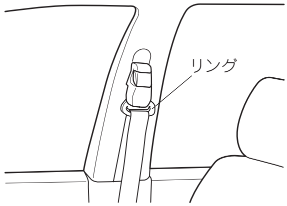
正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルト

⚠ 注意

シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。

必ず守る



3 点式シートベルト

シートベルト着用忘れチャイム

運転席 / 助手席シートベルトを着用していないまま、車速が約 20km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。(鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)
シートベルトを着用すると鳴り止みます。

シートベルトを着用するとき



1 プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。
2 ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

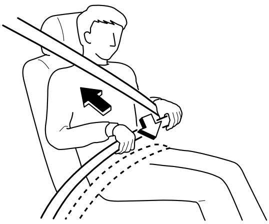
知識

ベルトがロックして引き出せないときは

一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

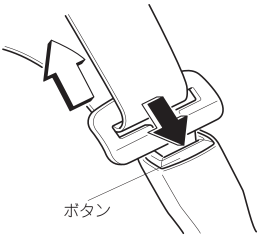


3 ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。



4 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。

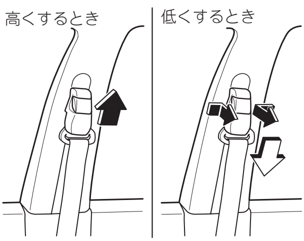
シートベルトをはずすとき



はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。

シートベルトの高さ調整

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターがついています。
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。



1 高くするときは、そのまま上に動かします。
低くするときはボタンを引いたまま下げます。

2 調節したあとは、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

お子さまの安全

お子さま専用シートについて

シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リヤシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リヤシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。
必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

⚠ 警告

必ず守る

お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。

お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

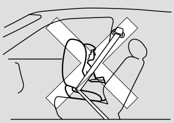
お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。

正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。

エアバッグが膨らむと、ベビーシートやチャイルドシートの背面に強い衝撃が加わり、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告ラベルが表示されています。合わせてご覧ください。





知識

ISO は International Standard Organization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シートの種類

ECE R44 の基準に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 種類に分類されます。

知識

ECE R44 は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

グループ	体重
0	10kg まで
0＋	13kg まで
I	9 ～ 18kg
II	15 ～ 25kg
III	22 ～ 36kg

本書では、シートベルト固定タイプの一般的なお子さま専用シート 3 種類について説明します。次のイラストは取り付け例です。取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
ECE R44基準のグループ
0.0+に相当



チャイルドシート
ECE R44基準のグループ
Ⅰに相当



ジュニアシート
ECE R44基準のグループ
Ⅱ、Ⅲに相当



お子さまの安全

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

警告

必ず守る

お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。
誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 (ISOFIX 対応タイプ)

質量グループ	サイズ等級	器具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート (外席)
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
		(1)	X
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
		(1)	X
0 ＋ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
		(1)	X

質量グループ	サイズ等級	器具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート (外席)
I (9 ～ 18kg まで)	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
		(1)	X
II (15 ～ 25kg まで)		(1)	X
III (22 ～ 36kg まで)		(1)	X

上表の記号について :

(1) サイズ等級識別表示 (A ～ G) のないお子さま専用シートについては、お子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。

IL ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。

X ＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。

お子さまの安全

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 (シートベルト固定タイプ)

質量グループ	着座位置 (または他の場所)		
	助手席	リヤシート (外席)	リヤシート (中央席)
0 (10kg まで)	X	U	X
0 + (13kg まで)	X	U	X
I (9 ～ 18kg まで)	X*1,2	U	X*2
II (15 ～ 25kg まで)	X*1,2	U	X
III (22 ～ 36kg まで)	X*1,2	U	X

上表の記号について :
U ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
X ＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。
*1 マツダ純正のお子さま専用シートを前向きに取り付けることができます。
*2 取り付けられるお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。

チャイルドシートを固定するとき

ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ & トップテザーアンカレッジ

リヤシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
この固定ロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート (チャイルドシート固定ロアアンカレッジ) のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、固定ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみこんでいないことなどを確認する。

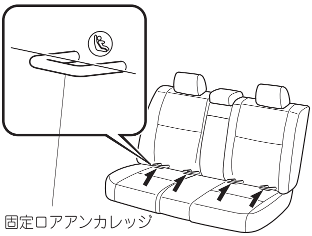
異物やシートベルトなどをはさみこむとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

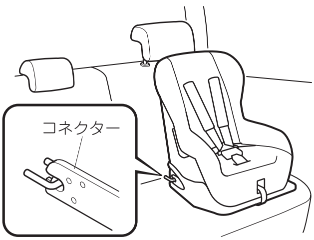
チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

1 お子さま専用シートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
→ 38 ページ「フロントシートの調節」
フロントシートが確実に固定されていることを確認してください。

2 リヤシートが確実に固定されていることを確認してください。



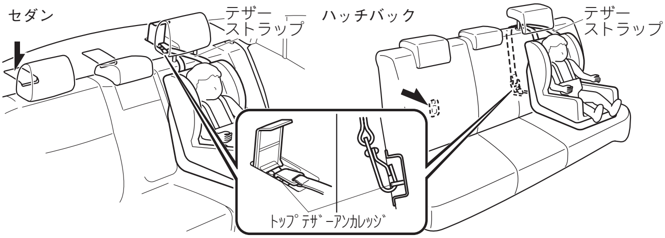
3 シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。



4 ヘッドレストを引き上げます。

5 チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。

6 チャイルドシートのテザーストラップを下記イラストのように通して、トップテザーアンカレッジにかけます。



7 テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

8 チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

警告

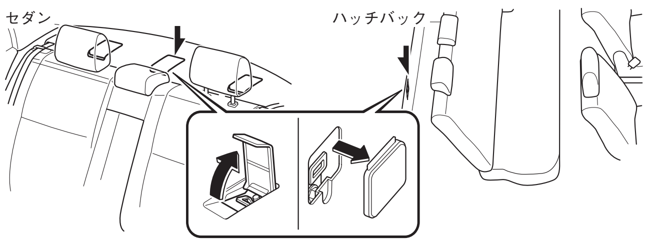
禁止

トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。

チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

中央席には固定ロアアンカレッジは装備されていませんが、トップテザーアンカレッジは装備されています。



窓ガラスの開閉

電源ポジションがONのとき、パワーウインドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。

⚠ 警告

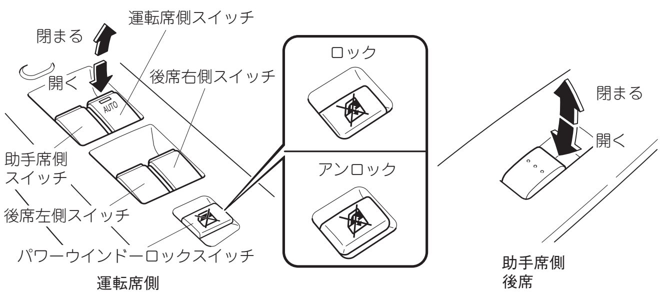
窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。（必ず守る）
特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにパワーウインドースイッチの操作をさせない。（必ず守る）
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。（必ず守る）
お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

窓から手や顔を出させない。（必ず守る）
走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してしてください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。
助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。



ウインドー

便利な装備について

自動開閉機構

運転席に装備しています。
スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

知識

自動で全開 / 全閉できないときは

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき、または全開 / 全閉したあとも、スイッチを操作し続けたときは、自動で全開 / 全閉できなくなります。
次の操作で復帰させてください。

1. 電源ポジションを ON にします。
2. スイッチを押して窓ガラスを全開にします。
3. スイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続けます。

キー OFF 後作動機構

運転席に装備しています。

電源ポジションを ACC または OFF にしたあとでも、約 40 秒間は開閉することができます。

安全装備について

はさみ込み防止機構

運転席に装備しています。
閉めるときに、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが閉まるのを停止し、自動的に途中まで開きます。はさみ込み防止機構は次のようなときに作動します。

- 電源ポジションが ON で窓ガラスを自動で閉めているとき。
- 電源ポジションを OFF または ACC にしてから約 40 秒の間に窓ガラスを閉めているとき。

注意

必ず守る

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- **窓ガラスが閉まりきる直前**
- **スイッチを引き続けたままの状態**

知識

- 走行条件や環境により、窓ガラスに異物をはさんだときと同じ衝撃または荷重が加わると、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- 万一、はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けてください。

燃料補給口

給油するとき

⚠ 警告

必ず守る
燃料補給時には必ずエンジンを止める。また、燃料補給口にはタバコなどの火気を近づけない。
火災につながるおそれがあります。

必ず守る
燃料を補給するときは、必ず次の点を守る。
身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 燃料補給作業は必ず一人で行ない、補給口に他の人を近づけないでください。
- 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
- 静電気の放電を防ぐため、フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なってください。
- 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。

必ず守る
給油ノズルは確実に燃料補給口へ差し込む。
給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

必ず守る
給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しない。
オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。

必ず守る
気化した燃料を吸い込まないよう注意する。
人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

⚠ 注意

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない。
→ 368 ページ「燃料」
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、アルコール系燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。

- **エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。**
- **エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。**
- **ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。**

燃料を補給するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。

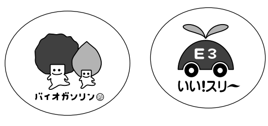
燃料補給作業中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。

燃料を補給する際には、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

知識

バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。

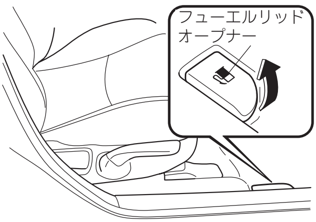
バイオ燃料混合ガソリンは、日本工業規格 (JIS) や「揮発油等の品質の確保に関する法律」が定めたガソリンの規格に合致しており、製品として使用に問題ないことが確認されています。バイオ燃料混合ガソリンの商品名としては「バイオ・ガソリン」、および「いい！スリー」の 2 つがあり、いずれの製品も使用できます (商品マーク参照)。



燃料補給口は車の右側後方にあります。燃料計が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

燃料補給口

フューエルリッドの開閉



運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引くと開きます。
閉めるときはフューエルリッドが確実にロックするまでフューエルリッドを押しつけます。

フューエルキャップの開閉

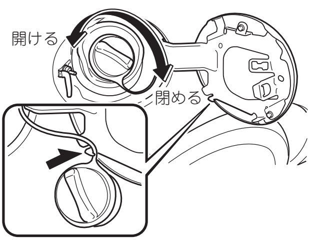
⚠ 警告

必ず守る
フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取り外す。
急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

必ず守る
フューエルキャップは確実に閉める。
キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

禁止
純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。



取りはずしたキャップはフューエルリッドの内側にかけます。
キャップを閉めるときは、カチッと 1 回音がするまで締め付けてください。

盗難防止システム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムはキー / アドバンストキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたキー / アドバンストキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。
万一、アドバンストキーが電池切れや故障の場合は、補助キーでのエンジン始動も可能です。

⚠ 注意

必ず守る

キーの故障を防ぐために次のことを守る。

- **システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。**
- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**

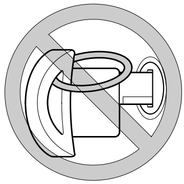
盗難防止システム

知識

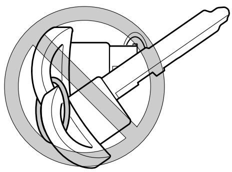
キー / 補助キーの使用について

次のような状態にしないでください。車両がキー / 補助キーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

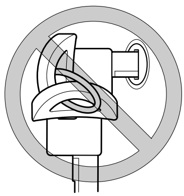
- キーグリップに金属製のリングがのっている



- キーグリップ部に他のキーの金属部や金属製のものが接している



- キー / 補助キーにスペアのキー / 補助キーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある



- キー / 補助キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある

システムの作動



電源ポジションを ON から ACC または OFF にするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。

システムの解除

登録されたキー / アドバンストキーで電源ポジションを ON にするとシステムが解除され、エンジンが始動できます。そのとき表示灯は約 3 秒間点灯した後消灯します。

エンジンが始動しないときは

次のような場合、エンジンの始動ができない場合があります。

- アドバンストキーを (車内でも) 感知しにくい場所に置いている。
- 携帯電話、テレビ、ラジオ、トランシーバーなどからの電波でシステムが影響を受けている。

処置方法

アドバンストキー装備車

一度、電源ポジションを OFF にもどし、アドバンストキーを別の場所に置いて、再度エンジン始動してください。

→ 23 ページ「作動範囲」

セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯 / 点滅したまま等)、一度電源ポジションを OFF に戻し、しばらく待って再度エンジン始動してください。

3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

リトラクタブルタイプキー装備車

キーを抜き、2 秒以上待って再度エンジンを始動させてください。

3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

運転中にセキュリティ表示灯が点灯 / 点滅した場合は

エンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できないことがあります。

盗難防止システム

知識

イモビライザーシステムを修理するときは

コードを再登録するために、お手持ちのすべてのキー / アドバンストキー (補助キー含む) をマツダ販売店に持参してください。

キーを追加するときは

- キー / アドバンストキーを紛失したときのために、スペアのキー / アドバンストキーを保管しておいてください。
- キー / アドバンストキーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でキー / アドバンストキーを追加することはできません。

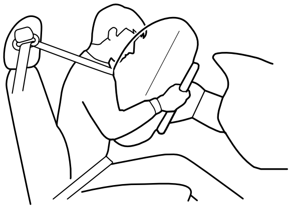
キー / アドバンストキー (補助キー含む) を紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するキー / アドバンストキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのキー / アドバンストキー (補助キー含む) をマツダ販売店へ持参してください。登録されていないキー / アドバンストキー (補助キー含む) ではエンジンを始動することができません。

SRS エアバッグシステムについて

SRS とは Supplemental Restraint System (サプルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションが ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

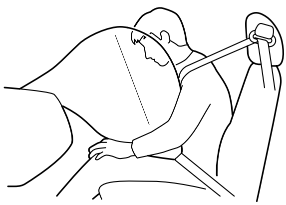
エアバッグの種類

運転席エアバッグ



運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。

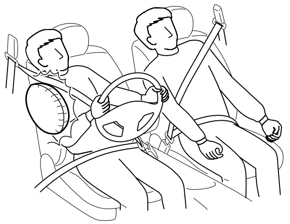
助手席エアバッグ



助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。

SRS エアバッグシステム

サイドエアバッグ グレード/仕様別装備



サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。

カーテンエアバッグ グレード/仕様別装備



カーテンエアバッグはフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグの注意点

⚠ 警告

お車に乗る前に

必ず守る

運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用する。

SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

禁止

ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしない。

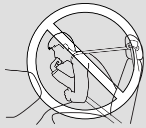
エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠ 警告

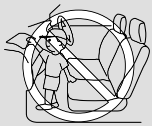
シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。

エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



お子さまを乗せるときは

お子さまはできるだけリヤシートに座らせ必ずシートベルトを着用させる。

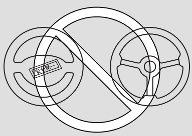


シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

こんなことにも注意

ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。

万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

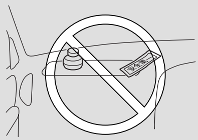


SRS エアバッグシステム

警告

インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置かない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。

エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



車両前部にグリルガードなどを装着しない。

SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

サスペンションの改造をしない。

車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしない。

正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスや廃車について

事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店に相談する。

これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け

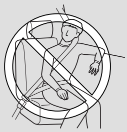
車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。

不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

サイドエアバッグについて

フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。

フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リヤシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



フロントシートにシートカバーを使用するときは、この車専用のサイドエアバッグ対応純正品を使用する。

純正品以外のものを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。純正品シートカバーの設定はグレードや仕様により異なるため、マツダ販売店にご相談ください。

SRS エアバッグシステム

⚠ 警告

フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。

サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

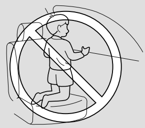
フロントシートの下に荷物などを置かない。

フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

カーテンエアバッグについて

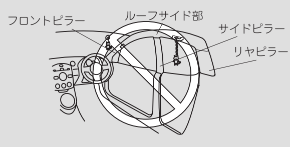
ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。

カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



フロント窓ガラス、リヤ窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。

カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。（必ず守る）

ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイド / カーテンエアバッグが作動するおそれがあります。（禁止）

知識

エアバッグの作動について

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

エアバッグの作動条件について

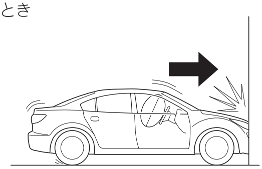
運転席 / 助手席エアバッグは正面衝突において、サイド / カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。
したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動するとき

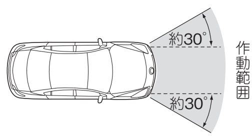
運転席 / 助手席エアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき



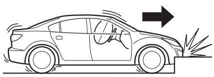
正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき



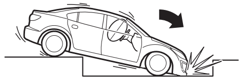
SRS エアバッグシステム

次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

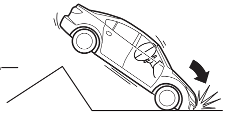
中央分離帯や縁石などに衝突したとき



深い穴や溝に落ちたとき



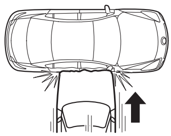
ジャンプなどで地面にぶつかったとき



サイド / カーテンエアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に横方向から衝突されたとき

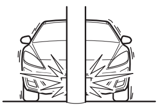


エアバッグが作動しにくいとき

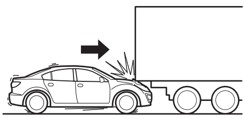
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席 / 助手席エアバッグ

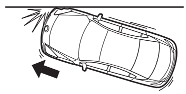
立木や電柱に衝突したとき



トラックの下などに潜り込んだとき

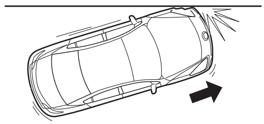


斜め前方に衝突したとき

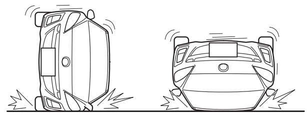


サイド / カーテンエアバッグ

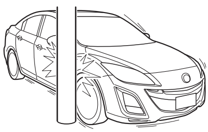
斜め前方に衝突したとき



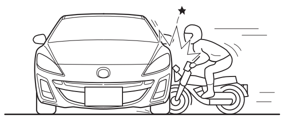
横転や転覆したとき



車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



2輪車が側面に衝突したとき

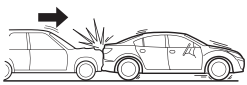


エアバッグが作動しないとき

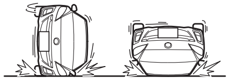
次のようなときには作動しません。

運転席 / 助手席エアバッグ

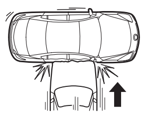
後ろ方向から衝突されたとき



横転や転覆したとき

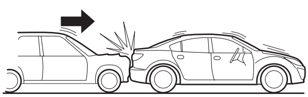


横方向から衝突されたとき

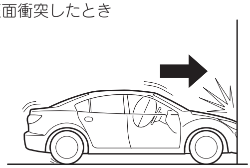


サイド / カーテンエアバッグ

後ろ方向から衝突されたとき



正面衝突したとき



EDR (イベントデータレコーダー) について

本車両は、SRS エアバッグ制御のためのコンピュータを搭載しています。
そのコンピュータは、SRS エアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、以下のデータを記録・蓄積する EDR を装備しています。

記録するデータ

EDR は下記のような情報を記録します。

- 車速
- 運転席乗員のシートベルト装着有無
- 助手席乗員のシートベルト装着有無
- エアバッグ作動に関する情報 (加速度波形等)
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識

EDR は会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダの委託先は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

積雪、寒冷時の取り扱い

お車に乗る前に

ルーフに雪が積もっているときは

- 走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
  走行前に取り除いてください。
- ルーフの雪を取り除くときは、アンテナに注意して取り除いてください。アンテナを損傷するおそれがあります。

ガラスに雪や霜がついているときは

- 視界を確保するため、雪や霜を取り除いてください。
- プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。
  プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
  無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。
  無理に動かそうとすると故障の原因になります。

お車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

MEMO

2 運転するときに

2 運転するときに

運転するとき

走行中はエンジンを止めない

走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。スリップするおそれがあります。
エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよく効きます。

走行中はセレクトレバーを N にいれない

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態 (ハイドロプレーニング現象) になるおそれがあります。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストをするだけではなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響を及ぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で

- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

警告灯が点灯 / 点滅したら車を止める

走行中に警告灯が点灯 / 点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置を行なってください。警告灯の点灯 / 点滅を無視して運転を続けるとエンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

安全なドライブのために

パンクやバースト (破裂) してもあわてない

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

スタックした状態から脱出するときは注意する

313 ページの「スタックしたとき」をよくお読みください。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じるとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

運転装置について

オートマチック車を運転するとき

166 ページの「オートマチック車を運転するときに」、156 ページの「オートマチック車の特性」、99 ページの「エンジンをかける前に」をよくお読みください。

4WD 車の特性

171 ページの「4WD 車について」、171 ページの「走行するときは」をよくお読みください。

タイヤについて

326ページの「タイヤ交換」、270ページの「タイヤの点検」、262ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、306ページの「タイヤチェーンの取り付け」をよくお読みください。

けん引してもらうとき

346 ページの「けん引してもらうとき」をよくお読みください。

こんなことにも注意

発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

運転中は携帯電話を使用しない

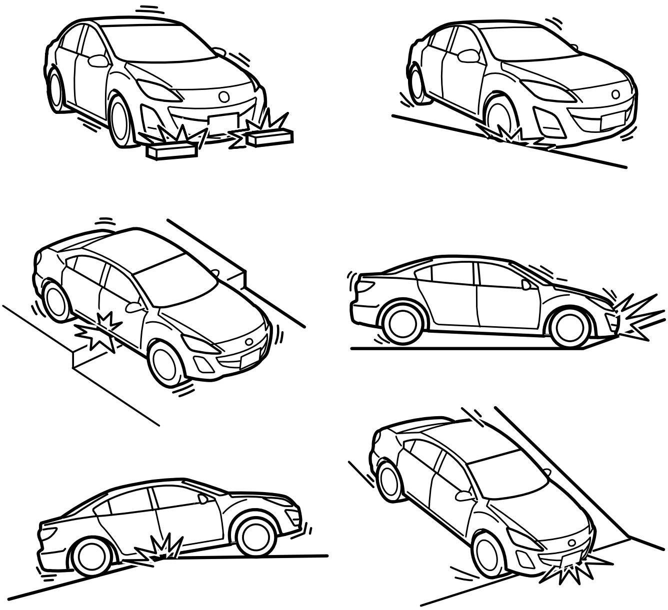
運転しながらハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

安全なドライブのために

路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凸凹やわだちのある道路の走行



違法改造はしない

262 ページの「違法改造はしない」をよくお読みください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

262ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、326ページの「タイヤ交換」、270 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

270 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

ディスチャージヘッドランプバルブを交換するときはマツダ販売店に相談する

175 ページの「ディスチャージヘッドランプについて」をよくお読みください。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

262 ページの「部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する」をよくお読みください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

262 ページの「ナンバープレートは正しい位置に取り付ける」をよくお読みください。

アクセサリーを取り付けない

262 ページの「アクセサリーを取り付けない」をよくお読みください。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

343 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

263 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない

343 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

バッテリーの取り扱いに気をつける

338 ページの「バッテリーあがりについて」をよくお読みください。

航空機内ではアドバンストキー / リモートコントローラーを操作しない

19 ページの「アドバンストキー」をよくお読みください。

安全なドライブのために

一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色 / 無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい / 吐き気 / 頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死に至ることがあります。万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気をとり入れてください。そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

ターボ車の特性

ターボ装置は、エンジンに多量の空気を過給することにより大きな出力を得る装置で、非常に精密に作られています。
またその潤滑はエンジンオイル、冷却は冷却水によって行われています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次の点を守ってください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは必ず指定された期間で交換してください。
- エンジン始動直後の空ふかし、急加速は行なわないでください。
- ターボ装置の冷却のため、高速走行や登坂走行の直後は、エンジンを停止する前にアイドリング運転を行なってください。

運転状況	アイドリング時間
高速走行	約 1 分
特殊な連続走行または急な登坂走行	約 2 分

駐停車するとき

燃えやすい物のそばに車を止めない

車を止める時には、次の点を守ってください。

- そばに枯れ草など、燃えやすいものがない場所に止めてください。走行したあとは排気管が高温になっているため、火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながるおそれがあります。

仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー / セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

長時間停車するときは空調を外気導入にする

エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入り易くなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へはいりやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

坂道駐車はパーキングブレーキをしっかりかける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをしっかりかけ、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P にいれてください。
急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

安全なドライブのために

車の移動はエンジンをかける

車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

お子さまを乗せるとき

車から離れるときはお子さまも一緒につれていく

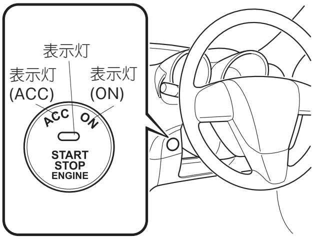
車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

電源ポジション (エンジンスイッチ)

各位置の働き

アドバンストキー装備車



プッシュボタンスタートを押す毎に OFF、ACC、ON の順に電源ポジションが切り替わり、ON からもう一度、プッシュボタンスタートを押すと OFF へ戻ります。

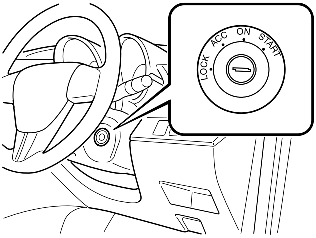
電源ポジション	働き
OFF	プッシュボタンスタートの表示灯 (ACC、ON) が、消灯します。
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどが使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (ACC) が、点灯します。
ON	エンジン回転中の位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (ON) が、消灯します。(エンジンが止まっている状態のときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (ON) が点灯します。)

知識

- **(ハンドルのロック)**
  ハンドルのロックが解除されない時は、電動ハンドルロック警告灯が点滅し、警告チャイムが鳴ります。この場合、ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。
- 電源ポジションを ON にしたとき、燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションを ON のまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。電源ポジションを ACC (オートマチック車は、セレクトレバーが P の位置になっていること) で放置した場合は、約 1 時間で電源ポジションが OFF になります。
- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだ状態で、プッシュボタンスタートを押すとエンジンが始動します。電源ポジションの切り替えを行う場合は、ペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してください。

エンジンの始動と停止

アドバンストキー非装備車



電源ポジション (エンジンスイッチ)	働き
OFF/LOCK	電源 OFF の状態
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどが使用できる位置
ON	エンジン回転中の位置
START	エンジンを始動する位置

※印字 (刻印) は実際の車両と異なる場合があります。

知識

- 電源ポジションを ON にしたとき、燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- **エンジンを止めたままのときは**
  オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションを ON または ACC のまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- **ハンドルがロックされているときは**
  キー (エンジンスイッチ) をまわしにくいことがあります。ハンドルを左右に動かしながらキー (エンジンスイッチ) をまわしてください。
- オートマチック車はセレクトレバーの位置が P 以外のときは、スタートノブをまわして、電源ポジションを ACC から OFF にすることができません。

エンジンの始動

エンジンをかける前に

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2 マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
3 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→ 37 ページ「正しい運転姿勢」

クラッチスタートシステムについて (マニュアル車)

クラッチスタートシステムは、ギヤが入っている状態でクラッチペダルを踏まずにスターターをまわしたとき、車が動き出すのを防止する装置です。
エンジンをかけるとき、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかかりません。

知識

エンストで動けなくなったとき
ギヤを入れたまま電源ポジションを START にし続けて車を緊急避難させることができません。
→ 314 ページ「エンストで動けなくなったとき」

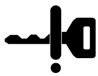
エンジンの始動と停止

エンジンをかけるとき (アドバンストキー装備車)

知識

- アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。
- 電源ポジションの状態 (OFF、ACC、ON) に関係なく、エンジンを始動できます。

1 アドバンストキーを携帯していることを確認します。
2 エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。
3 マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
4 メーター内の KEY 表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。正常なアドバンストキーを携帯しているのに KEY 表示灯 (緑) が点灯しない場合は、補助キーでエンジンを始動してください。



注意

必ず守る

メーター内の KEY 警告灯 (赤) が点灯し続けるときは、プッシュボタンスタートの表示灯を確認してください。表示灯が赤で点灯をしている場合はエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。直ちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- メーター内の KEY 表示灯 (緑) が点灯するときは同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (緑) も点灯します。
- 次のようなときはメーター内の KEY 警告灯 (赤) が点滅し、エンジンをかけることができません。
  - アドバンストキーの電池切れ
  - アドバンストキーが作動範囲内にない
  - アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
    →23ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
  - アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にある
- メーター内の KEY 警告灯 (赤) が点灯し、プッシュボタンスタートの表示灯 (赤) が点滅している場合は、通常の操作ではエンジンを始動できません。マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、プッシュボタンスタートを押し続けてエンジンを始動してください。

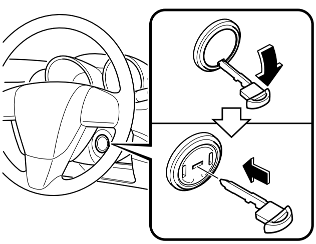
5 メーター内の KEY 表示灯 (緑) が点灯し、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) も点灯している状態でプッシュボタンスタートを押します。

知識

- エンジン始動後、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑 /ACC/ON) は消灯し、電源ポジションは ON 状態になっています。
- プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- 冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

補助キーによるエンジン始動

アドバンストキーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、補助キーを使って、エンジンを始動することができます。



1 補助キーをアドバンストキーから取りはずします。
2 補助キーを使用して、カバーを外し、補助キーをキースロットへ奥まで確実に挿し込みます。

エンジンの始動と停止

⚠ 注意

禁止

補助キーをキースロットに挿し込んだ後、キーを回さないでください。キーや車両を破損するおそれがあります。

3 アドバンストキーを携帯しているときのエンジン始動と同じ手順でエンジンを始動してください。

知識

- エンジンがかかっている間は、補助キーをキースロットへ挿し込んだままにしておいてください。
- 車から離れるときは、補助キーをキースロットから抜いて、車外に持ち出してください。
- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏み込んで、ペダルを放してすぐにプッシュボタンスタートを押すと、電源ポジションを切り替えることができます。

エンジンをかけるとき(ノーマルキー装備車)

1 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2 マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
3 アクセルペダルを踏まずに、電源ポジションをSTARTにし、エンジンをかけます。

⚠ 注意

禁止

連続して10秒以上、電源ポジションをSTARTにしないでください。スターターの故障やバッテリーあがりの原因になります。エンジンがかからないときは、電源ポジションをOFFにもどし、10秒以上待ってからエンジンをかけなおしてください。

知識

冷間始動後は

エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

エンジンの停止

注意

必ず守る

車から離れるときは、電源ポジションが OFF になっていることを確認してください。

知識

エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、エアコンの ON/OFF にかかわらず電動ファンが数分間回転することがあります。

アドバンストキー装備車

1 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にします。

2 プッシュボタンスタートを押します。エンジンが停止し、電源ポジションが OFF になります。

知識

- エンジンをきって電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたとき、アドバンストキーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、メーター内の KEY 表示灯 (緑) が約 30 秒間点滅します。新しい電池と交換してください。
  → 294 ページ「電池を交換するときは」
- **電源ポジションについて**
  オートマチック車はセレクトレバーが P 以外の位置のときに、エンジンが停止すると、電源ポジションは ACC になります。
- **電源ポジションを OFF にせずに車から離れると**
  警報やメーター表示でお知らせします。
  → 353 ページ「チャイムがなったときは」
  → 361 ページ「KEY 警告灯が赤色で点灯または点滅した」

エンジンの始動と停止

緊急エンジン停止

車両が停止していなくてもプッシュボタンスタートを押し続けるか、素早く何度も押すとエンジンが停止します。電源ポジションはACCになります。

注意

禁止

緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。

アドバンストキー非装備車

1 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーをPの位置にします。
2 電源ポジションをONからACCにします。

知識

- **バッテリーあがりについて**
  キーをまわして、電源ポジションをONからACCにするとエンジンは停止しますが、バッテリーあがりの原因になりますので、ACCで放置しないでください。
- **電源ポジションについて**
  オートマチック車はセレクトレバーの位置がP以外のときは、キーを回して電源ポジションをACCからOFFにすることができません。

3 電源ポジションをOFFにします。

i-stopについて グレード/仕様別装備

i-stop(アイ・ストップ)は燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで車両を停止させたとき、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

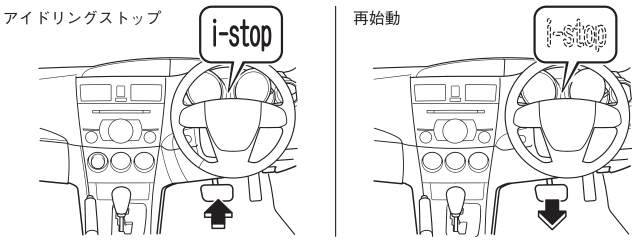
アイドリングストップ・再始動

1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop表示灯(緑)が点灯します。
2 走行状態(Rレンジ以外)からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。(i-stop表示灯(緑)はアイドリングストップ中も点灯します。)
3 ブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動し、i-stop表示灯(緑)が消灯します。再び走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop表示灯(緑)が点灯します。

⚠ 注意

次の条件のときは走行中、i-stop 表示灯（緑）が点灯しても停車時に消灯し、アイドリングストップしません。

- 停車時のハンドルが直進状態でないとき
- 急な坂道に停車したとき
- アドバンストキーが正常に作動しないとき
  次のようなときはアドバンストキーが正常に作動しないことがあります。
  - アドバンストキーを携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
  - アドバンストキーが金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
  - アドバンストキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
  - 近くに電波を発する設備があるとき
  - アドバンストキーの電池が消耗しているとき



知識

- i-stop は、安全かつ快適にご使用いただくためにドライバーの操作以外に、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、アイドリングストップ • 再始動を制御しています。
- 次の条件をすべて満たしているときにアイドリングストップします。
  - エンジンを始動したのち、一度走行したあと (走行せずにアイドリングを続けても、i-stop は作動しません。また、停車中にアイドリングストップ • 再始動を繰り返すこともありません。)
  - ボンネットを閉めてエンジンを始動したとき
  - エンジン、オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
  - 車両が停車しているとき
  - バッテリーの状態が良好のとき
  - 全てのドア、リヤゲート、ボンネットが閉まっているとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - 曇り取りスイッチが OFF のとき

エンジンの始動と停止

知識

- アドバンストキーが車内にあるとき
- エアコンの温度設定ダイヤルが、最大暖房 / 最大冷房以外の位置となっているとき
- 車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
- 標高約 1500m 以下で使用しているとき
- i-stop 警告灯 (橙) が点灯 / 点滅していないとき
- アドバンストキーレスエントリー & スタートシステムが正常なとき
- セレクトレバーが D/M (2 速固定モードでない) または N レンジのとき
- オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
- ブレーキ負圧が十分に高いとき
- ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力を入れているとアイドリングストップしない場合があります。アイドリングストップさせたいときは、ハンドルから力をゆるめてみてください。)
- ハンドル操作をしていないとき
- ブレーキペダルを踏んで停車させたとき (アイドリングストップせず i-stop 表示灯 (緑) が点滅しているときは、ブレーキペダルの踏み方が不足している可能性があります。少しブレーキペダルを踏み足してください。)
- 急制動ではないとき
- 立体駐車場などの急な坂道で停車していないとき

● 次の条件のときはアイドリングストップするまでに時間がかかることがあります。

- 車両を長期間使用しなかったときなどでバッテリーが放電したとき
- 外気温が高いとき、または、低いとき
- バッテリー交換等によりバッテリー端子をはずしたあと

● アイドリングストップ中に以下の操作を行うと i-stop 警告灯 (橙) が点灯し、安全を確保するためにブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しません。この場合は、通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- D/M (2 速固定モードでない) レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)

● アイドリングストップ中にセレクトレバーを D/M (2 速固定モードでない) レンジから N レンジ、または D/M (2 速固定モードでない) レンジから P レンジへ操作するとブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードでない) または R レンジへ操作すると再始動します。また、N または P レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき) にも、エンジンが再始動します。 (安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作する時は、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なって下さい。)

知識

- アイドリングストップ中に以下の操作を行うと、ブレーキペダルから足を放さなくてもエンジンが再始動します。
  - i-stop OFF スイッチをチャイムが鳴るまで押し続けたとき
  - エアコンの温度設定ダイヤルを、最大暖房 / 最大冷房の位置にしたとき
  - 曇り取りスイッチを ON にしたとき
  - アドバンストキーを車外に持ち出したとき
  - 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
  - D/M (2 速固定モードでない) レンジでアクセルペダルを踏んだとき
  - セレクトレバーを R レンジにしたとき
  - セレクトレバーを N または P レンジから D/M (2 速固定モードでない) レンジにしたとき
  - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードでない) レンジのまま、ハンドル操作をしたとき
  - セレクトレバーが M レンジで、2 速固定モードにしたとき
- アイドリングストップ中に以下の車両状態になると、ブレーキペダルから足を放さなくてもエンジンが再始動します。
  - 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
  - アイドリングストップしてから 2 分経過したとき
  - バッテリーの放電が進んだとき
- 次のときはエンジン停止時間が短くなる、または次のアイドリングストップが可能になるまでの時間が長くなることがあります。
  - 外気温が高いとき、または、低いとき
  - バッテリーの放電が進んだとき
  - 車載装備などの電流消費が多いとき
- 外気温が非常に低い、または高いときには、アイドリングストップしません。
- バッテリー端子をはずした場合は、バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要がありますので、マツダ販売店にご相談ください。

エンジンの始動と停止

i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑)

i-stop は、安心かつ快適にご使用いただくために、ドライバーの操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑) によりさまざまな注意をドライバーにお知らせします。

i-stop 警告灯 (橙)

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- i-stop OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯します。
- アイドリングストップ中に以下の操作を行うと i-stop 警告灯 (橙) が点灯します。この場合は安全を確保するために、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しないため、通常の操作でエンジンを始動してください。
  - ボンネットを開けたとき
  - D/M (2 速固定モードでない) レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)

知識

ボンネットを開けたときや、ドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき) 以外で、i-stop 警告灯 (橙) が点灯しているときに、i-stop OFF スイッチを押しつづけても消灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop 表示灯 (緑)

点灯するとき

アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。

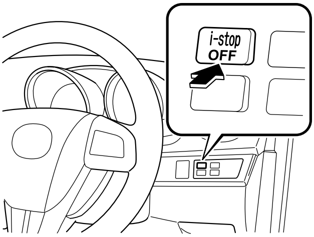
点滅するとき

ブレーキペダルを強く踏まずに停車させると点滅します。ブレーキペダルの踏力が不足している可能性があります。少しブレーキペダルを踏み足してください。

i-stop 警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。

i-stop OFF スイッチ



スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけると、i-stop の作動が解除され、メーター内の i-stop 警告灯 (橙) が点灯します。もう一度チャイムが鳴るまで押しつづけると i-stop が作動可能な状態になり、i-stop 警告灯 (橙) が消灯します。

知識

i-stop を解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

ディスプレイ表示

アイドリングストップ時間表示 (ドット表示)



マルチインフォメーションディスプレイ (MID) に、i-stop によるアイドリングストップ時間情報を表示することができます。

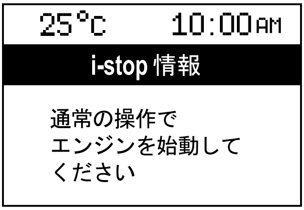
→129ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (MID)」

電源ポジションを ON から OFF にしたとき、i-stop によるアイドリングストップ時間を、今回分と今までの合計分について表示します。

エンジンの始動と停止

i-stop 情報表示

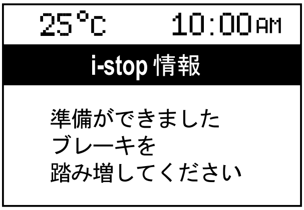
i-stop 情報表示は、アイドリングストップ時間表示 (ドット表示) とエコドライブ表示 (ドット表示) 画面のときに表示します。



エンジン始動表示

アイドリングストップ中の次の操作により、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しないときに表示します。この場合は、通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- D/M (2 速固定モードでない) レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)



i-stop 理由表示

アイドリングストップしない理由を表示します。表示された条件を満たすと表示が消えもとの画面にもどります。

知識

アイドリングストップしない理由が複数ある場合は、最初に要因となった理由を表示しますが、複数同時に発生するとまとめて表示します。



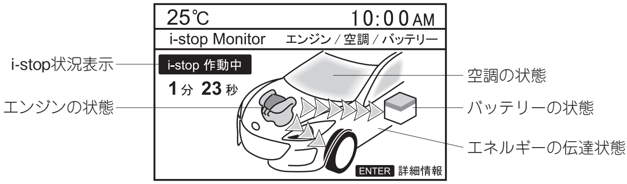
i-stop モニター表示 (カラー液晶)

マルチインフォメーションディスプレイ (MID) に、i-stop に関する状況を表示することができます。

→ 129 ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (MID)」

次のように i-stop に関する状況を表示します。

i-stop 表示灯 (緑) が点灯していない場合 (作動条件をすべて満たしていない場合) は、画面表示に関係なく、アイドリングストップしない場合があります。



エンジン・空調・バッテリーの状態

エンジン・空調・バッテリーの状態を表示します。i-stop が作動可能な状態になると緑色になります。

i-stop 状況表示

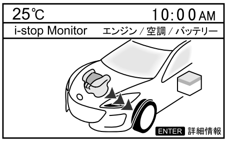
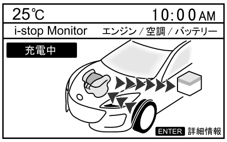
現在の車両の状態をお知らせします。

メッセージ表示	内容
条件成立	i-stop が作動可能な状態になっています。
i-stop 作動中	i-stop が作動しています。i-stop によりアイドリングストップしている時間が表示されます。
充電中	バッテリーが充電されています。

エンジンの始動と停止

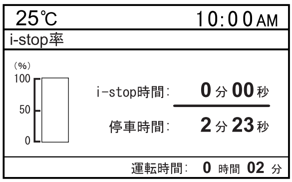
エネルギーの伝達状態

現在の車両の状況で、エネルギーがどのように伝わっているかお知らせします。

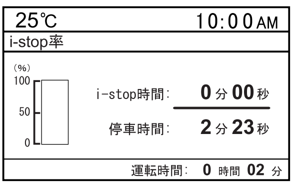
ディスプレイ表示	状態
	約 3km/h 以上で走行中、エンジンからタイヤにエネルギーが伝わっている状態です。
	減速・ブレーキ時にオルタネーターの発電量を増量させています。メッセージ表示に「充電中」が表示され、バッテリーが充電されています。

知識

運転終了後、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、その時点までの i-stop 率、i-stop 時間、停車時間 (i-stop 率表示) が表示されます。

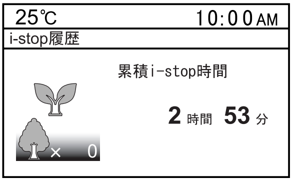


i-stop 率表示



走行しはじめてからの停車時間 (累積)、i-stop 時間 (i-stop によるアイドリングストップ時間の累積)、i-stop 率 (停車時間に対する i-stop 時間をグラフで表示) を表示します。

i-stop 履歴表示



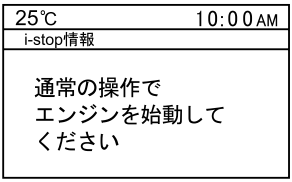
運転中、過去を含む現在までの i-stop によるアイドリングストップ時間の累計を表示します。
リーフは、i-stop によるアイドリングストップ時間を増やすことで成長します。成長したリーフは累計され、本数を表示します。本数を増やし続けることで、より環境にやさしい運転となります。

知識

過去のデータを消去したときは、消去した時点から現在までの累積 i-stop 時間を表示します。

i-stop 情報表示

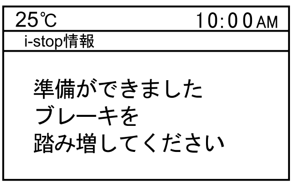
i-stop 情報表示は、i-stop モニター (カラー液晶) とエコドライブモニター表示 (カラー液晶) 画面のときに表示します。



エンジン始動表示

アイドリングストップ中の次の操作により、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しないときに表示します。この場合は、通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- D/M (2 速固定モードでない) レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)



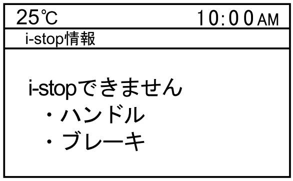
i-stop 理由表示

アイドリングストップしない理由を表示します。表示された条件を満たすと表示が消えもとの画面にもどります。

エンジンの始動と停止

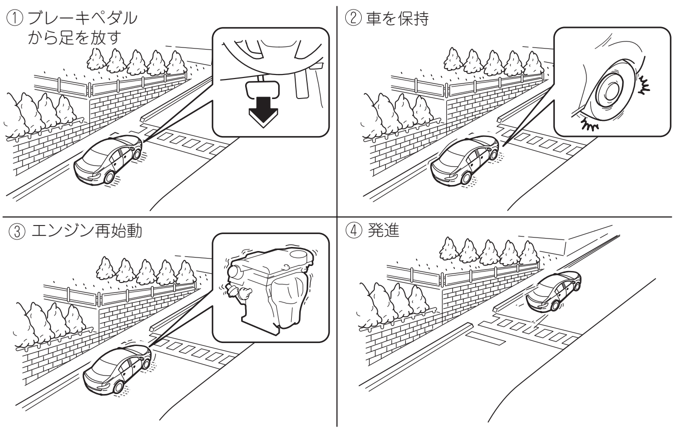
知識

アイドリングストップしない理由が複数ある場合は、最初に要因となった理由を表示しますが、複数同時に発生するとまとめて表示します。



発進補助装置について

i-stop 装備車には発進補助機能が装備されています。発進補助機能とは、坂道で停車もしくはアイドリングストップしている間にブレーキペダルから足を放したときに、坂道での前後退やクリープ現象などで不意に車両が飛び出すことを防ぐため、自動でブレーキ力を保持する機能です。



⚠ 警告

必ず守る

システムを過信しない

発進補助機能はあくまでもアイドリングストップ状態及び車両を発進させる際に、ブレーキから足を放したあと最長4秒間作動する補助装置です。システムを過信して操作すると意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあるため非常に危険です。発進時は周囲の安全を確認してセレクトレバーやブレーキペダル、アクセルペダルを適切に操作してください。

車両が以下の状態では、発進補助機能が解除されたあとに車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意下さい。

セレクトレバーがNレンジの場合。

アイドリングストップ中にセレクトレバーをNレンジに操作し、ブレーキペダルから足を放したときは、ブレーキ力が徐々に解除されます。発進時はセレクトレバーをNレンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放してください。

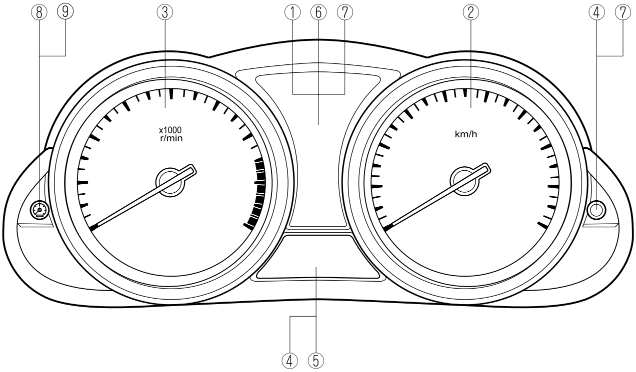
知識

発進補助機能の作動により、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

メーター、警告灯、表示灯の見方

メーター

メーターはグレードや仕様により異なります。

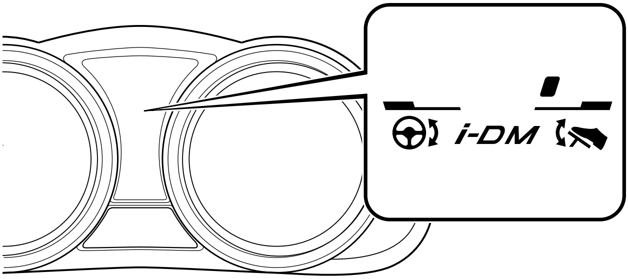


インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) (SKYACTIV 専用メーター装備車)

「i-DM」はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得 / 向上をサポートします。

インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の適正状態を診断し、ランプ及びゲージを通じてドライバーにリアルタイムに結果を知らせます。

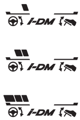
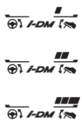


運転操作の状況は、次のように表示されます。 (コーチング機能)

ランプの種類	点灯パターン	内容	運転のポイント
グリーンランプ 	点灯表示	やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。	● 加速をするとき / やめるときに、アクセルペダルをゆっくり踏む / もどす ● 減速をするとき / やめるときに、ブレーキペダルをゆっくり踏む / もどす ● 旋回をするとき / 直進にもどすときに、ハンドルをゆっくり切る / もどす

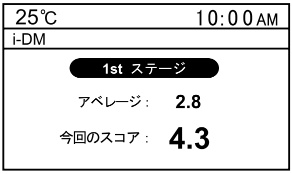
メーター、警告灯、表示灯の見方

ランプの種類	点灯パターン	内容	運転のポイント
ブルーランプ 	点灯表示	しなやかな運転を示します。特に以下の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 **走行タイプ 1** 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 **走行タイプ 2** 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。	**走行タイプ 1 の場合** ● 加速をするときに、最適な踏み込み量 / 速さでアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、最適な踏み込み量 / 速さでブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、最適な切り込み量 / 速さでハンドルを操作する **走行タイプ 2 の場合** ● 加速をするときに、一定の加速度を継続するようにアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、一定の減速度を継続するようにブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、一定の横 G を維持するようにハンドルおよびアクセルペダルを操作する

ランプの種類	点灯パターン	内容	運転のポイント
ホワイトゲージ 	ハンドル操作によって起こる体の横揺れを左側のゲージに3段階で点灯表示 	体が揺れる運転を示します。やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまり良くない運転です。	
	アクセル / ブレーキ操作によって起こる体の縦揺れを右側のゲージに3段階で点灯表示 		-

メーター、警告灯、表示灯の見方

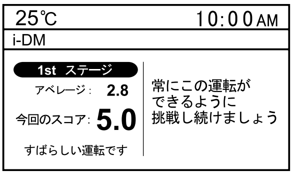
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示 (カラー液晶)



マルチインフォメーションディスプレイ (MID) に今回のスコア (現在の評価値)、アベレージスコア (過去 10 回のスコアの平均値) と現在のステージを表示することができます。

→129 ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (MID)」

ステージは、1st ステージから 3rd ステージまであり、ステージが上がると診断が厳しくなります。運転技量が上がり、現在のステージでアベレージスコアを高く保てるようになると、次のステージへ上がります。逆に、低いアベレージスコアが続くとステージが下がります。



運転終了後、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、今回のスコア、アベレージスコア、現在のステージのほかに、今回のスコアに応じて、文字による運転評価メッセージとワンポイントアドバイスを一定時間表示します。(ティーチング機能)

運転評価メッセージ

表示内容
すばらしい運転です
順調です
今回は短い走行のため運転診断結果はありません

ワンポイントアドバイス

表示内容
常にこの運転ができるように挑戦し続けましょう
この調子を維持して上のレベルに挑戦しましょう
上達しています この調子で上のレベルを目指しましょう
運転アドバイス 頻繁なアクセル操作は控えましょう
運転アドバイス 頻繁なブレーキ操作は控えましょう
運転アドバイス 頻繁なハンドル操作は控えましょう
運転アドバイス 適度な加速を心がけましょう
運転アドバイス 適度な減速を心がけましょう
運転アドバイス 滑らかなハンドル操作を心がけましょう

メーター、警告灯、表示灯の見方

スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

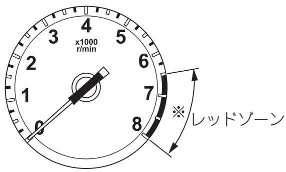
タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

注意

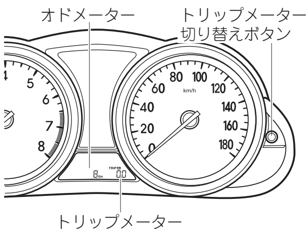
必ず守る

指針がレッドゾーン（許容回転数以上を示す）にはいらないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。



※　仕様により範囲が異なります。

オドメーター / トリップメーター



オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

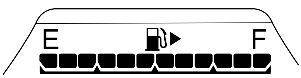
トリップメーター

一定区間の走行距離をkm単位で示します (右側の数字は100m単位です)。2種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。電源ポジションが ON のとき、トリップメーター切り替えボタンを押すごとに、TRIP A、TRIP B が切り替わります。トリップメーターを“0.0”にもどすときは、それぞれのモードのときトリップメーター切り替えボタンを 1 秒以上押します。

知識

- 電源ポジションが ACC または OFF のとき、オドメーター / トリップメーターは表示されませんが、次のようなときは、トリップメーター切り替えボタンが機能します (ボタンを操作するとトリップメーターは切り替え / リセットされます)。
  - 電源ポジションを ON から ACC または OFF にした後の約 10 分間。
  - ドアを閉めた状態から開けた状態にした後の約 10 分間。
- 次のようなときは、トリップメーターの表示が“0.0”にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が 999.9km を超えたとき。

燃料計



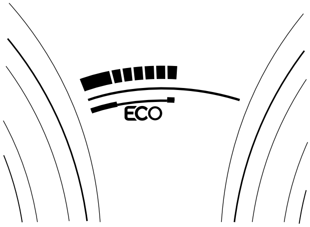
電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。
燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点灯します。早めに燃料を補給してください。
→ 143 ページ「警告灯、表示灯」
目盛りが“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。→ 66 ページ「燃料補給口」

知識

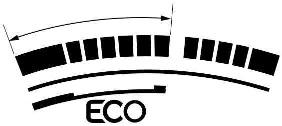
- 燃料補給後は、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- 矢印 (⛽▸) は燃料補給口が運転席側にあることを示します。

メーター、警告灯、表示灯の見方

エコゲージ グレード/仕様別装備

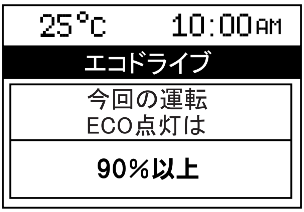


走行中、アクセルペダルの踏み加減に応じて、エコの状況を表示します。



アクセルペダルを踏み込むとゲージが増えます。ゲージが矢印の範囲内で点灯しているときは環境にやさしい運転です。矢印の範囲内で走ることで燃費の向上が期待できます。

エコドライブ表示 (ドット表示)



マルチインフォメーションディスプレイ (MID) にエコ率を表示することができます。

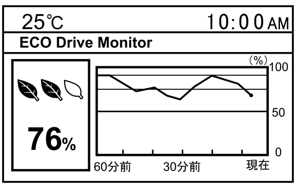
→129ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (MID)」

電源ポジションを ON から OFF にしたとき、今回の運転がどのくらい環境にやさしかったかを表示します。

知識

アクセルペダルを踏みすぎない環境にやさしい運転をするほど、よい結果が表示されます。

エコドライブモニター表示 (カラー液晶)



マルチインフォメーションディスプレイ (MID) にエコ率とその推移を表示することができます。

→129ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (MID)」

運転中、現在のエコ率 (5 分間計測した値) とエコ率に応じたリーフの枚数を表示し、現在の運転がどのくらい環境にやさしいかを表示します。

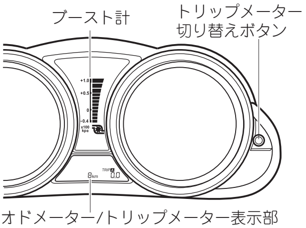
グラフは、エコ率の 5 分毎の推移を表示します。

電源ポジションを ON から OFF にしたとき、その時点までのエコ率が表示されます。

知識

アクセルペダルを踏みすぎない環境にやさしい運転をするほど、よい結果が表示されます。

ブースト計 (MZR 2.3 DISI Turbo)



走行中、ターボの過給圧を示します。

知識

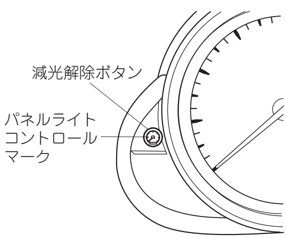
以下の操作により、非表示に切り替えることができます。

1 電源ポジションを ON にしてから 5 秒以内にトリップメーター切り替えボタンを 6 回押します。その後オドメーター / トリップメーター表示部に ON が表示されます。ON 表示中にトリップメーター切り替えボタンを押すと OFF が表示されます。

2 OFF 表示中にトリップメーター切り替えボタンを 1 秒以上押します。

表示したいときは手順 1 で ON 表示中にトリップメーター切り替えボタンを 1 秒以上押します。

減光解除ボタン



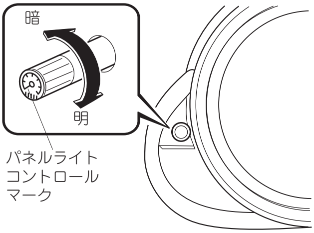
ランプスイッチを ＿ または ＿ の位置にすると、メーターの照明は減光されます。

雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態ではメーターが見えにくい場合に、減光解除ボタンを使用します。

メーターが減光されているときボタンを押すと、減光が解除されメーターの照明が明るくなります。もう一度押すともとの減光状態にもどります。

メーター、警告灯、表示灯の見方

パネルライトコントロールスイッチ



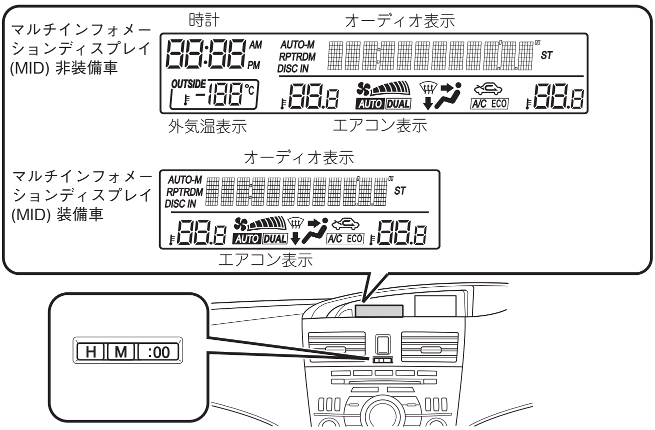
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときパネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

知識

メーターの減光を解除しているときは

パネルライトコントロールスイッチをまわしても、メーターの明るさを調節できません。

インフォメーションセンターディスプレイ



インフォメーションセンターディスプレイの機能について

インフォメーションセンターディスプレイには次の機能があります。

- 時計 グレード/仕様別装備
- 外気温表示 グレード/仕様別装備
- エアコン表示 (フルオートエアコン装備車)
- オーディオ表示 グレード/仕様別装備

時計 (マルチインフォメーションディスプレイ (MID) 非装備車)

電源ポジションが ACC または ON のとき表示します。



時刻のあわせかた

1 電源ポジションを ACC または ON にします。

2 時間調節ボタン (H、M) を操作して時刻をあわせます。
時計調節ボタン (H) を押している間“時”表示が早送りされます。
時計調節ボタン (M) を押している間“分”表示が早送りされます。

時報にあわせるとき

1 電源ポジションを ACC または ON にします。

2 :00 ボタンを押します。

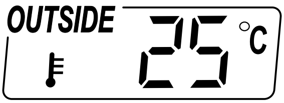
3 :00 ボタンを押すと時刻が次のように修正されます。
(例)
12:01 ～ 12:29 → 12:00
12:30 ～ 12:59 → 1:00

知識

:00 ボタンを押すと、“秒”は“00”からスタートします。

メーター、警告灯、表示灯の見方

外気温表示 (マルチインフォメーションディスプレイ (MID) 非装備車)



電源ポジションが ON のとき、外気温を表示します。

知識

次のようなとき、外気温度表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

エアコン表示 (フルオートエアコン装備車)

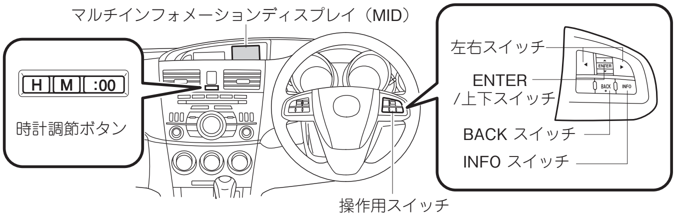
エアコンの作動状態を表示します。
エアコンの操作については、214 ページの「空調」をご覧ください。

オーディオ表示 グレード/仕様別装備

オーディオの作動状態を表示します。
オーディオの操作については、226 ページの「オーディオ」をご覧ください。

マルチインフォメーションディスプレイ (MID)

グレード/仕様別装備



マルチインフォメーションディスプレイは次の情報を表示します。
INFO スイッチを押すごとに表示を切り替えます。

カラー液晶

トリップコンピューター
（瞬間燃費、走行可能距離）
↓
トリップコンピューター
（瞬間燃費、平均燃費）
↓
インテリジェント・ドライブ・マスター
（i-DM）表示☆
↓
エコドライブモニター ☆
↓
i-stopモニター
↓
オーディオ表示 ☆
↓
セッティング
（→ トリップコンピューター（瞬間燃費、走行可能距離）へ戻る）

ドット表示

トリップコンピューター
（平均燃費、平均車速）
↓
トリップコンピューター
（瞬間燃費、走行可能距離）
↓
オーディオ表示 ☆
↓
エコドライブ表示 ☆
↓
アイドリングストップ時間表示
↓
セッティング
（→ トリップコンピューター（平均燃費、平均車速）へ戻る）

☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

メーター、警告灯、表示灯の見方

時計

電源ポジションが ACC または ON のとき表示します。

10:00AM

時刻のあわせかた

1 電源ポジションを ACC または ON にします。
2 時間調節ボタン (H、M) を操作して時刻をあわせます。
時計調節ボタン (H) を押している間“時”表示が早送りされます。
時計調節ボタン (M) を押している間“分”表示が早送りされます。

時報にあわせるとき

1 電源ポジションを ACC または ON にします。
2 :00 ボタンを押すと、時刻が次のように修正されます。
(例)
12:01 ～ 12:29 → 12:00
12:30 ～ 12:59 → 1:00

知識

:00 ボタンを押した時点で、“秒”は“00”からスタートします。

外気温表示

電源ポジションが ON のとき表示します。

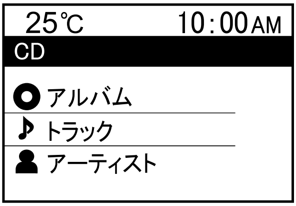
25℃

知識

次のようなとき、外気温度表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

オーディオ表示 グレード/仕様別装備



オーディオの作動状態を表示します。
オーディオの操作については、226 ページの「オーディオ」をご覧ください。

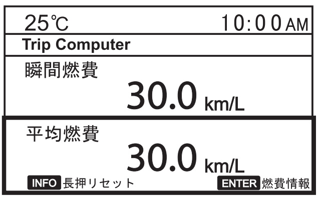
トリップコンピューター

電源ポジションが ON のとき、次の情報を表示します。

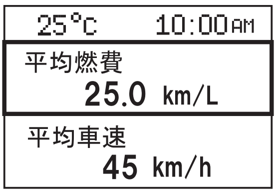
- 平均燃費表示
- 平均車速表示
- 瞬間燃費表示
- 走行可能距離表示
- 燃費推移表示 (カラー液晶のみ)
- 燃費履歴表示 (カラー液晶のみ)

平均燃費表示

カラー液晶



ドット表示



お車を購入されたとき、または、過去のデータを消去したときはデータを消去したときからの累積走行距離と累積消費燃料から、約 1 分間毎に平均燃費を算出して表示します。

メーター、警告灯、表示灯の見方

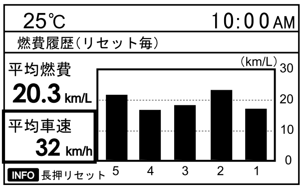
知識

- (カラー液晶)
  - 表示されているデータを消去するには、平均燃費を表示中に INFO スイッチを 2 秒以上押し続けます。
  - 平均燃費は燃費履歴画面にも表示されます。
- (ドット表示)
  表示されているデータを消去するには、141 ページ「セッティング」をご覧ください。
- 消去後、燃費が計算されている 1 分間は - - - km/L が表示されます。

平均車速表示

お車を購入されたとき、または、過去のデータを消去したときはデータを消去したときからの累積走行距離と走行時間から、約 10 秒間毎に平均車速を算出して表示します。

カラー液晶



次の手順で表示させます。

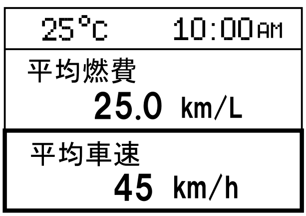
1 瞬間燃費を表示中に ENTER スイッチを押します。

2 燃費履歴 (リセット毎) を選択します。

知識

表示されているデータを消去するには、平均車速を表示中に INFO スイッチを 2 秒以上押し続けます。
消去後、平均車速が計算されている 1 分間は - - - km/h が表示されます。

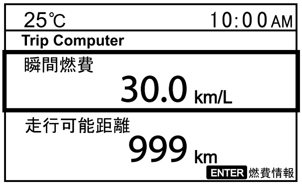
ドット表示



知識

表示されているデータを消去するには、141 ページ「セッティング」をご覧ください。
消去後、平均車速が計算されている 1 分間は - - - km/h が表示されます。

瞬間燃費表示

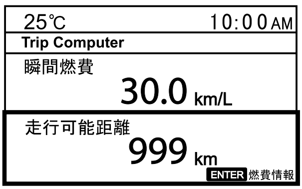


走行しはじめてから、約 2 秒毎の瞬間燃費を消費燃料から算出して表示します。

知識

- 時速が約 5km/h になると - - - km/L を表示します。
- **(カラー液晶)**
  瞬間燃費は燃費推移画面にも表示されます。

走行可能距離表示



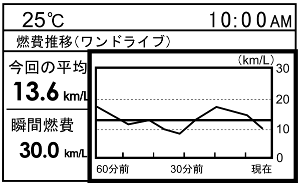
現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

知識

- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の残量目盛りが E に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。
  約 5L 以上燃料を加えないと表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。

メーター、警告灯、表示灯の見方

燃費推移表示 (カラー液晶)

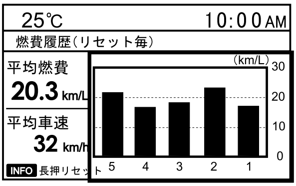


過去 60 分間の 5 分ごとの平均燃費値を折れ線グラフで表示します。また、エンジンを始動してからの平均燃費値を数値と水平線で表示します。

次の手順で表示させます。

1. 瞬間燃費を表示中に ENTER スイッチを押します。
2. 燃費推移 (ワンドライブ) を選択します。

燃費履歴表示 (カラー液晶)



過去 5 リセット分の平均燃費の履歴をバーグラフで表示します。

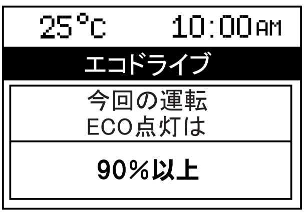
次の手順で表示させます。

1. 瞬間燃費を表示中に ENTER スイッチを押します。
2. 燃費履歴 (リセット毎) を選択します。

知識

燃費履歴を表示中に INFO スイッチを 2 秒以上押し続けると、平均燃費と平均車速をリセットできます。

エコドライブ表示 (ドット表示) グレード / 仕様別装備



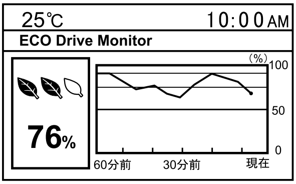
電源ポジションを ON から OFF にしたとき、今回の運転がどのくらい環境にやさしかったかを表示します。

→ 124 ページ「エコゲージ」

知識

INFO スイッチを押していくことでも表示できます。

エコドライブモニター(カラー液晶) グレード/仕様別装備



電源ポジションを ON から OFF にしたとき、今回の運転がどのくらい環境にやさしかったかを、パーセント・イラスト・グラフで表示します。

→ 124 ページ「エコゲージ」

知識

INFO スイッチを押していくことでも表示できます。

アイドリングストップ時間表示(ドット表示)



電源ポジションを ON から OFF にしたとき、i-stop によるアイドリングストップ時間を、今回分と今までの合計分について表示します。

→ 104 ページ「i-stop について」
→ 109 ページ「ディスプレイ表示」

知識

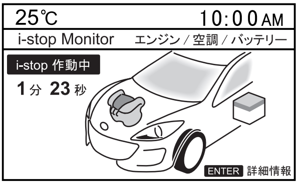
INFO スイッチを押していくことでも表示できます。

メーター、警告灯、表示灯の見方

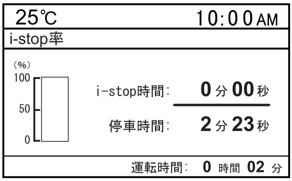
i-stop モニター (カラー液晶)

i-stop についての様々な情報を表示します。

→ 104 ページ「i-stop について」
→ 109 ページ「ディスプレイ表示」

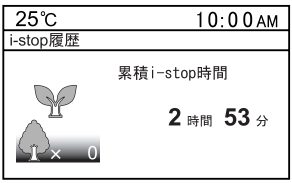


i-stop 率表示



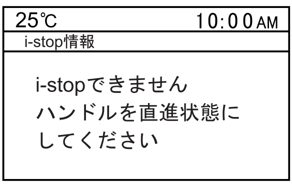
1 i-stop モニター画面で ENTER スイッチを押します。
2 i-stop 率を選択します。

i-stop 履歴表示



1 i-stop モニター画面で ENTER スイッチを押します。
2 i-stop 履歴を選択します。

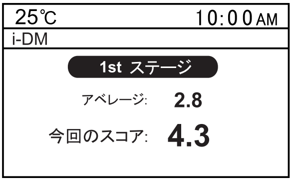
i-stop お知らせ設定



1 i-stop モニター画面で ENTER スイッチを押します。
2 i-stop お知らせ設定を選択します。
3 表示するを選択します。

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示 (カラー液晶)

グレード / 仕様別装備



電源ポジションを ON から OFF にしたとき、インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) の情報を表示します。

→117ページ「インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)」

知識

INFO スイッチを押していくことでも表示できます。

メンテナンスモニター

メンテナンスモニターを ON にすると、タイヤ点検、定期メンテナンスまたはオイル点検 / 交換の時期をお知らせすることが出来ます。

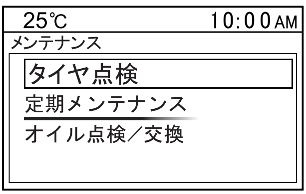
知識

走行中は操作できません。

初期設定

1 INFO スイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。

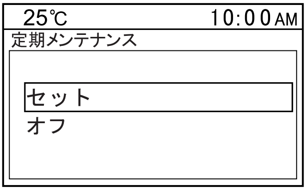
2 上下スイッチを引き上げるか引き下げてメンテナンスを選択し、ENTER スイッチを押します。



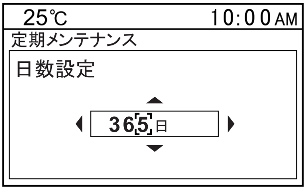
3 上下スイッチを引き上げるか引き下げて ON にしたいアイテム (タイヤ点検、定期メンテナンスまたはオイル点検 / 交換) を選択し、ENTER スイッチを押します。

4 ENTER スイッチを押します。

メーター、警告灯、表示灯の見方



5 セットを選択し、ENTER スイッチを押します。
次回のメンテナンスまでの距離または日数を設定する画面になります。

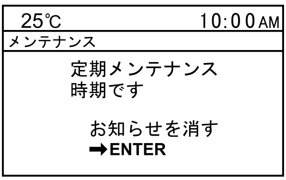


6 左右スイッチで桁を選択し、上下スイッチを引き上げるか引き下げて各桁の値を変更します。変更の必要がなければそのまま ENTER スイッチを押します。

知識

メンテナンススケジュールに応じた初期設定値が表示されます。

メッセージの表示



残りの日数や距離が 0 に近づくと、電源ポジションが ACC または ON のときに毎回約 5 秒間メッセージを表示します。

知識

- メッセージ表示中に ENTER スイッチを押すと、それ以降のエンジン始動時はメッセージが表示されません。
- メンテナンスを実施した後などに次回メンテナンスまでの残り距離・日数をリセットすると、次回以降のエンジン始動時にメッセージを表示します。
- メッセージが重複した場合は順に表示します。
- 残りの日数や距離が 0 に近づいたときのメッセージと期限切れのメッセージが重複した場合は、期限切れのメッセージのみ表示します。

表示期間

項目	表示開始	表示終了
タイヤ点検	残り距離が 500km 以下になった場合	残り距離が 0km を 500km オーバーした場合
定期メンテナンス	残り日数が 15 日以下になった場合	残り日数が 0 日を 15 日オーバーした場合
オイル点検 / 交換	残り距離が 500km 以下になった場合	残り距離が 0km を 500km オーバーした場合

表示メッセージ

項目	表示タイミング	表示メッセージ
タイヤ点検	残り距離 500km 〜− 500km	タイヤ点検時期です
定期メンテナンス	期日の 15 日前から当日まで	定期メンテナンス時期です
	期日の翌日から 15 日後まで	定期メンテナンス ご来店ください
オイル点検 / 交換	残り距離 500km 〜− 500km	オイル点検 / 交換時期です

リセット方法

メンテナンスを実施した後、リセット (再設定) を行なえば、次回またメンテナンス時期が近づいてきたときにお知らせメッセージが表示されます。

1 INFO スイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。

2 上下スイッチを引き上げるか引き下げてメンテナンスを選択し、ENTER スイッチを押します。



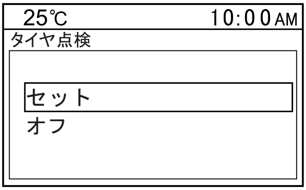
3 上下スイッチを引き上げるか引き下げてリセットしたいアイテム (タイヤ点検、定期メンテナンスまたはオイル点検 / 交換) を選択し、ENTER スイッチを押します。

メーター、警告灯、表示灯の見方

知識

- 現在の残り距離や日数が表示されます。
- 残り距離や日数が 0 を過ぎても、表示はマイナスにならず 0 のままです。

4 ENTER スイッチを押します。



5 セットを選択し、ENTER スイッチを押します。

6 残り距離または日数が前回設定したときの値にもどります。変更の必要がなければそのまま ENTER スイッチを押します。

知識

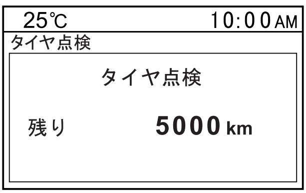
- 設定を初期設定の値から変更した場合、初期設定の値ではなく、お客様が設定した値が表示されます。
- バッテリーを切り離しても、残り距離や日数の情報は消去されません。
- マルチインフォメーションディスプレイ (MID) の交換、修理等を行なう場合は、残り距離や日数の情報が消える可能性があります。

OFF にする方法

メンテナンスモニターを ON にした後も、OFF にすることができます。OFF にした場合、次回メンテナンスまでの残り距離や日数をカウントしなくなり、メンテナンス時期が近づいたときのメッセージも表示しません。

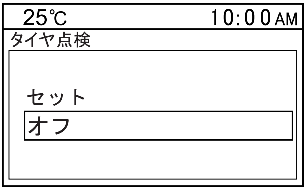
1 INFO スイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。

2 上下スイッチを引き上げるか引き下げてメンテナンスを選択し、ENTER スイッチを押します。



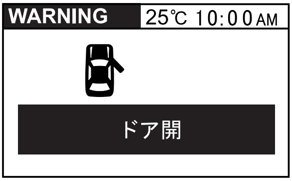
3 上下スイッチを引き上げるか引き下げて OFF にしたいアイテム (タイヤ点検、定期メンテナンスまたはオイル点検 / 交換) を選択し、ENTER スイッチを押します。

4 ENTER スイッチを押します。



5 オフを選択し、ENTER スイッチを押します。

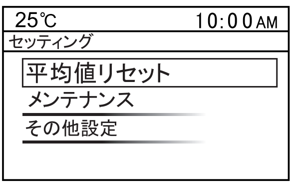
警告表示



以下の注意 / 警告を、必要に応じて表示します。マルチインフォメーションディスプレイ (MID) の操作に関係なく表示されます。

- 「ドア開」
- 「トランク開」
- 「パーキングブレーキ作動中」
- アドバンストキー関連
  - 「補助キーをさして下さい」
  - 「始動時はブレーキを踏んでください」
  - 「アドバンスドキー電池がわずかです」
  - 「アドバンスドキーが見つかりません」
  - 「ハンドルを左右にまわしながらもう一度ボタンを押してください」
  - 「セレクトレバーを P に入れてください」

セッティング



次の設定を変更できます。

- ブザー音量 (キー抜き忘れ、ランプ消し忘れ、リアビークルモニタリングシステム)
- 方向指示器作動音量
- **カラー液晶**
  画面調整 (画面 OFF、明るさ、コントラスト)
- **ドット表示**
  i-stop お知らせ設定

また、トリップコンピューターの平均燃費と平均車速のデータをリセットできます。

メーター、警告灯、表示灯の見方

設定を変更する

1 INFO スイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。
2 上下スイッチを引き上げるか引き下げてその他設定を選択し、ENTER スイッチを押します。
3 上下スイッチを引き上げるか引き下げて設定を変更したいアイテムを選択し、ENTER スイッチを押します。
4 上下スイッチを引き上げるか引き下げて希望する設定を選択し、ENTER スイッチを押します。

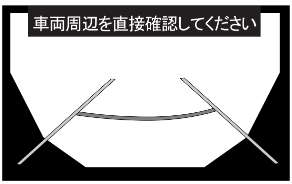
知識

ブザー音量は、キー抜き忘れ、ランプ消し忘れ、リアビークルモニタリングシステムが同時に変更されます。音量を個別に変更したい場合は、マツダ販売店にご相談ください。また、マツダ販売店で音量を個別に変更した場合は、お客さまが変更することはできません。

トリップコンピューターの平均燃費と平均車速のデータをリセットする

1 INFO スイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。
2 平均値リセットを選択し、ENTER スイッチを押します。
3 平均燃費または平均車速を選択し、ENTER スイッチを押します。

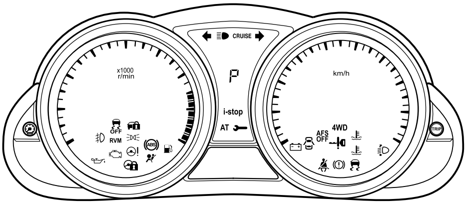
駐車支援システム (カラー液晶) グレード / 仕様別装備

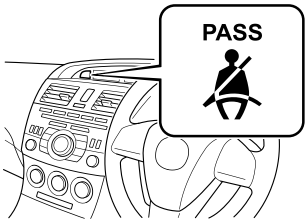


バックモニターから映し出された画像が表示されます。
→ 199 ページ「駐車支援システム」

警告灯、表示灯

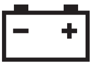
メーターはグレードや仕様により異なりますので、実際のお車の警告灯 / 表示灯で確認し、処置方法を下表で確認してください。

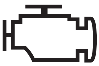




警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	ブレーキ警告灯	● 電源ポジション ON で点灯し、しばらくすると消灯 ● パーキングブレーキをかけているとき点灯し、解除すると消灯 ● 次のようなときは点灯し続ける ・ ブレーキ液が不足している ・ ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常がある	点灯し続けるときは、安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	故障警告表示灯	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● ブレーキスイッチに異常があると点灯し続ける ● 充電装置に異常があると点灯し続ける グレード/仕様別装備	点灯し続けるときは、マツダ販売店で点検を受ける
	ABS 警告灯	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● システムに異常があるときは点灯し続ける	点灯し続けるときは、マツダ販売店で点検を受ける
	充電警告灯	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯	点灯したときはただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する
	油圧警告灯	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯	● エンジン回転中に点灯したときはただちに安全な場所に停車し、エンジンを止め、エンジンオイルの量を点検する ● エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときはマツダ販売店に連絡する

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	エンジン警告灯	**点灯するとき** ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● エンジン制御システムに異常があると点灯し続ける **点滅するとき** エンジン制御システムに異常があると点滅し続ける	点灯 / 点滅したときは高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受ける
	高水温警告灯 (赤)	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると点灯	**点滅したとき** ● エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行する **点灯したとき** ● ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をする →343 ページ「オーバーヒートについて」

メーター、警告灯、表示灯の見方

<table>
<tr><th>警告灯 / 表示灯</th><th>名称</th><th>点灯 / 点滅条件</th><th>処置方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">i-stop</td><td>i-stop 警告灯
(橙)
グレード / 仕様別装備</td><td>点灯するとき
● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯
● i-stop OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯
● アイドリングストップ中に次の操作を行なうと点灯
・ ボンネットを開けたとき
・ D/M (2 速固定モードでない) レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)
点滅するとき
システムに異常があるときは点滅し続ける</td><td>点滅しているときは、マツダ販売店で点検を受ける</td></tr>
<tr><td>i-stop 表示灯
(緑)
グレード / 仕様別装備</td><td>点灯するとき
● アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に点灯
● エンジンが再始動すると消灯
点滅するとき
ブレーキペダルを強く踏まずに停車させると点滅
ブレーキペダルの踏力が不足している可能性がある</td><td>点滅しているときは、少しブレーキペダルを踏み足す</td></tr>
</table>

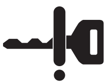
<table>
<tr><th>警告灯 / 表示灯</th><th>名称</th><th>点灯 / 点滅条件</th><th>処置方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">RVM</td><td>RVM 警告灯
(橙)
グレード/仕様別装備</td><td>● 電源ポジションを ON にすると点灯し、リアビークルモニタリングシステムが作動可能なときは RVM 表示灯 (緑) に切り替わる
リアビークルモニタリングシステムが解除されているとき消灯
● システムに異常があるときは点灯し続ける</td><td>点灯し続けるときは、マツダ販売店で点検を受ける</td></tr>
<tr><td>RVM 表示灯
(緑)
グレード/仕様別装備</td><td colspan="2">リアビークルモニタリングシステムが作動可能なとき点灯</td></tr>
<tr><td>4WD</td><td>4WD 警告灯
グレード/仕様別装備</td><td>点灯するとき
● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯
● 4WD システムに異常があると点灯
点滅するとき
● ディファレンシャルオイルの温度が異常に高いと点滅
● スタックからの脱出時など、前後輪の回転差が異常に大きい状態が続くと点滅</td><td>● 点灯したときは、マツダ販売店に連絡する
● 点滅したときは、エンジンをかけたまま安全な場所に停車する
しばらくしても警告灯が消灯しないときは、マツダ販売店に連絡する</td></tr>
<tr><td>AT</td><td>オートマチックトランスミッション警告灯
グレード/仕様別装備</td><td>● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯
● 走行中、システムに異常があると点灯</td><td>点灯したときはマツダ販売店で点検を受ける</td></tr>
</table>

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	電動パワーステアリング警告灯 グレード / 仕様別装備	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると点灯	点灯したときはエンジンを停止する エンジンを再始動した後でも消灯しない場合は、マツダ販売店で点検を受ける
	エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯	電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯	次のようなときはシステムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受ける ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき ● 点灯 / 点滅し続けるとき
	燃料残量警告灯	電源ポジションが ON のとき、燃料が少なくなると点灯 **知識** ● 燃料タンク内の燃料残量が 9L 前後になった時に点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。 ● 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。	燃料を補給する

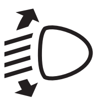
警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
 	シートベルト警告灯	**点灯するとき** 電源ポジションが ON のとき、運転席 / 助手席シートベルトを着用していないと点灯 **点滅するとき** 運転席 / 助手席シートベルトを着用しないまま約 20km/h 以上になるとしばらくの間点滅	シートベルトを着用する
	半ドア警告灯	ドア、リヤゲート、トランクが確実に閉まっていないと点灯 ⚠ 警告 禁止 **半ドア警告灯が点灯したまま走行しない。** 走行中に、ドア、リヤゲート、トランクが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。	ドア、リヤゲート、トランクを確実に閉める

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	KEY 警告灯 (赤) グレード / 仕様別装備	**点灯するとき** ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムになんらかの故障が発生すると点灯し続ける **点滅するとき** ● 次のようなとき、警告灯が点滅し、電源ポジションを OFF 以外にできないことを知らせる ・ アドバンストキーの電池が切れたとき → 294 ページ「アドバンストキー」 ・ アドバンストキーが作動範囲内にないとき ・ アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき → 23 ページ「アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」 ・ アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき ● 次のようなときは警告灯が点滅し続け、電源ポジションを OFF にせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したことを知らせる アドバンストキーを車内にもどすと消灯 ・ 電源ポジションを OFF にせずに、運転席ドアを開け、アドバンストキーを車外に持ち出したとき ・ 電源ポジションを OFF にせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき	

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	KEY 表示灯 (緑) グレード / 仕様別装備	**点灯するとき** マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏み込んだとき、正規のアドバンストキーが車内にあることを確認できると点灯し、エンジンをかけることができることを知らせる → 99 ページ「エンジンの始動」 **点滅するとき** アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていると、電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたときに、30 秒間点滅	点滅したときは、アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換する →294 ページ「アドバンストキー」
	電動ハンドルロック警告灯 グレード / 仕様別装備	**点灯するとき** 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 **点滅するとき** プッシュボタンスタートを押した後、ハンドルのロックを解除できなかった場合に点滅	点滅したときは、ハンドルを左右に動かしながらプッシュボタンスタートを押す
	TCS/DSC 作動表示灯 グレード / 仕様別装備	**点灯するとき** 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 **点滅するとき** 走行中に TCS または DSC が作動すると点滅	次のようなときはシステムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受ける ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき ● 走行中に点灯したとき

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	DSC OFF 表示灯 グレード/仕様別装備	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● DSC OFF スイッチを押して、TCS/DSC を解除すると点灯	次のようなときはシステムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受ける ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき ● TCS/DSC を解除していないのに点灯したとき
AFS OFF	AFS OFF 表示灯 グレード/仕様別装備	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● AFS OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯	次のようなときはシステムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受ける ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき ● 点滅し続けるとき
	ヘッドランプオートレベリング警告灯 グレード/仕様別装備	電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯	点灯し続けるときはマツダ販売店で点検を受ける
	低水温表示灯 (青)	● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● エンジン冷却水の温度が低いときに点灯し続ける	十分に暖機しても点灯したままのときは、マツダ販売店で点検を受ける

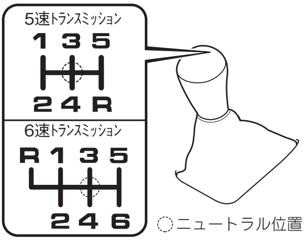
警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	セレクトレバー位置表示灯 グレード/仕様別装備	● 電源ポジションが ON のとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を示す ● (2WD 車) マニュアルモードまたはダイレクトモード グレード/仕様別装備 のとき、使用しているギヤ位置を表示 → 160 ページ「マニュアルモード」 → 165 ページ「ダイレクトモード」	
	ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると点灯 ● 下向き (ロービーム) にすると消灯	
	方向指示 / 非常点滅表示灯	方向指示器 / 非常点滅灯スイッチを操作すると点滅	点滅が異常に速くなったときは、マツダ販売店で点検を受ける
	セキュリティ表示灯	● 電源ポジションを ON から ACC または OFF にするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅 ● 登録されたキー / アドバンストキーで電源ポジションを ON にするとシステムが解除され、約 3 秒間表示灯が点灯した後消灯	登録されたキー / アドバンストキーで電源ポジションを ON にしても表示灯が点灯 / 点滅し続けるときは、マツダ販売店で点検を受ける
CRUISE	クルーズメイン表示灯 (橙) グレード/仕様別装備	● ON スイッチを押すと点灯 ● OFF スイッチを押すと消灯	
	クルーズコントロール表示灯 (緑) グレード/仕様別装備	● 速度が設定されると点灯 ● OFF スイッチを押すと消灯	
	車幅灯表示灯 グレード/仕様別装備	● ランプスイッチが、の位置のときに点灯 ● AUTO の位置のときは車幅灯、尾灯が点灯すると点灯	

メーター、警告灯、表示灯の見方

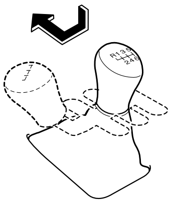
警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	フォグランプ表示灯 グレード/仕様別装備	● フォグランプを点灯させると点灯 ● フォグランプを消灯させると消灯	

トランスミッションの使いかた

マニュアルトランスミッション



チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。



マニュアルトランスミッションは、シフトの誤操作を防ぐ装置が装備されています。

(5 速トランスミッション車)
R にいれるときは、チェンジレバーをニュートラル位置にして、R 方向へ操作してください。
(6 速トランスミッション車)
R にいれるときは、チェンジレバーを下方向へ押しながら R 方向へ操作してください。

⚠ 注意

必ず守る
R にいれるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。

禁止
5 速から 4 速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず 2 速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。

禁止
6 速トランスミッション車は R にいれるとき以外は、誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。

トランスミッションの使いかた

オートマチックトランスミッション

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリープ現象

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが P、N 以外にはいっていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

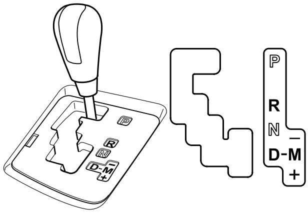
キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンすることができます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

各位置の働き

2WD 車



P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。

P でのみエンジンスイッチからキーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。

チャイムが鳴り、セレクトレバーが R にはいっていることを運転者に知らせます。

知識

バックモニター装備車は

バックモニターが作動します。バックモニターについては、別冊のナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。

エンジンを始動することはできますが、安全のため P の位置で行なってください。

D (ドライブ)

通常走行する位置。

(ステアリングスイッチ装備車)

一時的にダイレクトモードにすることができます。

→ 165 ページ「ダイレクトモード」

(6 速オートマチック車)

車速に応じて 1 速から 6 速までを自動変速します。

(4 速オートマチック車)

車速に応じて 1 速から 4 速までを自動変速します。

(CVT 車)

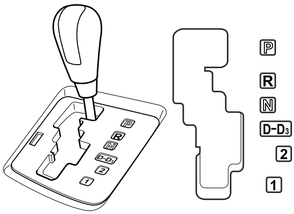
車速とアクセルペダルの踏み加減に応じて自動変速します。

トランスミッションの使いかた

M (マニュアル)

マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→ 160 ページ「マニュアルモード」

4WD 車



P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。
P でのみエンジンスイッチからキーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーが R にはいっていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のため P の位置で行なってください。

D3 (ドライブ)

下り坂などエンジンブレーキが必要なときや、カーブの多い上り坂を走行するときに使用する位置。
車速に応じて 1 速から 3 速までを自動変速します。

2 (セカンド)

下り坂などエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。
2 速に固定されます。

1 (ファースト)

急な下り坂など強力なエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。
1 速に固定されます。

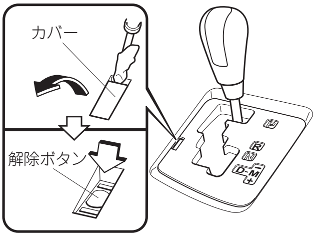
シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです

知識

- 電源ポジションが OFF のときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。
- セレクトレバーが P 以外の位置ではキーを抜くことができません。

シフトロック装置の解除

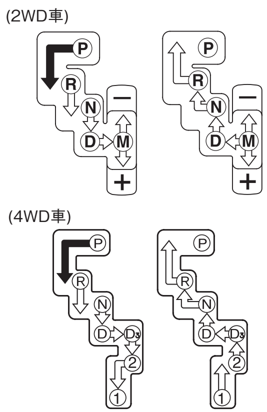


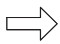
万一、セレクトレバーを P から操作できないときは、カバーをはずし、ブレーキペダルを踏み、マイナスドライバーなどで解除ボタンを押したままセレクトレバーを操作します。

知識

マイナスドライバーなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。マイナスドライバーなどが直接カバーにあたると、傷がつくおそれがあります。

セレクトレバーの操作



レバー操作	
	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
	ゲートにそって、そのままセレクトレバーを操作します。

トランスミッションの使いかた

知識

● **誤作動防止について**

⇨ の操作は、誤作動防止のため、各ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。

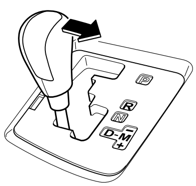
● **先にブレーキペダルを踏んでから操作する**

セレクトレバーを P から操作するとき、セレクトレバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

AAS モードについて (6 速オートマチック車)

AAS (アクティブアダプティブシフト) モードとは、ドライバーが快適に運転するため、道路の状況やドライバーの操作に最適なシフトポイントを自動的にコントロールするモードです。
セレクトレバーが D の状態で、登り坂や下り坂、コーナーを走行したり、アクセルペダルをすばやく操作することで AAS モードになる場合があります。
走行状態、シーンや操作に応じて、最適なギヤ位置を維持するためシフトチェンジが行なわれない場合がありますが異常ではありません。

マニュアルモード

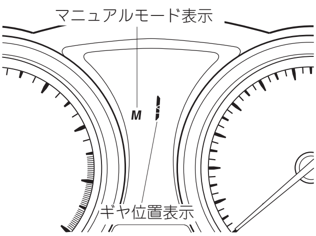


セレクトレバーを D から M にいれるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
セレクトレバーを M から D にいれるとマニュアルモードが解除されます。

知識

- (i-stop 装備車)
  マニュアルモード中は、i-stop は作動しません。i-stop を作動させたい場合は、セレ クトレバーを D の位置にいれてください。
  ダイレクトモード装備車はダイレクトモードを使用すると、D の位置でも一時的に 手動で変速できます。
  → 104 ページ「i-stop について」
  → 165 ページ「ダイレクト モード 」
- 停車時にマニュアルモードにした場合、ギヤは 1 速になります。
- (6 速オートマチック車)
  D レンジ 5 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは 5 速になります。また、D レンジ 6 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは 5 速になります。
- (CVT 車)
  マニュアルモードで走行して停車すると、自動的に 1 速になります。また停車時は、1 速に固定されます

表示灯



マニュアルモード表示

マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示灯の M が点灯します。

ギヤ位置表示

ギヤ位置が表示されます。
高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギヤ位置表示が 2 回点滅します。

知識

自動変速になる場合があります

オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温になると、ギヤ位置表示が消灯しマニュアルモードが解除されるため自動変速になる場合があります。これは AT を保護するための正常な機能です。しばらくして ATF 温度が下がるとギヤ位置表示が再び点灯しマニュアルモードでの走行が可能になります。

トランスミッションの使いかた

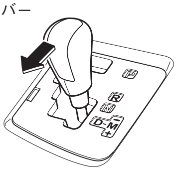
シフトチェンジ(変速)のしかた

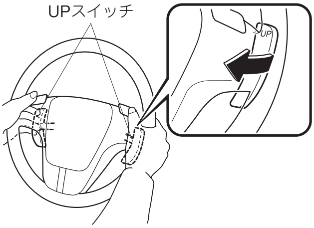
セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトチェンジすることができます。

- ステアリングシフトスイッチ装備車は、左右のステアリングシフトスイッチを同時に操作ても 1 段しか変速されません。
- ステアリングシフトスイッチ装備車は、ステアリングシフトスイッチの UP スイッチと DOWN スイッチを同時に操作しても変速されません。

シフトアップ (M1 → M2 → M3 → M4 → M5[1*2] → M6[*1*2] → M7[*2])

*1 6 速オートマチック車
*2 CVT 車





(セレクトレバーでの操作)
セレクトレバーを ＋ 側に動かすとシフトアップ (高速ギヤに変速) します。

(ステアリングシフトスイッチでの操作)
ステアリング裏側の UP スイッチを手前に引くとシフトアップ (高速ギヤに変速) します。

知識

- 低速時は速度によりシフトアップできないことがあります。
- **(4 速オートマチック車、6 速オートマチック車)**
  マニュアルモードでは自動でシフトアップしません。タコメーターの指針がレッドゾーンにはいらないように運転してください。あやまってレッドゾーンにはいった場合、エンジン保護のため燃料の供給が停止されます。このとき軽い衝撃を感じることがありますが異常ではありません。
- **(CVT 車)**
  タコメーターの指針がレッドゾーンに近づくと、トランスミッション保護のため自動的にシフトアップします。

シフトダウン (M7*2 → M6*1*2 → M5*1*2 → M4 → M3 → M2 → M1)

*1 6 速オートマチック車
*2 CVT 車

セレクトレバー



ステアリングスイッチ



(セレクトレバーでの操作)
セレクトレバーを − 側に動かすとシフトダウン (低速ギヤに変速) します。

(ステアリングシフトスイッチでの操作)
ステアリング表側の DOWN スイッチを押すとシフトダウン (低速ギヤに変速) します。

⚠ 警告

必ず守る

高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避ける。
タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでもキックダウンしません。
→ 156 ページ「オートマチック車の特性」

2 速固定モード グレード / 仕様別装備

停止または低速時 * にセレクトレバーを ＋ 側に動かして 2 速にすると 2 速固定モードになり、ギヤ位置は 2 速に固定されます。雪道などすべりやすい路面での発進や走行がしやすくなります。2 速固定モードのときに、セレクトレバーを ＋ 側または − 側に動かして 2 速以外にすると 2 速モードは解除されます。

* 4 速オートマチック車 :10km/h 以下
  6 速オートマチック車 :9.3km/h 以下

トランスミッションの使いかた

シフトチェンジ (変速) 制限速度

マニュアルモードでは、次の速度条件のときセレクトレバーを操作すると変速します。

シフトアップ				シフトダウン			
ギヤ位置	4 速オートマチック車	6 速オートマチック車	CVT 車	ギヤ位置	4 速オートマチック車	6 速オートマチック車	CVT 車
M1 → M2	0km/h 以上	9.3km/h 以上	13km/h 以上	M2 → M1	43km/h 以下	47.8km/h 以下	56km/h 以下
M2 → M3	20km/h 以上	18km/h 以上	23km/h 以上	M3 → M2	100km/h 以下	84km/h 以下	73km/h 以下
M3 → M4	35km/h 以上	31.6km/h 以上	29km/h 以上	M4 → M3	149km/h 以下	117km/h 以下	97km/h 以下
M4 → M5	–	42km/h 以上	36km/h 以上	M5 → M4	–	170km/h 以下	122km/h 以下
M5 → M6	–	50km/h 以上	44km/h 以上	M6 → M5	–	240km/h 以下	150km/h 以下
M6 → M7	–	–	53km/h 以上	M7 → M6	–	–	183km/h 以下

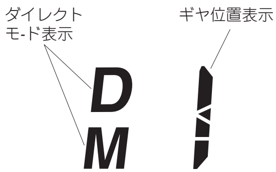
低速走行中にシフトアップする場合、各ギヤ位置での制限速度より低いときは変速しません。
高速走行中にシフトダウンする場合、各ギヤ位置での制限速度を超えているときは変速しません。このとき、ギヤ位置表示が 2 回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。
減速時、次の速度条件のときは自動的にシフトダウンします。

ギヤ位置	4 速オートマチック車	6 速オートマチック車
M2 → M1	10km/h 以下	6.3km/h 以下
M3 → M2		12km/h 以下
M4 → M3	31km/h 以下	28.4km/h 以下
M5 → M4	—	40km/h 以下
M6 → M5	—	47.3km/h 以下

知識

2 速固定モード時は、自動的に 1 速にシフトダウンしません。

ダイレクトモード グレード / 仕様別装備



セレクトレバーを D の位置で走行中、ステアリングシフトスイッチを操作すると一時的にギヤ位置を切り替えることができます。
ダイレクトモードのときは、表示灯に D と M が点灯し、使用しているギヤ位置が表示されます。
ダイレクトモードは、次の状態になると解除されます。

- 定速走行になったとき
- タコメーターの指針がレッドゾーンに近づいたとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
- 停車したとき、または、低速走行になったとき

各セレクトレバー位置での限界速度

エンジンの過回転を防ぐために、次の速度をこえないように運転してください。

セレクトレバーの位置	速度
2	100
1	46

知識

車速が各セレクトレバー位置での限界速度より高いときは、セレクトレバーを 2 または 1 に動かしてもシフトダウンしないことがあります。

トランスミッションの使いかた

オートマチック車を運転するときに

発進または後退するとき

⚠ 警告

禁止

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は慎重に行ってください。

1 ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
前進 •••D、D3、2、1、M
後退 •••R

2 セレクトレバーの位置を確認します。

3 パーキングブレーキを解除します。

4 ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

⚠ 注意

必ず守る

後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。

知識

- セレクトレバーを R にいれるとチャイムが鳴り、セレクトレバーが R にはいっていることを運転者に知らせます。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーを R にいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーを N にもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルをゆっくり踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキをもどします。

走行するとき (オートマチックトランスミッション車)

通常走行

セレクトレバーを D にいれて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速 / 減速します。

(4 速オートマチック車)

ギヤは 1 速から 4 速の間で、自動的に変速されます。

(6 速オートマチック車)

ギヤは 1 速から 6 速の間で、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行 グレード / 仕様別装備

停車中または走行中にセレクトレバーを D から M にいれると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。

→ 160 ページ「マニュアルモード」

急加速

セレクトレバーが D のとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速できます。

急な上り坂での走行

(2WD 車)

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

(4WD 車)

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを 2 または 1 にいれてください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

(2WD 車)

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギヤにシフトダウンしてください。

マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて 1 段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

(4WD 車)

エンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーを D3 にいれてください。さらに強力なエンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーを 2 または 1 にいれてください。

トランスミッションの使いかた

走行するとき (CVT 車)

通常走行

セレクトレバーを D にいれて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速 / 減速します。ギヤは車速とアクセルペダルの踏み加減に応じて、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行 グレード/仕様別装備

停車中または走行中にセレクトレバーを D から M にいれると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
→ 160 ページ「マニュアルモード」

急加速

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギヤにシフトダウンしてください。
マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて 1 段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

停車するとき

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N または P にいれます。

⚠ 警告

禁止

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。
セレクトレバーが P、N 以外にはいっているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。
意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

禁止

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

1 車を完全に止めます。
2 セレクトレバーをＰにいれます。
3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
4 エンジンを止めます。

警告

必ず守る

駐車するときは、セレクトレバーをＰにいれ、パーキングブレーキをかける。

パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをＰにいれただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止

エンジンをかけたまま駐車しない。

万一セレクトレバーがＰ以外にはいっていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

必ず守る

セレクトレバーをＰにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをＰにいれると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

警告

禁止

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進しない。

エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキ

ブレーキの操作

パーキングブレーキ

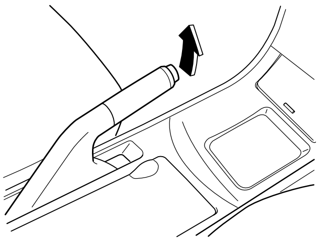
⚠ 警告

禁止

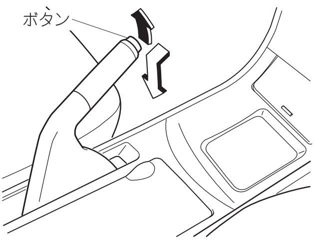
パーキングブレーキをかけたまま走行しない。

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱するためブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

かけるとき



解除するとき



レバーを少し引き上げ、先端のボタンを押してもどします。

4WD について グレード/仕様別装備

4WD は、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。

走行するときは

オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。
4WD 車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。

スイッチの使いかた

ヘッドランプスイッチ

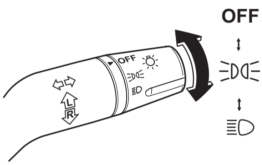
ヘッドランプの点灯 / 消灯

電源ポジションに関係なく使用できます。ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯 / 消灯します。

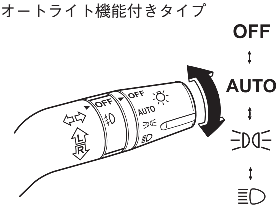
知識

エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

標準タイプ



オートライト機能付きタイプ



スイッチ位置	ランプ名称	
	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	消灯	消灯
AUTO	自動で点灯 / 消灯	
	消灯	点灯
	点灯	点灯

オートライト機能 (オートライト機能付きタイプ)

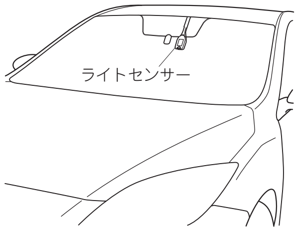
電源ポジションが ON のとき使用できます。
ランプスイッチを AUTO の位置にすると、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯 / 消灯します。

周囲の明るさ	明るい	薄暗い	暗い
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

⚠ 注意

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

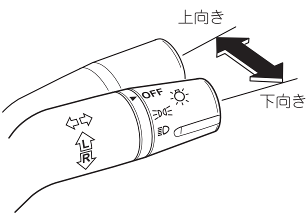
禁止



知識

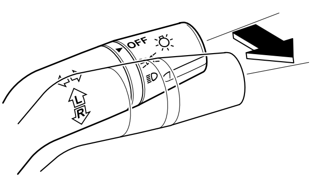
長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。
この場合はランプスイッチを OFF の位置にすれば消灯します。

ヘッドランプの切り替え



ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。
上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

パッシング合図



ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。
同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

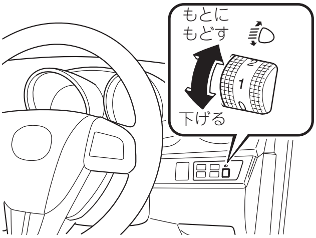
スイッチの使いかた

ヘッドランププレベリング

オートタイプ

ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

マニュアルタイプ



ヘッドランプが点灯しているとき、ヘッドランプの照らす方向を下向きに調節することができます。乗員や荷物が多いときなど、ヘッドランプが通常よりも上向きを照らしているときは、スイッチを下方向にまわしてヘッドランプの照らす方向を下向きにしてください。スイッチの数字が大きいほど下向きになります。

スイッチ位置の目安

積載状況		スイッチ位置
乗員	荷室	
運転席のみ乗車時	非積載時	0
	満載時	3
運転席と助手席乗車時	非積載時	0
全席乗車時	非積載時	1
	満載時	2

知識

車検などで光軸調整をするときは、スイッチの位置を **0** にしてから行なってください。

ディスチャージヘッドランプについて グレード/仕様別装備

ディスチャージヘッドランプは、太陽光に近い白い光で広範囲を照らします。
ヘッドランプのロービーム、ハイビームに装備されています。

⚠ 警告

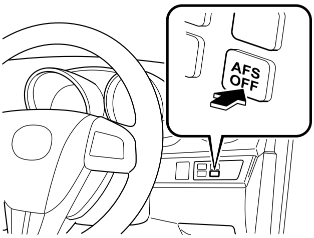
必ず守る　ディスチャージヘッドランプの交換・修理をするときは、必ずマツダ販売店へ相談する。

ロービーム、ハイビームにはディスチャージヘッドランプが装備されています。ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

AFS(アダプティブフロントライティングシステム)について

AFS(アダプティブフロントライティングシステム)は、エンジン回転中、ヘッドランプが点灯しているとき、ハンドルの操作にあわせてヘッドランプの照らす方向を左右に自動で調節するシステムです。

AFS OFF スイッチ

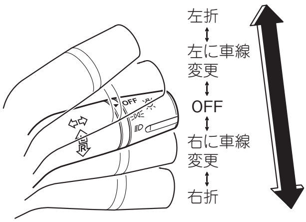


AFS OFF スイッチを押すことにより AFS を解除することができます。
もう一度スイッチを押すと、AFS OFF 表示灯が消灯し、AFS が作動可能な状態になります。

スイッチの使いかた

方向指示器

方向指示器の操作



電源ポジションが ON のとき使用できます。

車線変更する場合

レバーを車線変更の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

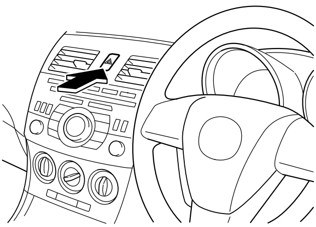
左折、または右折する場合

レバーを左折または右折の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、ハンドルをもどすと、自動でもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

知識

- 点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 方向指示器のブザー音量を変更することができます。
  → 141 ページ「セッティング」

非常点滅灯スイッチ



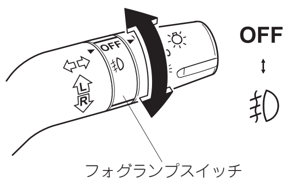
故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯および、メーター内にある非常点滅表示灯も点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

- すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示灯が点滅することがあります。
  → 184 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」
- エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意をうながします。
  → 184 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」

フォグランプスイッチ グレード/仕様別装備

霧などで視界が悪いときに使用します。



ランプスイッチが または の位置のとき使用できます。
フォグランプスイッチを の位置にすると、フォグランプが点灯します。フォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が点灯します。
フォグランプスイッチを OFF の位置にする、またはランプスイッチを OFF の位置にすると消灯します。

ワイパー / ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき作動します。

警告

必ず守る
寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスをあたためてから行なう。
ウォッシャー液がガラス面で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

必ず守る
凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。

必ず守る
ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。

禁止
ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないままで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

スイッチの使いかた

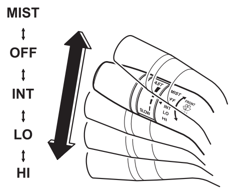
知識

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。針などでつまりを取ってください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを OFF の位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

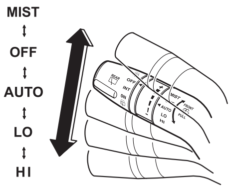
フロントワイパー / ウォッシャー

ワイパーの操作

標準タイプ

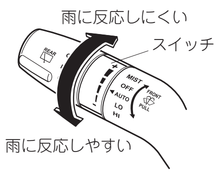


オートワイパー機能付きタイプ



レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
AUTO	オートワイパー機能
LO	低速作動
HI	高速作動

オートワイパー機能 (オートワイパー機能付きタイプ)



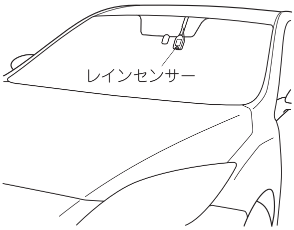
レバーを AUTO 位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、ワイパーが自動で作動します。
スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動

⚠ 注意

禁止

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが雨量を正確に感知できなくなります。



禁止

電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、つぎのような場合はワイパーが自動で作動することがあります。手や指を挟まないよう注意してください。万一手や指を挟むと、けがやワイパーの故障につながるおそれがあります。

- フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき。
- フロントガラスのレインセンサー上部を布などで拭いたとき。
- フロントガラスに衝撃をあたえたとき。
- レインセンサーに車内から衝撃をあたえたとき。

必ず守る

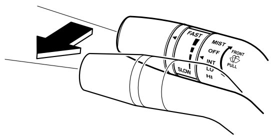
洗車やメンテナンスを行なうときは、ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。

知識

- レインセンサーの温度が－ 10° C 以下、または 85° C 以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。
- フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
- フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物 (氷や塩水などを含むもの) が付着しているときや、フロントガラスが凍っているとき、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを **LO** または **HI** にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。
- レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線等の影響により、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを OFF の位置にして走行することをおすすめします。

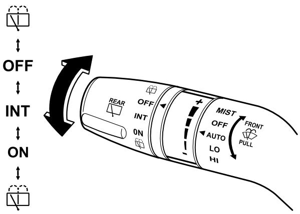
スイッチの使いかた

ウォッシャーの操作



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

リヤワイパー / ウォッシャー (ハッチバック)

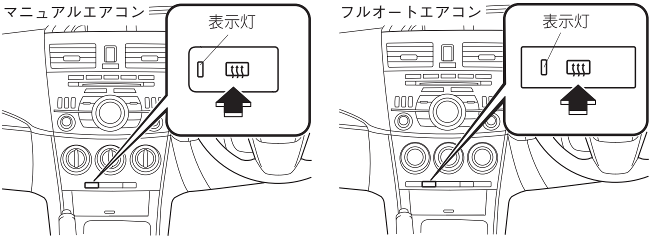


スイッチ位置	作動状態
	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動 *1
ON	連続作動
INT	間欠作動
OFF	停止
	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動

*1 ワイパーの作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを ON の位置から上側にまわします。

リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リヤウインドーを熱線であたため、曇りを取ります。
電源ポジションが ON のとき使用できます。
スイッチを押すと約 15 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



⚠ 注意

禁止

リヤウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。
→ 300 ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

知識

エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ミラーの曇り取り （グレード / 仕様別装備）

電源ポジションが ON のとき、リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーの曇りが取れます。
→ 181 ページ「リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

ホーン

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

ABS について

ABS とは

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

⚠ 警告

必ず守る

ABS を過信せず安全運転に心がける。

ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ジャリ道、新雪道を走行しているとき。**
- **タイヤチェーンを装着しているとき。**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。**
- **凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。**

⚠ 注意

必ず守る

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

ABS 装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1. 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
2. ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。
3. 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

知識

- ABS は低速 (約 10km/h 以下) では作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後にモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ヒルローンチアシスト (HLA) とは (i-stop 装備車)

ヒルローンチアシスト (HLA) とは、坂道発進を補助する機能です。坂道で停車したとき、ブレーキペダルから足を放してもブレーキ力を保持し、アクセルペダルへの踏み替えの際に車両が後退することを防ぎます。
セレクトレバーを R に入れているときは下り坂で作動し、R 以外に入れているときは上り坂で作動します。

警告

禁止

ヒルローンチアシストを過信しない。
ヒルローンチアシストはあくまでも発進するときの補助装置です。システムが作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので、システムを過信して発進すると車両が動き出して思わぬ事故につながる恐れがあるため危険です。

知識

- 低勾配の坂道ではヒルローンチアシストが作動しません。また、積載状態によって作動する勾配が若干変化します。
- パーキングブレーキを引いているときはヒルローンチアシストは作動しません。
- ヒルローンチアシスト作動中にブレーキペダルが硬くなったりペダルが振動することがありますが、異常ではありません。
- TCS/DSC 作動表示灯点灯中、ヒルローンチアシストは作動しません。
- DSC OFF スイッチを押して TCS/DSC を解除してもヒルローンチアシストは解除されません。
- i-stop 警告灯 (橙) が点滅しているときはヒルローンチアシストが作動しないことがあります。

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は緊急制動時などに車両に急減速が生じたかを判断し、方向指示灯の点滅により、後続車に注意をうながすシステムです。
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させます。
ブレーキペダルを放すか、車両の減速度から急ブレーキではないと判断されたときにシステムは解除されます。

知識

- **点滅について**
  すべての方向指示灯が高速点滅中に停車した場合、すべての方向指示灯はブレーキを踏んでいる間、通常の周期で点滅し続けます。
- **作動について**
  エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は約 50km/h 以下のときは作動しません。
- **(DSC 装備車)**
  エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は解除することができます。
  → 187 ページ「DSC OFF スイッチ」

トラクションコントロールシステム (TCS) について

TCS とは グレード/仕様別装備

TCS (トラクションコントロールシステム) は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

警告

TCS を過信せず安全運転に心がける。
必ず守る
TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- エンジン回転が高いときに TCS が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- TCS を解除するときは、DSC OFF スイッチを押して解除してください。
→ 187 ページ「DSC OFF スイッチ」

TCS/DSC 作動表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について

DSC とは グレード/仕様別装備

DSC (ダイナミック・スタビリティ・コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえるため、ABS や TCS などにより、ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。
DSC は約 20km/h 以上で作動可能な状態になります。
「ABS について」、「TCS について」もあわせてお読みください。
→ 182 ページ「ABS とは」
→ 185 ページ「TCS とは」

⚠ 警告

必ず守る

DSC を過信せず安全運転に心がける。
DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
特に DSC 作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

⚠ 注意

必ず守る

DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。
- **前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。**
- **摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。**
- **指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用しないでください。**

知識

- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSC が正常に作動しないことがあります。
- 電源ポジションを ON にした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TCS/DSC 作動表示灯



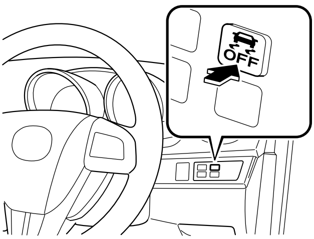
点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

DSC OFF スイッチ



スイッチを押すと TCS/DSC が解除され、メーター内の DSC OFF 表示灯が点灯します。
もう一度押すと TCS/DSC が作動可能な状態になり、DSC OFF 表示灯が消灯します。

知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS が作動し、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときに TCS/DSC を解除します。
- TCS/DSC を解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると TCS/DSC は作動可能な状態にもどります。
- TCS/DSC を解除したときは、TCS/DSC が装備されていない車と同じ走行性能になります。
- DSC を解除した状態で走行中ブレーキペダルを踏んだときに、DSC の作動が必要であると判断された場合、DSC が作動することがあります。
- DSC OFF スイッチを 5 秒以上押し続けると、TCS/DSC およびエマージェンシーシグナルシステム (ESS) を解除することができます。この場合、DSC OFF 表示灯が点灯します。この状態は一度エンジンを停止し、エンジンを再始動するまで継続します。次にエンジンを始動すると、すべて作動可能な状態にもどります。

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について

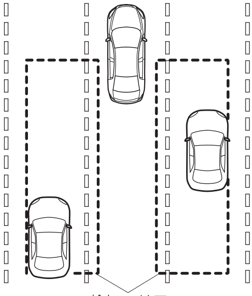
DSC OFF 表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- DSC OFF スイッチを押して、TCS/DSC を解除すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - TCS/DSC を解除していないのに点灯したとき。

リアビークルモニタリングシステムとは グレード/仕様別装備



リアビークルモニタリングシステムは、自車の隣接車線の後方から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時の後方確認をアシストするシステムです。
当システムの検知エリアは、自車の左右に隣接する車線で、自車のフロントドア後端付近から自車の後方約 50m までです。
当システムは、後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置した RVM 接近表示灯を点灯させます。RVM 接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、RVM 接近表示灯が点滅するとともに警報チャイムによってドライバーに危険を知らせます。

⚠ 警告

必ず守る

実際の車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。

本システムは車線変更時の後方確認をアシストするシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、隣接車線に車両が存在する場合でも RVM 接近表示灯が点灯しなかったり、点灯が遅れる場合があります。必ず、ドライバーの責任において後方を確認してください。

運転する前に
運転するときに
室内装備の使い方
お手入れのしかた
トラブルが起きたら
車両スペック
さくいん

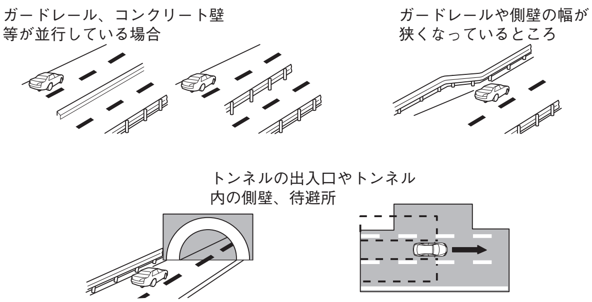
リアビークルモニタリングシステムについて

知識

- リアビークルモニタリングシステムは次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - RVM スイッチを押してメーター内の RVM 表示灯 (緑) が点灯しているとき
  - 車速が約 60km/h 以上のとき
- リアビークルモニタリングシステムは次のときには作動しません。
  - RVM 表示灯 (緑) が点灯している場合でも、車速が約 60km/h を下回ったとき
  - 自車がセレクトレバーを R にいれて後退走行中のとき
- 次の場合、システムは RVM 警告灯 (橙) を点灯させ、システムの作動を停止します。RVM 警告灯 (橙) が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - RVM 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき (リアビークルモニタリングシステムのレーダーセンサーが接近車両を正しく検出するために、車両搭載状態でレーダーセンサーの向きを車両ごとに調整して出荷しています。レーダーの向きが何らかの原因でずれた場合は再調整が必要です。)
  - レーダーセンサー付近のリヤバンパー上に雪や氷などが多量についたとき
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダー付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき
- レーダーの検知性能には限界があります。次のような場合はリアビークルモニタリングシステムの検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  - レーダーセンサー付近のリヤバンパーが変形したとき
  - リヤバンパーのレーダーセンサー付近に氷、雪や泥が付着しているとき
  - 雨、雪、霧などの悪天候のとき
- 次のような車両に対してはレーダーセンサーが検知しないか、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 小型の二輪車、自転車、歩行者、道路上および道路端の静止物体
  - レーダーが反射しにくい形状の車両 (車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカー等)
  - 隣車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両 (接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています。)
  - 自車とほとんど速度差なく長い時間並走している車両
  - 対向車
  - 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両
  - 道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両 (レーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)

知識

- 次のような場合は、RVM 接近表示灯の点灯および警報チャイムの警告が遅れるか、点灯 / 警告ができないことがあります。
  - 車両が 2 つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき
  - 急勾配を走行しているとき
  - 峠を越えるとき
  - 急カーブを走行しているとき
  - 自車線と隣接車線の高さに差があるとき
  - リアビークルモニタリングシステムを ON にした直後
- 道路幅が極端に狭い場合は、2 車線横の車両を検知する場合があります。(レーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
- 道路上および道路端の停止物 (ガードレール、トンネル、側壁等) に対して RVM 接近表示灯が点灯する場合があります。



- トレーラー等をけん引したり、車両後部に自転車のキャリア等を装着した場合は、リアビークルモニタリングシステムを解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。
- リアビークルモニタリングシステムのレーダーセンサーは日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

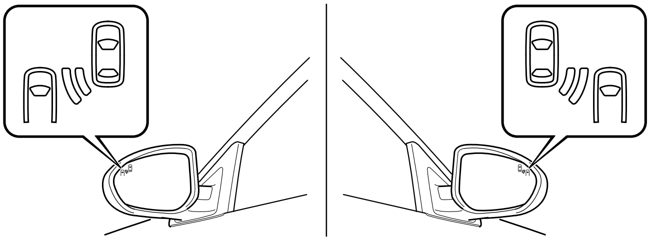
リアビークルモニタリングシステムについて

RVM 接近表示灯 / 警報チャイム

リアビークルモニタリングシステムが作動中は、RVM 接近表示灯や警報チャイムで、隣接車線に車両があることを知らせます。

RVM 接近表示灯

ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。点灯した状態で、点灯側へ方向指示器のレバーを操作すると点滅し、ドライバーに危険を知らせます。



減光解除機能

ランプスイッチを または の位置にすると、RVM 接近表示灯が点灯したときの明るさは減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態では RVM 接近表示灯が見えにくい場合には、減光解除ボタンを押すと減光が解除され RVM 接近表示灯が点灯したときの明るさが明るくなります。
→ 125 ページ「減光解除ボタン」

警報チャイム

RVM 接近表示灯の点滅と同時に吹鳴し、ドライバーに危険を知らせます。

知識

警報チャイムの音量を変更することができます。
→ 141 ページ「セッティング」

RVM 警告灯 (橙)/ RVM 表示灯 (緑)

RVM 警告灯 (橙)

RVM

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、リアビークルモニタリングシステムが作動可能なときは RVM 表示灯 (緑) に切り替わります。 リアビークルモニタリングシステムが解除されているときは消灯します。
- システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

悪天候、バンパーの汚れ等によりレーダー感度が一時的に低下し点灯することがありますが、故障ではありません。

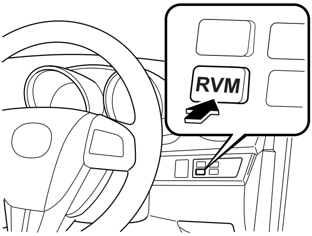
RVM 表示灯 (緑)

点灯するとき

リアビークルモニタリングシステムが作動可能なとき点灯します。

リアビークルモニタリングシステムについて

RVM スイッチ

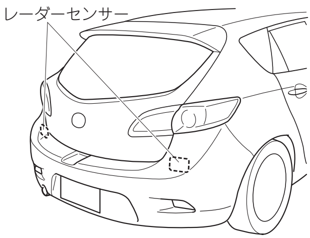


スイッチを押すとメーター内のRVM表示灯 (緑) が点灯し、リアビークルモニタリングシステムが作動可能な状態になります。
もう一度押すとリアビークルモニタリングシステムが解除され、RVM 表示灯 (緑) が消灯します。

知識

- 電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、リアビークルモニタリングシステムが作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときはリアビークルモニタリングシステムは作動可能な状態のままです。
- バッテリーのターミナルやヒューズの脱着などにより、バッテリーとの接続が断たれるとリアビークルモニタリングシステムは OFF になります。リアビークルモニタリングシステムを作動させる場合は、RVM スイッチを押して ON にしてください。

レーダーセンサーの取り扱い



リアビークルモニタリングシステムのセンサーはリヤバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
リアビークルモニタリングシステムの正しい作動のため、レーダーセンサー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカー等も貼り付けないでください。
→ 298 ページ「外装の手入れ」

知識

レーダーセンサーの修理、交換およびレーダーセンサー付近のバンパーの修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

クルーズコントロールとは グレード/仕様別装備

アクセルペダルを踏まなくても車速を約 30 ～ 100km/h の間に設定できる装置です。
高速道路、加速 / 減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

警告

禁止

次のような場所では使用しない。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)**
- **急な下り坂 (エンジンブレーキが十分に効かず、セット速度をこえることがあります)**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)**

表示灯

CRUISE

クルーズメイン表示灯 (橙)

点灯するとき

ON スイッチを押すと点灯します。
OFF スイッチを押すと消灯します。

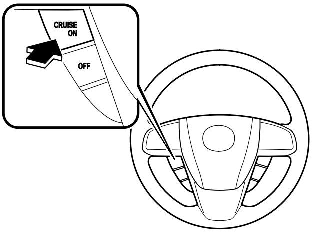
クルーズコントロール表示灯 (緑)

点灯するとき

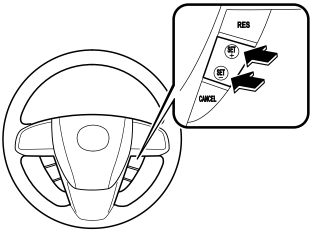
速度が設定されると点灯します。
OFF スイッチを押すと消灯します。

クルーズコントロールについて

設定するとき



1 ON スイッチを押すと速度の設定ができる状態になります。同時にメーター内のクルーズメイン表示灯が点灯します。



2 アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。

3 SET ＋ または SET － スイッチを押すと定速走行をはじめます。同時にメーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。クルーズコントロール表示灯が点灯したら、すぐにスイッチから手を離します。

⚠ 警告

必ず守る

クルーズコントロールを使用しないときは、必ず OFF にする。

常に使用できる状態にしておくと、誤ってクルーズコントロールを作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

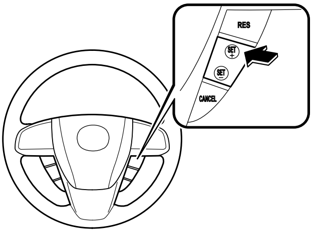
知識

- 急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- SET ＋ イッチを押したままにすると加速をはじめます。SET － スイッチを押したままにすると減速をはじめます。

設定速度を上げるとき

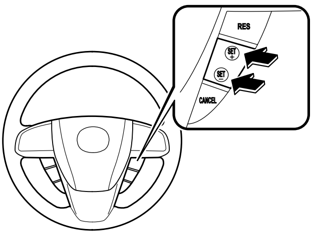
次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき



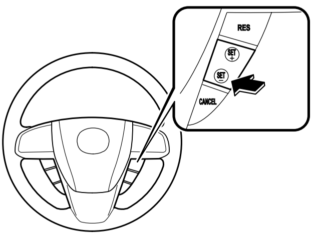
SET ＋ スイッチを押したまま、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき



アクセルペダルを踏み、希望の速度になったところで SET ＋ または SET − スイッチを押します。
スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を離すと、もとの設定速度にもどります。

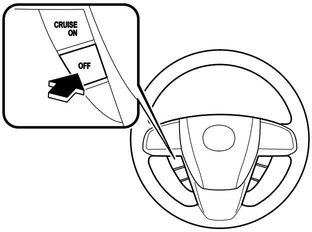
設定速度を下げるとき



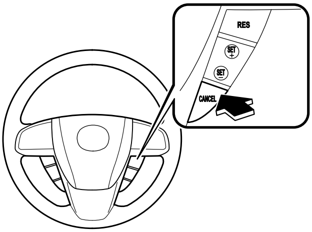
SET − スイッチを押し続け、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4km/h 下がります。

クルーズコントロールについて

解除するとき



OFF スイッチを押すと、クルーズコントロールが解除され、クルーズコントロール表示灯とクルーズメイン表示灯が消灯します。



次のようなときは、クルーズコントロールが解除されクルーズコントロール表示灯が消灯しますが、クルーズメイン表示灯は点灯したままです。車速が 30km/h 以上であれば、RESUME スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。

- CANCEL スイッチを押したとき。
- ブレーキペダルを踏んだとき。
- 車速が設定速度から 15km/h 以上下がったとき。

知識

車速が 30km/h 未満になると、クルーズコントロールが解除されます。この場合、車速を 30km/h以上にしてRESUMEスイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。クルーズコントロールを設定しなおしてください。

駐車支援システムとは グレード/仕様別装備

駐車支援システムについて

駐車支援システムは以下のバックガイドモニターにより構成されています。

バックガイドモニター

車両後方の映像上に映し出したガイド線で、車の後退を補助するシステムです。

⚠ 警告

必ず守る

必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。

バックガイドモニターはあくまでも後退操作を行なうための補助装置です。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。画面だけを見て前進／後退すると障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

禁止

以下のような状況では危険ですので、駐車支援システムを使用しないでください。

- **凍結した滑りやすい路面や雪道**
- **タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき**
- **トランクまたはリヤゲートが完全に閉まっていないとき**
- **坂道などの平坦でない道路**

必ず守る

ディスプレイが冷えているとき、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなり、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

禁止

カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。

禁止

カメラ部は防水構造となっていますので、分解・改造・取りはずしをしないでください。

禁止

カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤・有機溶剤・ワックス・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布等でふき取ってください。

禁止

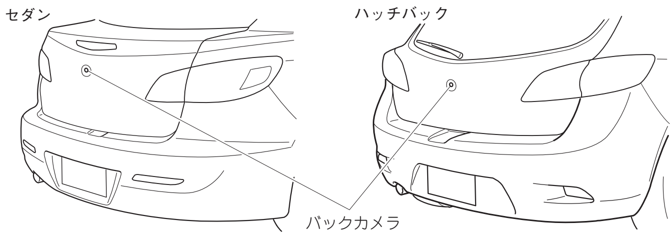
カメラのカバーを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カバーが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。

駐車支援システム

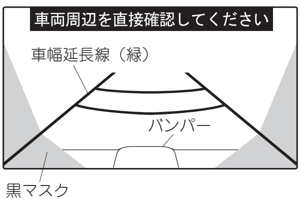
知識

- タイヤを交換するときはマツダ販売店にご相談ください。タイヤ交換すると画面に表示されるガイド線の表示位置が変化することがあります。
- カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布等でふき取ってください。よごれがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 車両前部 / 側面 / 後部をぶつけたときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化をあたえると、バックガイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。

カメラの取り付け位置



画面の見方



バックガイドモニターに映し出される映像は、新しく採用された超広角カメラにより、車両の後方視界が、広範囲に見えます。
モニターの画面左右に黒マスクを入れています。
この黒マスクの角度が変わっている部分は、車幅の目安を表しており、広範囲の後方視界を、ガイド線によって示された車幅内の状況とガイド線外側の周辺の状況に分けて見やすくしています。

バックガイドモニターに切り替えるには

電源ポジションが ON のとき、チェンジレバーまたはセレクトレバーを R に入れるとバックガイドモニターに切り替わります。

知識

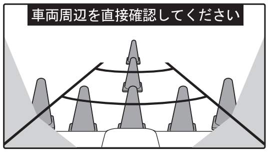
チェンジレバーまたはセレクトレバーを R 以外の位置に入れると、バックガイドモニター作動前に表示していた画面に戻ります。

バックガイドモニターについて

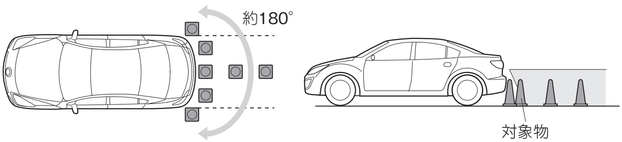
画面に映し出される範囲について

車両後方の映像を映し出して駐・停車時に障害物や車間距離を確認するときの補助としてご使用ください。
車両後部に設置されたカメラから、ほぼ水平に映し出します。

（画面の状況）



（実際の状況）



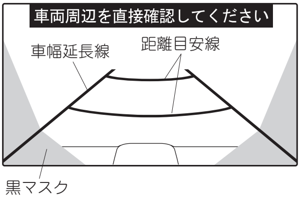
知識

- 自車の状況や路面状況により、映し出される範囲は異なります。
- カメラが映す範囲には限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
- バックガイドモニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
- バックガイドモニターは鏡面画像になっています。
- 装備によってはカメラに写りこむ場合があります。カメラの視野に影響をおよぼすもの (視野を遮るもの、光を発するもの、光沢素材でできたものなど) は取り付けないでください。
- 次のような状況では、画面が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 夜間など暗いところ
  - レンズ付近の温度が高い / 低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物がついたとき
  - 太陽やヘッドランプなどの光がカメラのレンズに直接当たったとき

駐車支援システム

画面の見方 (詳細)

車庫入れ時などに使用してください。



車幅延長線 (緑色)

- 車幅の延長の目安を示すライン

距離目安線

- 車両後方の距離 (バンパー後端から) を示すライン
  - 赤色のラインは約 0.5m 先を示します。
  - 黄色のラインは約 1.0m 先を示します。

黒マスク

- モニターの画面左右に黒マスクを入れています。この黒マスクの角度が変わっている部分は車幅の目安を表示しており、広範囲の後方視界をガイド線によって示された車幅内の状況とガイド線外側の周辺の状況に分けて見やすくしています。

バックガイドモニターの操作

注意

必ず守る

バックガイドモニターを使って駐車する方法は、駐車時の道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況に合わせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐車スペースに車両が駐車できるかを確認してください。

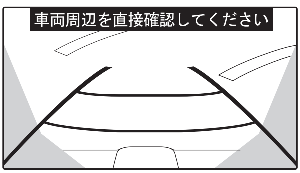
知識

次に示す状況は、ハンドルを右側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

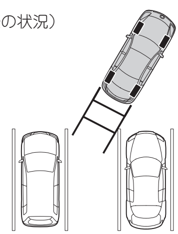
1 チェンジレバーまたはセレクトレバーを R の位置にし､バックガイドモニターを表示します。

2 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

（画面の状況）

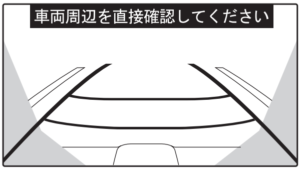


（実際の状況）

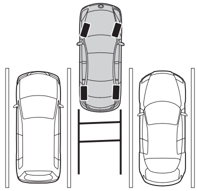


3 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

（画面の状況）



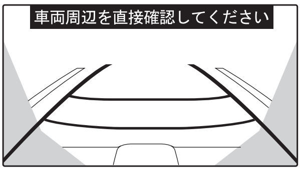
（実際の状況）



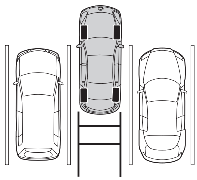
4 車幅延長線と駐車スペースが平行になるようにハンドルを操作します。

5 平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。(駐車スペースに区画線がある場合は区画線と車幅延長線が平行になったら)

（画面の状況）



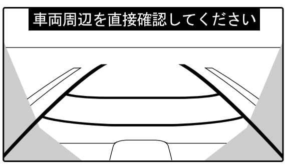
（実際の状況）



知識

駐車するときは、以下のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

- 画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えても、実際には平行でないことがあります。
- 駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。



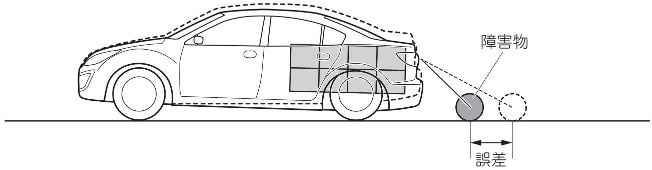
駐車支援システム

実際の画面と路面の誤差

実際の路面と画面上の路面とでは誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

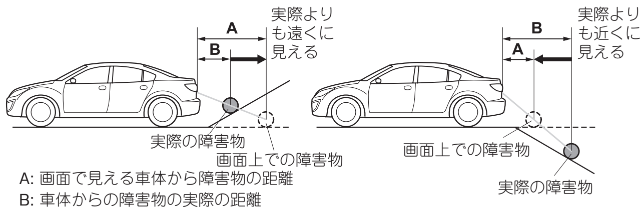
人や荷物の重みで車が傾いているとき

車両が傾いて後部が下がっているときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠くにあるように見えます。



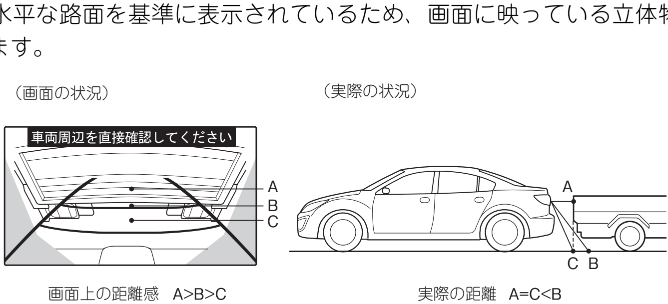
車両後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

車両後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。



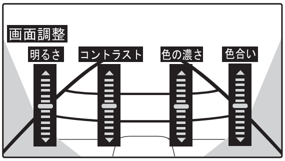
車両後方に立体物があるとき

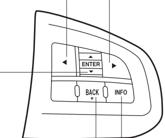
距離目安線は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。



画質調整をするときは

カメラ画面表示中にENTER/上下スイッチを押すと、画面調整画面が表示されます。
調整項目は、明るさ、コントラスト、色の濃さ、色合いの4種類があります。





1 左右スイッチを押して、調整項目を選択します。
2 ENTER/上下スイッチを押し上げるか引き下げて、設定値を変更します。
3 ENTER/上下スイッチを押して、変更を確定させます。
設定後は操作前の画面(カメラ画面)に切り替わります。

警告

必ず守る

画質調整は、車が止まっているときに行なう。
走行中は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

必ず守る

チェンジレバーまたはセレクトレバーがRレンジで操作するときは、十分に注意して行なってください。

様々な状況での運転のときは

悪天候での運転

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。このようなとき、エアコンを使用して曇りを取ることができます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

冠水した道路は

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

積雪、寒冷時の運転

すべりやすい路面を走行するときは

早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
→ 306 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは



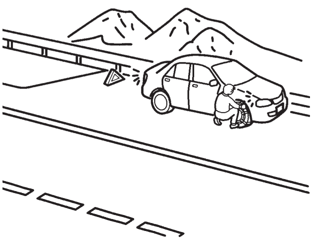
- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- パーキングブレーキは使わず、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P にいれてタイヤに輪止めをしてください。
- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

⚠ 注意

必ず守る

運転席 / 助手席側ワイパーアームを起こすときは、運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから降ろしてください。ワイパーアームとブレードが接触し損傷するおそれがあります。

タイヤチェーンの取り付け



タイヤチェーンは 4WD 車も前輪に取り付けます。タイヤチェーンはタイヤサイズにあった純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

様々な状況での運転のときは

注意

必ず守る
標準タイヤのみタイヤチェーンの装着ができます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、タイヤチェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。くわしくはマツダ販売店にご相談ください。

必ず守る
応急用スペアタイヤにタイヤチェーンは装着できません。前輪がパンクしたときは応急用スペアタイヤを後輪に、はずした後輪を前輪に取り付け、前輪にタイヤチェーンを装着してください。

必ず守る
純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

禁止
積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。また、4WD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。

必ず守る
タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下で走行してください。30km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
- ホイールキャップ装着車は、キャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。
- 18 インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、ボディーなどに干渉し傷を付けることがあるため装着できません。タイヤチェーンを使用するときは、17 インチ冬用タイヤに前後輪とも交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- アルミホイール装着車にタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

環境保護のために

経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。
以下に示す数値は、対象車種 2.0 リットル乗用車 (AT) の燃費＝ 11.7km/l (10•15 モード) が計算ベースです。 (社団法人日本自動車工業会調べ)

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車のときにもエンジンを止めましょう。5 分間アイドリングをやめると、約 65ml の燃料を節約できます。

不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。
10kg の荷物を降ろして 50km 走ると、約 15ml の燃料を節約できます。

空ぶかしをしない

空ぶかしは環境にも車にもよくありません。
空ぶかしを 10 回やめると、約 60ml の燃料を節約できます。

エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を控えると、燃料の節約になります。エアコンを 5 分間停止すると、約 55ml の燃料を節約できます。

タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。
適正値で 50km 走ると、50kPa 減のときに比べて、約 150ml の燃料を節約できます。

ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。
急発進を 10 回やめると約 170ml、急加速を 10 回やめると約 110ml の燃料を節約できます。

経済的速度

一般道路で 40km/h、高速道路で 80km/h 程度の等速走行が経済的です。

アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時(オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

一定速度のとき

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。
アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

環境保護のために

10•15 モード燃費について

「10•15 モード」とは

知識

車両カタログに記載されている「10•15 モード」燃費は、一定の条件に従って測定された燃費です。
このモードは都市内走行状態を再現したもので、図 1 のようにシャシーダイナモメーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図 2 のようなパターンを走行するものです。

図1.シャシーダイナモメーター

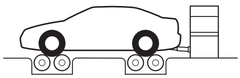
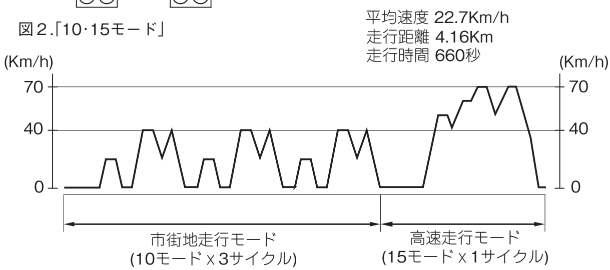


図２.「10·15モード」



「10•15 モード」は、都市内走行状態を再現したものですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、
例えば

- 走行速度の平均が「10•15 モード」より低い
- 停車比率 (運転中に車が止まっている割合) が高い
- 急な加速を行った

など条件の違いにより燃費が悪くなります。

参考資料

- (社) 日本自動車工業会 :「あしたへ ECO-MOTION」
- (社) 日本自動車連盟 :「ECO MANUAL 車に関する環境エコ基礎知識集」

3 快適装備の使いかた

空調

エアコンの上手な使いかた

エアコンを使用する前に

外気取り入れ口について

フロントガラス前部の外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いておきましょう。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。

エアコンを使用するときは

使用について

エアコンはエンジンをかけた状態で使用してください。

知識

i-stop 装備車

- エアコンの操作により、アイドリングストップしないことや、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。
  → 104 ページ「i-stop について」
- オート作動時のアイドリングストップ中は、吹き出し風量がやや減少します。
- アイドリングストップ中は、快適な温度を保持するため、インストルメントパネル中央付近からエアコン装置 (モーター等) の作動音が聞こえることがあります。

外気導入と内気循環について

外気導入は、換気したいときやガラスの曇りを取るときに使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど、外気を遮断したいときに使用してください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

エアコンを使用したあとは

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときにも、内部のオイル循環のため、1 か月に 1 回程度エアコンを作動させてください。

エアフィルターについて

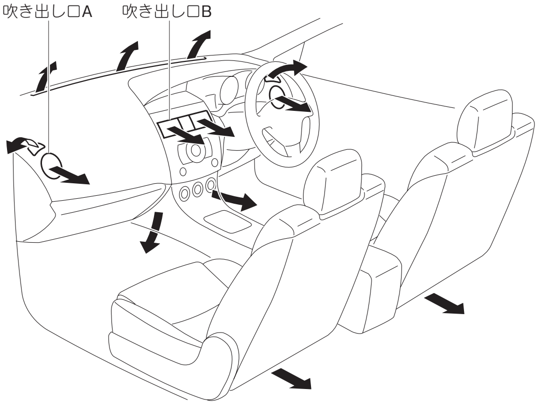
花粉やほこりなどの集じん機能を持ったエアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために定期的に交換してください。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

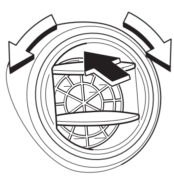
知識

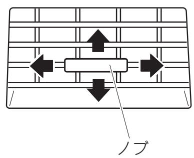
- エアコンの風量が著しく減少したときはエアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- 大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

吹き出し口



吹き出し口の調節

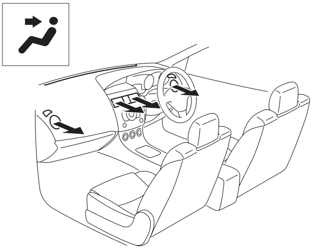




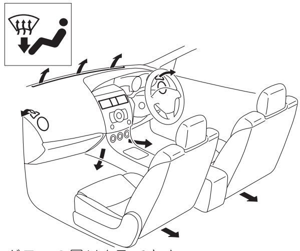
吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

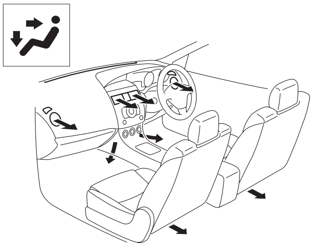
上半身に送風するとき



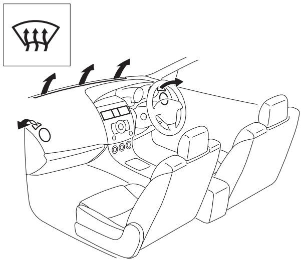
足元への送風とガラスの曇りを取るとき



上半身、足元に送風するとき



ガラスの曇りを取るとき

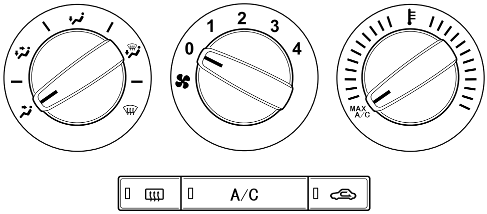


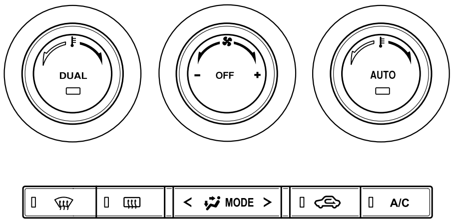
主に足元に送風するとき



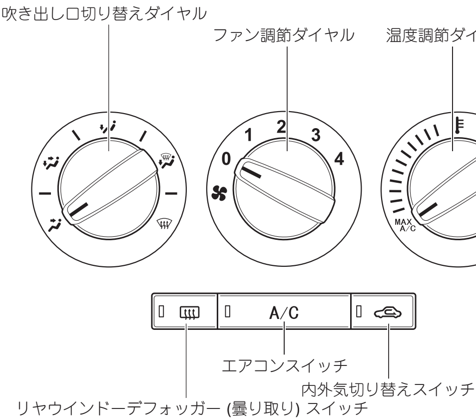
空調

エアコンの種類





マニュアルエアコン



各スイッチの使いかた

温度調節ダイヤル

ダイヤルをまわして吹き出し風の温度を調節します。

ファン調節ダイヤル

風量を 4 段階に調節できます。

吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

→ 217 ページ「吹き出し口の選択」

知識

- 吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にし、温度調節ダイヤルを中間温度付近で使用すると暖められた風が足元から吹き出し、比較的温度の低い風が中央および左右から吹き出します。
- 各モードの中間位置 (❙) でも固定することができます。風量を少し変えたいときに使用します。

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルが 1 ～ 4 のとき、スイッチを押すごとにエアコン (冷房・除湿機能) の作動と停止が切り替わります。

エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

- 外気温が 0° C 近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。
- 吹き出し口切り替えダイヤルが または の位置にあり、ファン調節ダイヤルが 0 以外で温度調節ダイヤルを MAX A/C の位置にすると、自動的に内気循環に切り替わり、エアコンが作動します。エアコンの作動を停止させたいときは、エアコンスイッチを押してください。

空調

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

知識

寒いときや湿度が高いときは、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

ガラスの曇りを取るとき

吹き出し口切り替えダイヤルを にします。
風量はお好みにあわせて調節してください。

警告

禁止

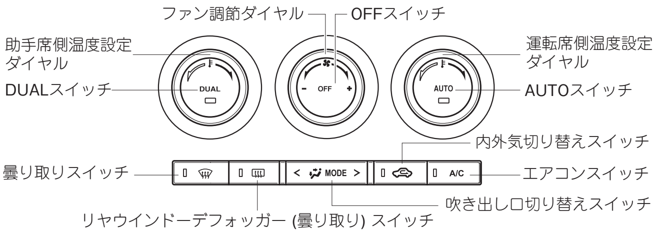
ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

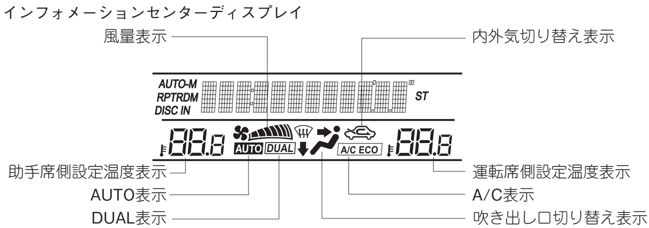
知識

吹き出し口を または に設定すると自動的に外気導入に切り替わります。

フルオートエアコン

エアコンの表示はインフォメーションセンターディスプレイの表示部に表示されます。
→ 126 ページ「インフォメーションセンターディスプレイ」





各スイッチの使いかた

AUTO スイッチ

スイッチを押すと設定温度にあわせて、以下の機能が自動制御されます。

- 吹き出し風の温度調節
- 吹き出し風量調節
- 吹き出し口の切り替え
- 内気循環 / 外気導入の切り替え
- エアコン (冷房・除湿機能) の作動 / 停止
- A/C と A/C ECO の切り替え

空調

知識

表示灯について

- 点灯―オート作動時。
- 消灯―オート作動中に吹き出し口切り替えスイッチ、ファン調節ダイヤル、曇り取りスイッチのいずれかのスイッチを操作したとき。
  操作した箇所以外は自動で作動しています。

OFF スイッチ

スイッチを押すとファンの作動を停止します。

温度調節ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。
18.0 から 32.0 の間で 0.5 ずつ変化します。

知識

18.0 に設定すると最大冷房、32.0 に設定すると最大暖房に固定されます。

- DUAL スイッチが OFF のとき
  運転席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。
- DUAL スイッチが ON のとき
  運転席側温度設定ダイヤルまたは助手席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。

知識

- DUAL スイッチを ON にすると独立モードになり、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- 独立モードのとき、インフォメーションセンターディスプレイに DUAL が表示されます。
- DUAL スイッチが OFF のときでも、助手席側温度設定ダイヤルをまわすと独立モードになり (DUAL スイッチ表示灯点灯)、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。

ファン調節ダイヤル

風量を 7 段階に調節できます。

吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→ 217 ページ「吹き出し口の選択」

知識

吹き出し口を に設定するには、曇り取りスイッチを押してください。

エアコンスイッチ

AUTO スイッチが ON のときまたはファンが作動しているとき、スイッチを押すごとにエアコン (冷房・除湿機能) の作動と停止が切り替わります。
エアコン作動中は表示灯が点灯します。

知識

- ファンが作動していない状態でも、エアコンスイッチを押すとエアコンが作動します。
- A/C と A/C ECO が自動制御によって切り替わります。
  A/C ECO は A/C よりもエアコンの作動頻度は少なくなりますが、経済的な運転になります。
- 外気温が 0° C 近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

知識

寒いときや湿度が高いときは、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

DUAL スイッチ

独立モードと連動モードの切り替えができます。

- 独立モード (表示灯点灯)
  運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- 連動モード (表示灯消灯)
  運転席側と助手席側の設定温度が連動した設定になります。

空調

知識

- 連動モードのとき助手席側の設定温度は運転席側の設定温度に切り替わります。
- 独立モードのとき、インフォメーションセンターディスプレイに DUAL が表示されます。

曇り取りスイッチ

フロントガラス、フロントドアガラスの曇りを取りたいときに使用します。
→ 224 ページ「ガラスの曇りを取るとき」

通常の使いかた

1 AUTO スイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え、吹き出し風量が自動的に調整されます。

2 温度設定ダイヤルを操作して希望温度にあわせます。
運転席と助手席の設定温度を独立して調節するときは、DUAL スイッチを押す、または助手席側温度設定ダイヤルをまわして独立モードにします。

知識

- 最初は温度設定ダイヤルを 25.0 前後にあわせて使用し、その後お好みで調節してください。
- 設定温度を極端に低く (高く) しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

3 作動を停止したいときは、OFF スイッチを押します。

ガラスの曇りを取るとき

曇り取りスイッチを押します。
自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロントドアガラスに送風されます。吹き出し風量も多くなります。

警告

禁止

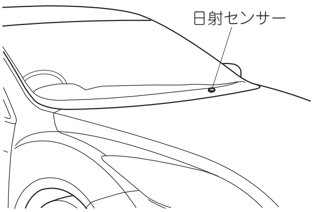
ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

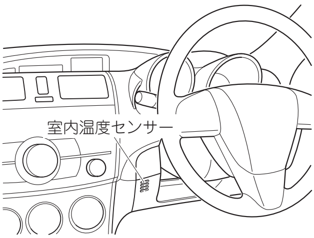
- ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
- 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

日射センサーについて



日射センサーの上に物を置かないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

室内温度センサーについて



室内温度センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

オーディオ

アンテナ

プリント式 グレード/仕様別装備

ガラスにプリントされています。

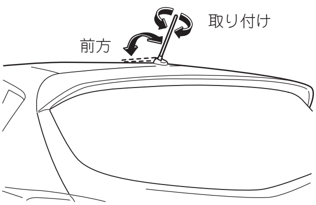
注意

必ず守る

アンテナがプリントされているガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、アンテナ線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、アンテナをいためるおそれがあります。

→ 300 ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

可倒式 / 可倒・脱着式 グレード/仕様別装備



ラジオを使用するときは、アンテナを図の位置まで起こします。

取りはずすときは、左にまわします。取り付けるときは右にまわし、しっかりと締めます。

注意

必ず守る

天井の低い車庫に入れるときなど、アンテナが当たる場所では、アンテナを倒してください。起こしているとアンテナが損傷するおそれがあります。

必ず守る

自動洗車機を使用するときには、アンテナが損傷するおそれがありますので、アンテナを取りはずしてください。

オーディオの上手な使いかた

⚠ 警告

オーディオは車を止めてから操作する。

走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

⚠ 注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

必ず守る

知識

- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがありますが故障ではありません。

ラジオについて

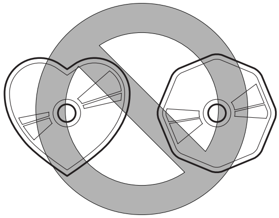
ラジオの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

CD について

- 左記のマークのついている CD 以外は使用できません。

- コピーコントロール CD (著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽 CD) の中で、CD の規格に準拠していないものは、再生できない場合があります。

オーディオ



- ハート型や八角形など特殊形状の CD は使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。

- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。
- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露 (水滴) が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、CD を取り出して室内を換気または除湿してから使用してください。
- CD 信号面に直接手で触れると、CD の信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。CD の端と中心の穴をはさんで持ってください。
- CD はケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- CD の汚れを取るときは、やわらかい布で CD の中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、CD の表面を傷める原因になりますので使用しないでください。
- CD に文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりしないでください。
- 変形したり、ひびがはいったりした CD は使用しないでください。
- CD 差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- CD-R/CD-RW は、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理 (通常の CD プレーヤーで再生できるようにする処理) されていない CD-R/CD-RW は再生できません。
- 700MB を超える CD-R/CD-RW の再生はできません。
- 音楽用 CD レコーダーまたはパソコンで記録した CD-R/CD-RW は、ディスクの特性、キズ • 汚れ、または本機内部のレンズの汚れ • 露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション (ライティングソフト) の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください。(詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください。)
- CD-R/CD-RW に記録されているタイトルなどの文字情報は、音楽データ (CD-DA) 再生時に表示できない場合があります。
- CD-RW は、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常の CD や CD-R より時間がかかります。
- CD-R/CD-RW の取扱については、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

- セロハンテープやレンタル CD のラベルからのりがはみ出していたり、ラベルをはがしたりしたあとがあるものは、使用しないでください。また、市販の CD-R ラベルを貼付けたディスクも使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。

MP3 について

知識

フランス、トムソン社からの MP3 特許ライセンスについて本機は、個人の使用または非商用的な使用を目的としています。以下のような、商用目的には使用できません。ご使用には、別途、トムソン社からの商用使用許諾が必要です。詳しくは http://mp3licensing.com をご覧ください。

- 有料リアルタイム放送 (地上波、衛星、ケーブル、その他の放送媒体)
- インターネットによる放送またはストリーミング
- イントラネット / ネットワーク
- 有料オーディオ・アプリケーションやオーディオ・オンデマンド・アプリケーションなどの電子情報配信システム

- MP3 ファイルが記録された CD-R/CD-RW/CD-ROM の再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。
  - ISO9660 レベル 1
  - ISO9660 レベル 2
  - 拡張フォーマット Joliet
  - 拡張フォーマット Romeo
- 本機はヘッダ部およびデータ部が共に MP3 形式に準拠した MP3 ファイルに対応しています。
- 本機は 40 セッションまでのマルチセッション方式で記録されたディスクの再生に対応しています。
- 本機での再生可能なサンプリング周波数は 16/22.05/24/32/44.1/48kHz です。
- 本機は 8kbps ～ 320kbps の MP3 ファイルの再生に対応していますが、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps 以上のビットレートで記録されたディスクの使用をおすすめします。
- パケットライト方式で記録されたディスクは聞くことができません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、MP3 PRO フォーマット、RIFF 形式 MP3 フォーマットには対応していません。

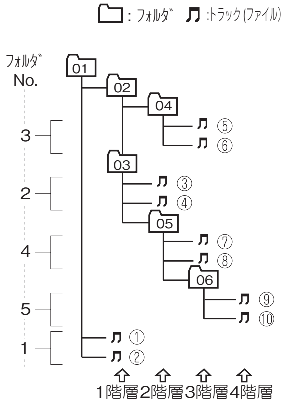
オーディオ

フォルダ、ファイルについて

- 再生などの操作で MP3 ファイルやフォルダが選択される順番は、階層の浅い順番になります。MP3 ファイルを収録したディスクのイメージ、再生の順番は次のようになります。
  - ファイルナンバー
    階層の浅いフォルダに属するファイルから順に番号を割り当てられます。
  - フォルダナンバー
    階層の浅いフォルダから自動で番号を割り当てられます。

知識

同一階層内のフォルダやトラック (ファイル) はライティングソフトによってディスクに書き込まれた順序で再生します。



- フォルダ番号は自動で割り当てられます。任意の番号を割り当てることはできません。
- MP3 ファイルを含まないフォルダは認識されません。 (フォルダ番号の表示をせず、スキップします。)
- MP3 ファイルのヘッダ部およびデータ部が共に MP3 形式に準拠していない MP3 ファイルは、再生せずスキップします。
- 本機は8階層までのMP3ファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を 2 つ以下にすることをおすすめします。
- 一枚のディスクで再生可能なファイル数は 512 ファイルまでです。また一つのフォルダで再生可能なファイル数は 255 ファイルまでです。
- MP3 ファイルに名前をつけるときは、ファイル名の後に必ず拡張子 (.mp3) を付けてください。
- ファイル名として付けることのできる最大文字数は次のとおりですが、本機に表示される文字数は拡張子 (.mp3) を含めて 32 文字までです。

	ファイル名最大文字数 (区切り文字 “.” と拡張子 3 文字を含む)
ISO9660 レベル 1	12[*1]
ISO9660 レベル 2	31[*1]
拡張フォーマット Joliet	64
拡張フォーマット Romeo	128

[*1] 使用できる文字は半角英数字 (大文字のみ) とアンダーバー “_”

- 表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。全角文字 (漢字、ひらがななど) や一部の特殊文字は表示することができません。

注意

必ず守る

本機は拡張子 (.mp3) がついているファイルを MP3 ファイルとして再生します。MP3 ファイル以外には MP3 拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

ID3 Tag の表示について

本機は Ver.1.0/1.1/2.2/2.3 形式で入力された ID3 Tag のアルバム名、トラック名、アーティスト名の表示にのみ対応しています。その他の情報を入力しても表示することはできません。

表示を切り替えるとき

表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。ID3 Tag は半角英数字で入力してください。全角文字や一部の特殊文字は表示することができません。

用語解説

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。

MP3 は音声データを元のデータの約 10 分の 1 に圧縮することができます。

ISO9660

CD-ROM のファイルおよびフォルダに関する論理フォーマットの国際基準です。
ファイル名の付け方やデータ配置などの違いによってレベル 1 ～ 3 に分けられます。

オーディオ

マルチセッション

CD-ROM や CD-R、CD-RW にデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1 枚のディスクに 2 つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

サンプリング

アナログデータである音を一定時間ごとにデータ化し、デジタルデータにすることをいいます。また、1 秒間に行なうサンプリング回数をサンプリング周波数といい、単位は Hz で表します。サンプリング周波数が高いほど音質は良くなりますが、データ量が大きくなります。

ビットレート

1 秒あたりの情報量を表し、単位は bps (bit per second) です。一般的に MP3 ファイルは、圧縮時の転送ビットレートの数字が大きいほど音楽を再現するための情報を多く持つことになるため、音質が良くなります。

パケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-R などに書き込む方式の総称です。

ID3 Tag

曲の関連情報を MP3 ファイルに埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、トラック名、アーティスト名、アルバム名などがあります。この内容は ID3 Tag 編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。

VBR

「Variable Bit Rate (可変ビットレート) 」の略です。一般的には CBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WMA について

WMA とは、Windows Media Audio の略称で、Microsoft 社の音声圧縮フォーマットです。

MP3 よりも高い圧縮率で音声データを作成・保存することができます。

※ Microsoft、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

再生できる WMA ファイルの仕様

本機は WMA ファイルが記録された CD-R、CD-RW の再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。
再生可能な WMA ファイル仕様は次のとおりです。

項目		内容
規格		Windows Media Audio Version7.0,8.0,9.0
サンプリング周波	ビットレート	32kHz.......32,40,48kbps
		44.1kHz.....32,48,64,80,96,128,160,256,320kbps
		48kHz.....64,96,128,160,192kbps
VBR (可変ビットレート)		対応
チャンネルモード		ステレオ / モノラル
WMA タグ		タイトル、アーティスト名、アルバム名

⚠ 注意

必ず守る

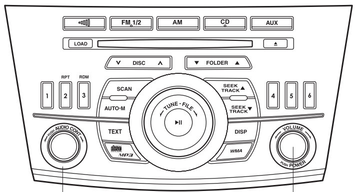
本機は拡張子 (.wma) がついているファイルを WMA ファイルとして再生します。WMA ファイル以外には WMA 拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

- WMA ファイル内には曲名 / アーティスト名 / アルバム名 / ジャンル名等の情報が“WMA-Tag”と呼ばれるデータで記録されており、モニター等でその情報を表示することができます。
- 記載している規格以外で書き込まれた WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によって拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wma」を追記してからディスクに書き込んでください。

オーディオの操作 グレード/仕様別装備

オーディオの表示はインフォメーションセンターディスプレイの表示部に表示されます。
→ 126 ページ「インフォメーションセンターディスプレイ」

音量 / 音質の調節



オーディオコントロールダイヤル　音量調節ダイヤル

音量調節

音量調節ダイヤルをまわして調節します。
右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

音質調節

1 オーディオコントロールダイヤルを軽く押して調節したいモードを選びます。
ダイヤルを押すごとにモードが切り替わります。

2 オーディオコントロールダイヤルをまわして調節します。

標準オーディオ装備車

モード	ダイヤルをまわす方向	
	左	右
ALC (自動音量調節)*1	変化量小	変化量大
BASS (低音調節)	低音弱	低音強
TREB (高音調節)	高音弱	高音強
FADE (前後音量調節)	後側小	前側小
BAL (左右音量調節)	右側小	左側小
BEEP (操作音設定)*1	OFF	ON
Welcome (効果音設定)*1 *2	OFF	ON
ILLM EFT (操作照明設定)*1	OFF	ON

Bose® サウンドシステム装備車

モード	ダイヤルをまわす方向	
	左	右
AudioPLT (自動音量調節)*1	OFF	ON
CENTERPT (自動音質調節)*1	OFF	ON
BASS (低音調節)	低音弱	低音強
TREB (高音調節)	高音弱	高音強
FADE (前後音量調節)	後側小	前側小
BAL (左右音量調節)	右側小	左側小
BEEP (操作音設定)*1	OFF	ON
Welcome (効果音設定)*1	OFF	ON
ILLM EFT (操作照明設定)*1	OFF	ON

*1 選択しているモードにより表示は異なります。
*2 グレードや仕様により機能の有無が異なります。

オーディオ

オートマチックレベルコントロール (標準オーディオ装備車)

オートマチックレベルコントロール (ALC) は、車速に応じて自動的にオーディオの音量 / 音質が変化する機能です。車速が早いほど変化量は大きくなり、車速が遅いほど変化量は小さくなります。
ALC OFF、ALC LEVEL1 ～ 7 モードがあり、ALC LEVEL7 にすると変化量が最大になります。状況に応じてモードを選択してください。

AUDIOPILOT™ 2 (Bose® サウンドシステム装備車)

AUDIOPILOT™ 2※は、走行時の車内の騒音量に応じて、自動的にオーディオの音量 / 音質が変化する機能です。ON にしておくと、騒音によって聞こえにくくなる音を、最適な状態で聞こえるよう自動的に補正します。

※ AUDIOPILOT™ 2 は Bose コーポレーションの登録商標です。

Centerpoint® (Bose® サウンドシステム装備車)

Centerpoint®※は、2ch 音声を再生中にステレオ信号をサラウンド再生し、立体感あるサラウンド・サウンドを実現する機能です。ON と OFF を設定することができます。

※ Centerpoint® は Bose コーポレーションの登録商標です。

BEEP (操作音) 設定

オーディオ操作音の ON と OFF を設定することができます。

Welcome 設定 (ウェルカムサウンド) グレード / 仕様別装備

電源ポジションを ACC または ON にしたとき効果音が鳴ります。

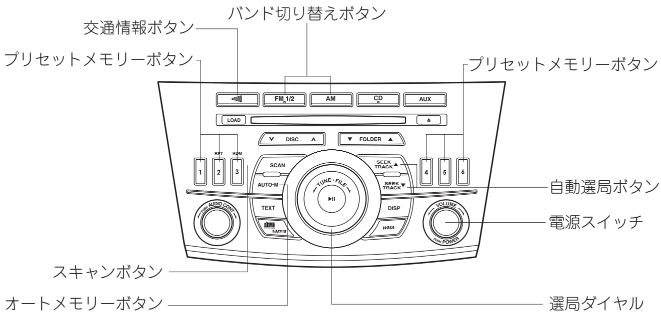
ILLM EFT 設定 (アクションイルミ)

オーディオ操作時に光る照明の ON と OFF を設定することができます。

知識

- 音量 / 音質調節値は表示部に表示されます。
- オーディオコントロールダイヤルを押してしばらくすると、音質調節前の表示にもどります。ピーと音がするまで押し続けると低音、高音、前後、左右の調節値が中央値 (初期値) にもどり“CLEAR”が表示されます。

ラジオの使いかた



1 電源ポジションを ACC または ON にします。
2 バンド切り替えボタンを押し、聞きたいバンドを選択します。
3 選局します。
- **自動選局**
  選局ボタン (▲、▼) を押すと、自動選局を始め、放送を受信すると止まります。
- **手動選局**
  選局ダイヤルをまわして選局します。

4 音量 / 音質を調節します。
5 ラジオを止めるときは、電源スイッチを押します。

知識

受信する電波が弱いときは手動選局をしてください。

オートメモリー選局

1 オートメモリーボタン (**AUTO-M**) をピーと音がするまで押すと、選局を始めます。
2 電波の強い順に最大 6 局までの周波数を記憶します。
3 オートメモリーボタン (**AUTO-M**) を軽く押すごとに、順次記憶された周波数に切り替わります。

知識

受信できるものが 1 局もない場合は“A”が表示されます。

オーディオ

放送局を記憶するとき

プリセットメモリーボタンを使って、選局した周波数を記憶させておくと便利です。
AM、FM1、FM2 それぞれ 6 局まで記憶できます。

1 記憶させたい放送局を選びます。
2 プリセットメモリーボタンのいずれか 1 つをピーと音がするまで押します。
3 呼び出すときは、プリセットメモリーボタンを軽く押します。

知識

- 呼び出すときに、ボタンをピーと音がするまで押すと、そのとき受信している周波数が記憶されます。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは記憶が消去されます。もう一度記憶させてください。

聞きたい局を探すとき

スキャンボタン (SCAN) を使って、受信可能な放送局を探すことができます。

1 スキャンボタン (SCAN) を押すと、周波数の低い方から高い方へ 5 秒間ずつ受信していきます。
2 聞きたい局が受信されたらもう一度スキャンボタン (SCAN) を押します。その周波数を受信し続けます。

交通情報の受信

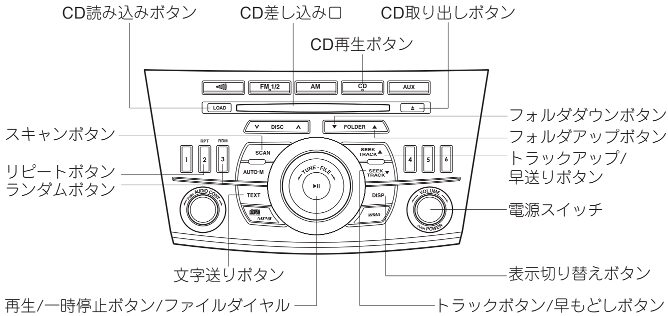
交通情報の受信交通情報を放送している地域では、交通情報ボタン (•ıı))) を押すと交通情報を受信できます。

1 交通情報ボタン (•ıı))) を押すと、AM1620kHz または AM1629kHz を受信します。
2 もう一度押すともとの状態にもどります。
3 受信中、ボタンをピーと音がするまで押すごとに、AM1620kHz と AM1629kHz を切り替えることができます。

知識

交通情報ボタン (•ıı))) で受信中は、プリセットメモリーボタンを押しても放送局は選局されません。

CD プレーヤーの使いかた



CD プレーヤーが装着されている場合、操作することができます。

タイプ	再生できるデータ
音楽 /MP3/WMA/CD プレイヤー	● 音楽データ (CD-DA) ● MP3/WMA ファイル

知識

一枚のディスクに音楽データ (CD-DA) と MP3/WMA ファイルが混在しているときは、ディスクに記録する方法によって再生される内容が異なります。

再生するとき

1 電源ポジションを ACC または ON にします。

2 CD のラベル面を上にして、CD 差し込み口に軽く押し込みます。CD が自動的に送り込まれ、再生を始めます。
CD がはいっているときは、CD 再生ボタン (CD) を押すと再生を始めます。

3 音量 / 音質を調節します。

4 再生を止めるときは電源スイッチを押します。 (もう一度押すと再生できます。)

オーディオ

知識

- CD がはいっていないときに CD 再生ボタン (CD) を押すと“NO DISC”が点滅します。
- 12cmCD と 8cmCD (シングル) の両サイズとも使用することができます。
- CD 取り出しボタン (⏏) を押した後でも、CD 読み込みボタン (LOAD) を押すと CD が再度送り込まれ、再生されます。
- (MP3/WMA CD)
  再生はフォルダ番号の順に行なわれます。MP3/WMA ファイルがないフォルダはスキップされます。

一時停止

一時停止するときは再生 / 一時停止ボタン (▶II) を押します。
もう一度押すと再生できます。

CD を取り出すとき

1. CD 取り出しボタン (⏏) を押します。
2. CD の端を持って取り出します。

聞きたいフォルダを選択するとき (MP3/WMA CD 再生中)

今聞いているフォルダの前のフォルダを選択するときはフォルダダウンボタン (▼)、次のフォルダを選択するときはフォルダアップボタン (▲) を押します。

早送り / 早もどしをするとき

1. 早送りするときは早送りボタン (▲)、早もどしするときは早もどしボタン (▼) を押し続けます。
2. ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。

知識

(MP3/WMA CD)
VBR (可変ビットレート) を利用して録音されたファイルを再生しているときは、早送り / 早もどしをするときに再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

曲の頭出しをするとき

今聞いている曲の頭にもどしたいときはトラックダウンボタン (▼) を押すか、ファイルダイヤルを左にまわします。
次の曲の頭に進めたいときはトラックアップボタン (▲) を押すか、ファイルダイヤルを右にまわします。

同じ曲をくり返して聞くとき

音楽 CD 再生中

1 再生中にリピートボタン (RPT) を押すと､その曲をくり返して再生します。表示部に“RPT”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA CD 再生中
(今聞いている曲をくり返し聞くとき)

1 再生中にリピートボタン (RPT) を押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“TRACK RPT”が表示されます。

2 3 秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

(今聞いているフォルダ内をくり返し聞くとき)

1 再生中にリピートボタン (RPT) を押し、3 秒以内にもう一度押すとそのフォルダ内の曲をくり返して再生します。表示部に“FOLDER RPT”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

ランダム選曲をするとき

CD 内の曲をランダム (無作為) に選曲し、再生することができます。

音楽 CD 再生中

1 再生中にランダムボタン (RDM) を押すと、CD 内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“RDM”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA CD 再生中
(フォルダ内の曲をランダムに聞くとき)

1 再生中にランダムボタン (RDM) を押すと、フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“FOLDER RDM”が表示されます。

2 3 秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

(CD 内の曲をランダムに聞くとき)

1 再生中にランダムボタン (RDM) を押し、3 秒以内にもう一度押すと CD 内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“DISC RDM”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

オーディオ

聞きたい曲を探すとき

音楽 CD 再生中

CD 内の曲を 10 秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

MP3/WMA CD 再生中

再生中のフォルダ内の曲を 10 秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

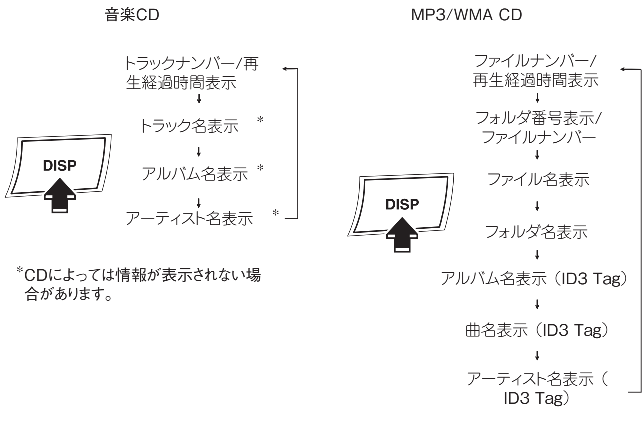
1 再生中にスキャンボタン (SCAN) を押すと、次の曲の頭から順に 10 秒間ずつ再生されます。
2 聞きたい曲が再生されているときにもう一度スキャンボタン (SCAN) を押します。その曲の再生がそのまま続きます。

知識

全ての曲の再生が終わると自動的に解除され、通常の再生にもどります。

表示を切り替えるとき (音楽 /MP3/WMA CD プレーヤー)

再生中、表示切り替えボタン (DISP) を押すごとに、次のように表示部が切り替わります。



知識

- 表示部に表示できる情報が CD に記録されている場合のみ、CD の情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、正しく表示されない場合があります。

隠れているタイトルを表示する

表示部に一度に表示できる文字数は 12 文字までです。タイトルが長く、最後まで表示されていないときは文字送りボタン（**TEXT**）を押します。次の 12 文字に表示をスクロールします。最後の文字を表示しているときに文字送りボタン（**TEXT**）を押すと、タイトルの最初の文字を表示します。

> **知識**
>
> 表示される文字数には制限があります。拡張子 (.mp3/.wma) を含めて 32 文字を超えた場合、表示されない場合があります。

メッセージがでたときは

“CHECK CD” のメッセージが表示されたときは CD に何らかの異常があります。CD にキズや汚れがないか、または記録されている内容に MP3/WMA ファイルがあるか確認して正しく入れ直してください。

再度メッセージが表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

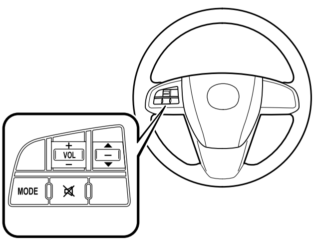
AUX モード (外部入力) の使いかた グレード/仕様別装備

AUX モード (外部入力) では、市販のポータブルオーディオを AUX 端子に接続することで、車両のスピーカーで音声を聞くことができます。

→ 246 ページ「ポータブルオーディオ機器を使用していただくために グレード/仕様別装備」

オーディオリモートコントロールスイッチの操作

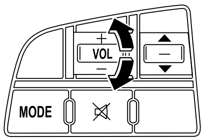
グレード/仕様別装備



ハンドルの左側にあります。

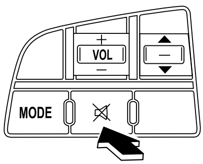
オーディオの電源が入っているときに、手元でオーディオの操作をすることができます。

音量を調節するとき



音量調節スイッチ (＋、－) を操作して、音量を調節します。

消音にするとき

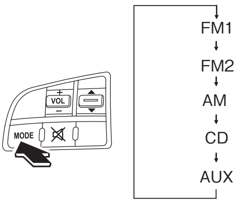


ミュートスイッチ (🔇) を押すと、消音できます。もう一度スイッチを押すともとにもどります。

知識

消音にしたあと電源ポジションを OFF にすると、消音は解除されます。その後エンジンをかけると、消音にする前の状態にもどります。音を消したいときは、再度ミュートスイッチ (🔇) を押してください。

モードを選択するとき

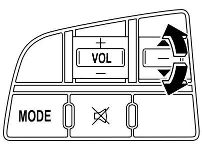


モードスイッチ（**MODE**）を押して、オーディオのモードを切り替えます。
スイッチを押すごとに次のようにモードが切り替わります。

知識

- AUX モードは、オーディオに設定がある場合のみ選択できます。
- CD が挿入されているとき、AUX 端子に市販のポータブルオーディオ機器が接続されているときに、各モードを選択できます。

選局するとき

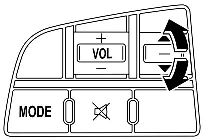


ラジオを聞いているときに選局スイッチ (▲、▼) を軽く操作すると、プリセットメモリーボタンを使ってあらかじめ記憶させておいた放送局を呼び出すことができます。スイッチを操作するごとに順次記憶された放送局に切り替わります。
また、ピーと音がするまで操作すると、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。

知識

オートメモリー選局で記憶した放送局を受信しているときに選局スイッチ (▲、▼) を操作すると、オートメモリー選局であらかじめ記憶させておいた放送局を呼び出すことができます。スイッチを操作するごとに順次記憶された放送局に切り替わります。

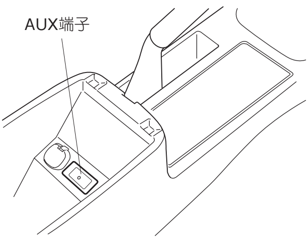
曲の頭出しをするとき



CD を聞いているときに頭出しスイッチ (▲、▼) を操作すると、曲の頭出しをすることができます。
次の曲の頭に進めたいときは早送りスイッチ (▲) を引き上げ、今聞いている曲の頭にもどしたいときは早もどしスイッチ (▼) を引き下げます。

ポータブルオーディオ機器を使用していただくために

グレード/仕様別装備



AUX モード (外部入力) では、市販のポータブルオーディオを AUX 端子に接続することで、車両のスピーカーで音声を聞くことができます。

⚠ 警告

必ず守る
車を止めてから操作する。
走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る
AUX 端子に接続したコードがパーキングブレーキレバーやチェンジレバーに絡まないようにする。
運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

必ず守る 使用しないときは、必ずコンソールボックスのフタを閉めておいてください。AUX 端子に異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。

必ず守る プラグを接続した状態で AUX 端子の上やコンソールのフタの上に物を乗せたり、大きな力を加えたりしないでください。

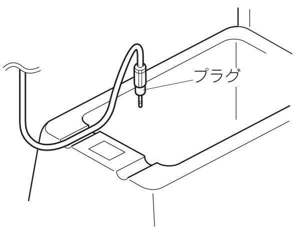
必ず守る 接続する機器によっては車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時、ノイズが発生することがあります。(ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください。)

知識

- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- ポータブルオーディオを AUX 端子に接続するための接続コードは、市販の抵抗なしのステレオミニプラグ (3.5 ϕ) を使用してください。ご使用前に接続コードの取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、ポータブルオーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。
- プラグは AUX 端子に確実に差し込んでください。

接続のしかた

コンソールボックスに開いている溝から AUX 端子に接続するコードを通すことができます。



1 コンソールボックスのフタを開きます。
2 コンソールボックスに開いている溝にコードを通し、コード先端のプラグを AUX 端子に接続します。

知識

プラグの抜き差しは AUX 端子の穴に対して垂直に行なってください。

オーディオ

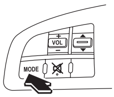
ポータブルオーディオ機器を聞くには

1 電源ポジションを ACC または ON にします。
2 コード先端のプラグを AUX 端子に接続します。
3 オーディオユニットの電源スイッチを ON にします。

オーディオ



オーディオリモートコントロールスイッチ



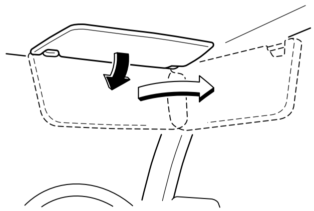
オーディオユニットのメディアスイッチ（**AUX**）またはオーディオリモートコントロールスイッチを操作して AUX モードに切り替えます。

　オーディオリモートコントロールスイッチの操作については245ページ「モードを選択するとき」をお読みください。

知識

- 音量調節以外の操作はポータブルオーディオ本体のみで行えます。オーディオパネルでは操作できません。
- AUX モード中に AUX 端子からコードを抜いたり、接続している機器側のプラグを抜くとノイズが発生することがあります。

サンバイザー



前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。

バニティミラー (化粧鏡)

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。
ランプ装備車はフタを開けるとランプが点灯します。

室内照明

知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチが DOOR の位置のとき、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

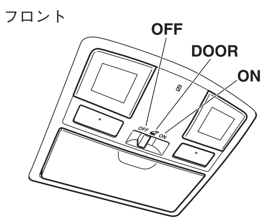
- 運転席ドアを解錠すると約 30 秒間点灯します。
- ドアを開けて閉めた後、約 15 秒間点灯します。
  (アドバンストキー装備車)
  アドバンストキーを携帯し、車外からドアを閉めた後、約 5 秒間点灯します。
- エンジンスイッチからキーを抜くと (アドバンストキーレス機能使用時は、電源ポジションを OFF にすると) 約 15 秒間点灯します。

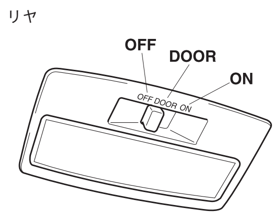
室内装備

知識

- 次のようなときルームランプはすぐに消灯します。
  - 電源ポジションを ON にしたとき。
  - すべてのドアを施錠したとき。
- ルームランプスイッチが DOOR の位置で、約 30 分間ドアが確実に閉まっていない状態が続くと、自動的にルームランプが消灯して、バッテリーあがりを防止します。
- イルミネーテッドエントリーシステムの作動を変更することができます。
→ 381 ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ルームランプ

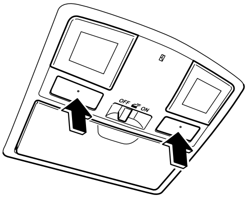




電源ポジションに関係なく使用できます。

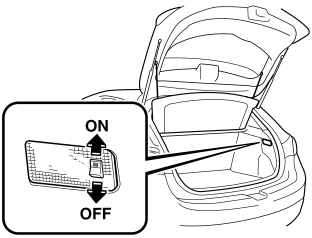
スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	● ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。 ● イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯 / 消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯

マップランプ



電源ポジションに関係なく使用できます。スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

ラゲッジルームランプ（ハッチバック）



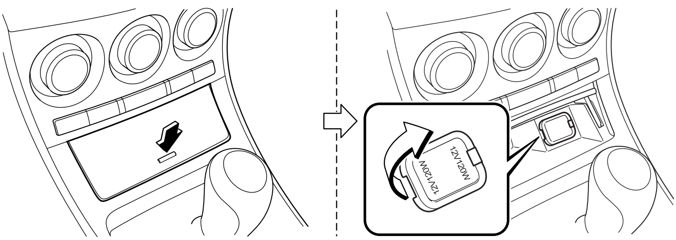
電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ラゲッジルームランプ
ON	リヤゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯

電源ソケット

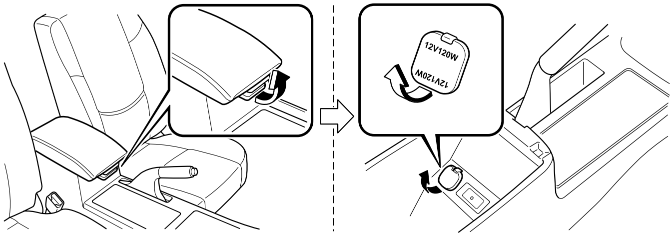
電源ポジションが ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120W (DC12V—10A) 以下の電気製品を使用してください。

フロント



室内装備

リヤ



⚠ 注意

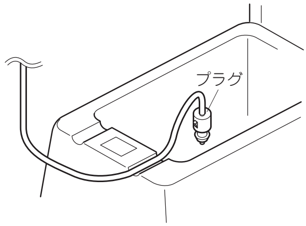
- 必ず守る 使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。
- 必ず守る 電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。
- 禁止 消費電力が 120W (DC12V—10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。
- 必ず守る 電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。
- 必ず守る 電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器を外し、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットから外したあと、電源ポジションを OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。

知識

- エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- シガーライターを差し込まないでください。

接続のしかた

コンソールボックスに開いている溝から電源ソケットに接続するコードを通すことができます。



1 フタを開きます。
2 コンソールボックスに開いている溝にコードを通し、コード先端のプラグを電源ソケットに接続します。

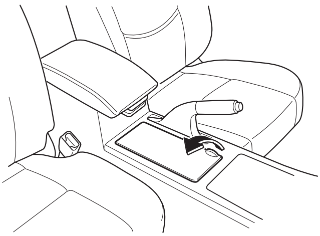
カップホルダー

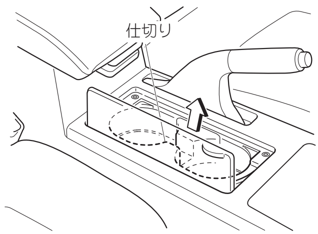
⚠ 注意

禁止

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

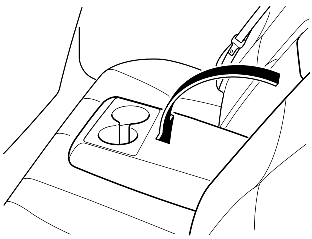
フロント





カップホルダーの仕切りを取りはずすと、小物などを置くことができます。

リヤ グレード/仕様別装備



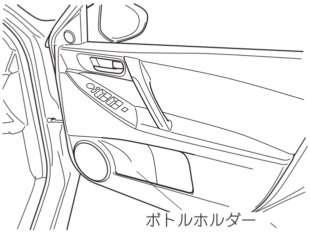
室内装備

ボトルホルダー

注意

禁止

ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。



ペットボトルなどを置くことができます。

収納

注意

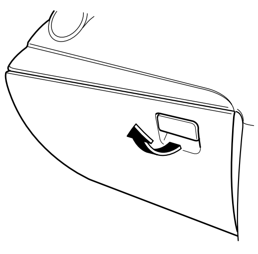
必ず守る

走行中は、グローブボックスなどのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。

禁止

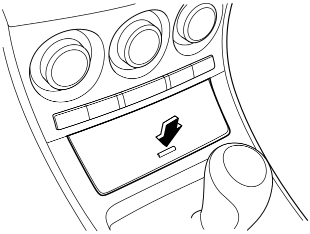
炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

グローブボックス



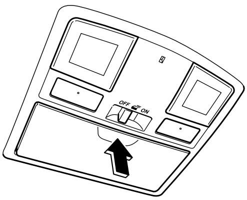
閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

リッド付きフロントコンソールボックス



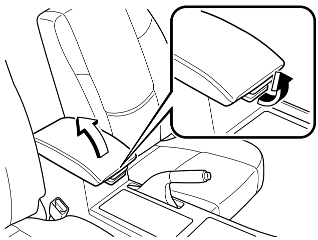
使用するときは、フタを開きます。

オーバーヘッドコンソール グレード/仕様別装備



メガネやサングラスなどを入れることができます。

大型コンソールボックス



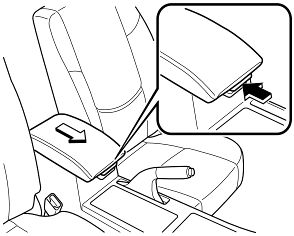
スライド式アームレストを使用するとき グレード/仕様別装備

⚠ 注意

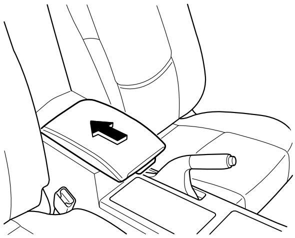
必ず守る

センターコンソールを開けるときはアームレストを収納してから開けてください。アームレストやセンターコンソールの破損につながるおそれがあります。

室内装備



ボタンを押すと、アームレストが前方へスライドします。



収納するときは、アームレストを後方へスライドさせます。

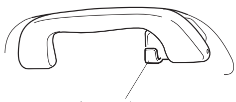
リヤコートフック

⚠ 警告

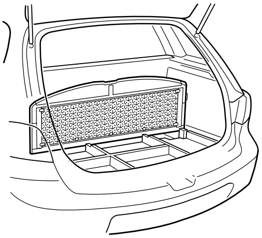
禁止

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



フレキシブルフロアボード（ハッチバック） グレード/仕様別装備



トランクボードを使用し、ラゲッジルームを前後に仕切ることができます。

⚠ 注意

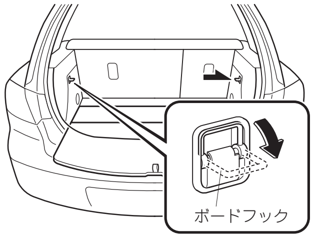
トランクボードがボードフックに確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中不意にトランクボードがはずれて、ボードフックまたはトランクボードの損傷や、けがをするおそれがあります。

必ず守る

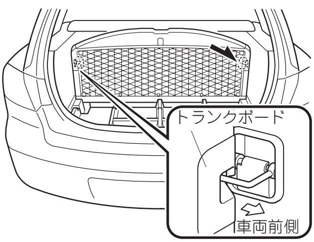
知識

ラゲッジフックのようにロープやネットで荷物を固定することもできます。ボードフックの引っ張り荷重は 15kg です。ロープやネットを掛けて強く引っ張らないでください。
→ 258 ページ「ラゲッジフック」

次の手順でラゲッジルームを前後に仕切ることができます。



1 ボードフックを引き出します。

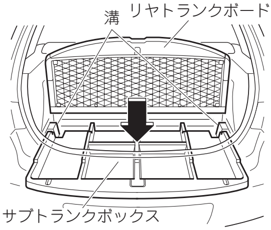


2 溝をボードフックにはめ込みます。

室内装備

知識

リヤトランクボードをリヤパッケージトレイの溝に入れるように作業すると、楽にはめ込むことができます。



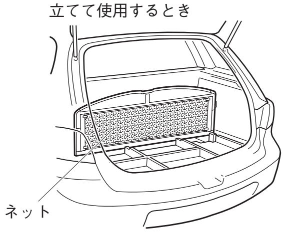
ネットを使用するとき

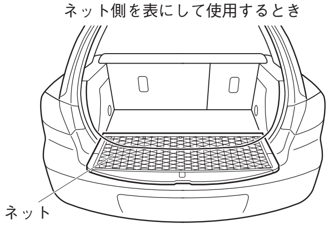
トランクボード裏のネットに小物を入れることができます。

注意

禁止

トランクボードを使用し、ラゲッジルームを前後に仕切った状態でネットに重い荷物を入れたり、強くひっぱるなどして、無理な力をかけないでください。ネットが損傷するおそれがあります。





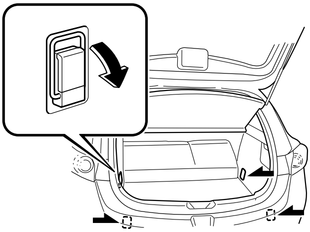
ラゲッジフック(ハッチバック)

警告

必ず守る

荷物を積むときは確実に固定する。

荷物を確実に固定しないと走行中に荷物が移動したりくずれたりして、けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。



ロープやネットで荷物を固定するときに使用します。
フックの引っ張り荷重は 20kg です。ロープを掛けて強く引っ張らないでください。

知識

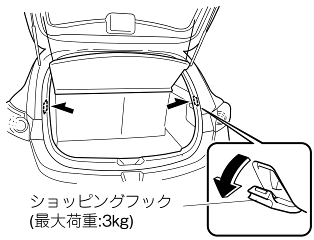
荷物を固定するためにボードフックを使用することもできます。
→ 257 ページ「フレキシブルフロアボード」

ショッピングフック (ハッチバック)

⚠ 注意

禁止

フックに最大荷重以上の物をかけないでください。フックが破損したり、かけた物がはずれたりするおそれがあります。



MEMO

4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために

必ずまもる

違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジン調整や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品の装着をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを取りはずしたり、位置を変えないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

ホイール、ホイールナットは純正品以外を装着しないでください。純正品以外のものを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、駆動系部品に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。
また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクセサリーを取り付けない

窓ガラスやその周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになったり、吸盤がレンズの働きをして、火災が起こるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
使用済バッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

警告

必ず守る
点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なう。
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止
エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。
手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

禁止
エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。

必ず守る
エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

無料点検について

新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000km)、6 か月 (または走行距離 5,000km) は無料で点検が受けられます。

点検、整備

定期点検

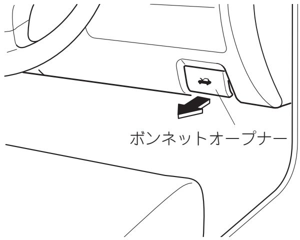
1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

知識

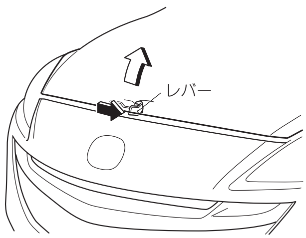
- **点検結果について**
  点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
- **シビアコンディションについて**
  一般的な使用よりも厳しい使われ方をした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。
  詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

日常点検の前に

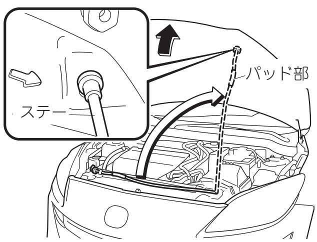
ボンネットの開けかた



1 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



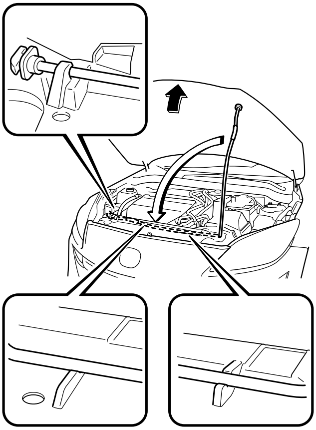
2 ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押したままボンネットを持ち上げます。



3 パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。

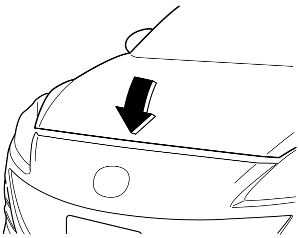
点検、整備

ボンネットの閉めかた



1 エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。

2 ボンネットを手でささえてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。



3 ボンネットをゆっくりおろし、手を離します。ボンネットの先端の中央部をガチッと音がするまで押しつけ、確実に閉めます。

警告

必ず守る

ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

必ず守る

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

必ず守る

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

知識

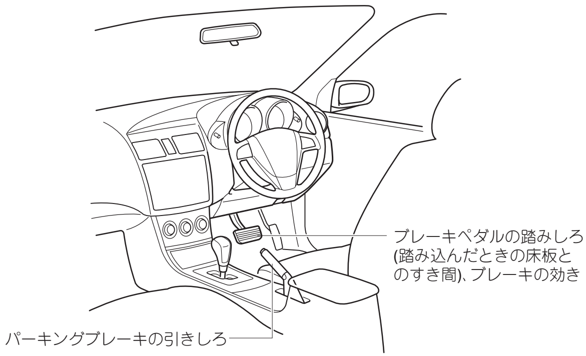
点検結果について
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

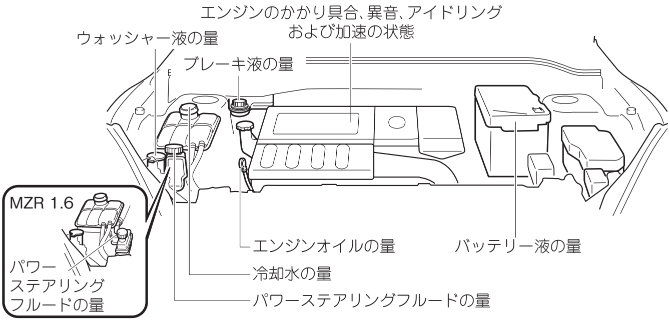
運転席にすわって



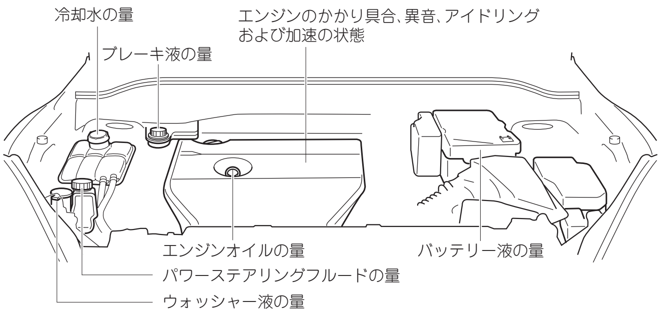
点検、整備

エンジンルームをのぞいて

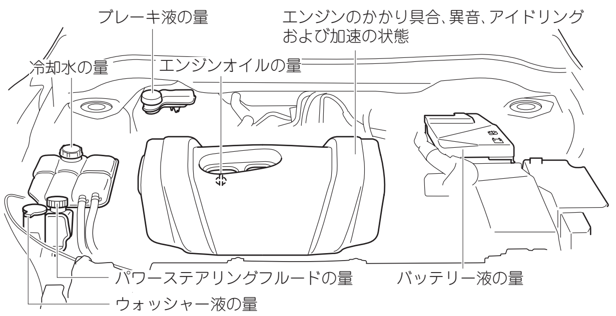
MZR 1.5、MZR 1.6



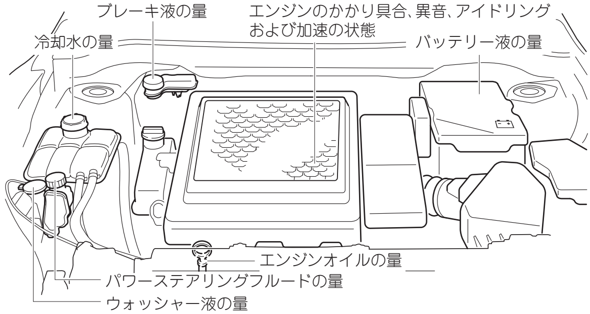
MZR 2.0



SKYACTIV-G 2.0



MZR 2.3 DISI Turbo



⚠ 注意

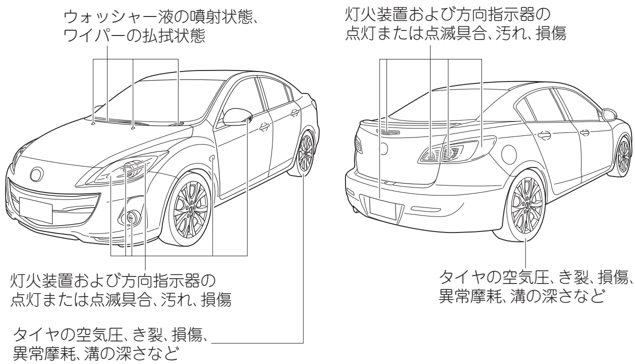
必ず守る

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

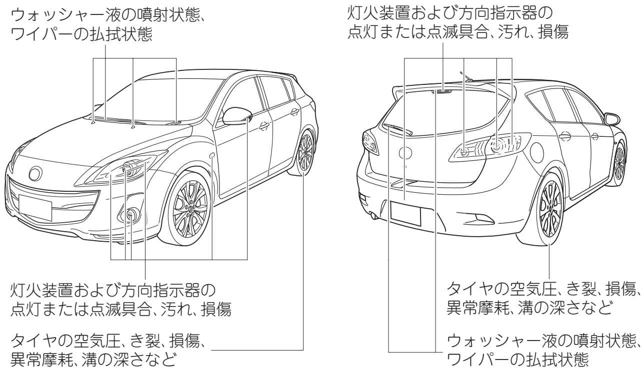
点検、整備

全体を見まわして

セダン



ハッチバック



タイヤの点検

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

知識

タイヤの劣化について

タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後５～７年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

空気圧の点検

タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調節してください。

⚠ 警告

禁止

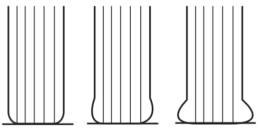
タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。

タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト(破裂)するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

タイヤバルブキャップは純正品を使用する。

タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



き裂、損傷の点検

⚠ 警告

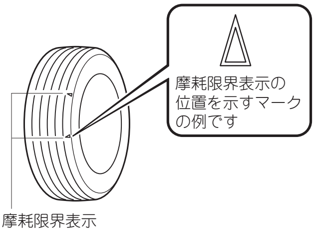
禁止

異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になるおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

- **走行中にハンドルがとられる**
- **異常な振動を感じる**
- **パンクやバースト(破裂)する**
- **車の性能(燃費・走行安定性・制動距離など)が十分に発揮できない**
- **部品に悪影響をあたえる**

点検、整備

溝の深さ、異常摩耗の点検



摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

⚠ 警告

禁止

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しない。

そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

知識

摩耗限界表示について

摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm だけ浅くなっています。

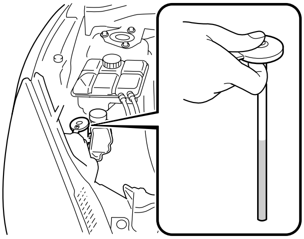
バッテリーの点検

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

→ 338 ページ「バッテリーあがりについて」

点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。

ウォッシャー液の補充



補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

⚠ 注意

必ず守る　エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

知識

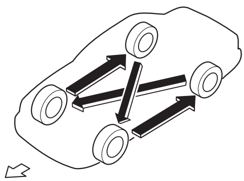
ウォッシャータンクについて

ウォッシャータンクは、フロントワイパー用とリヤワイパー用で兼用しています。

その他の手入れ

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。



警告

タイヤを交換するときは指定されたタイヤを装着する。

必ず守る

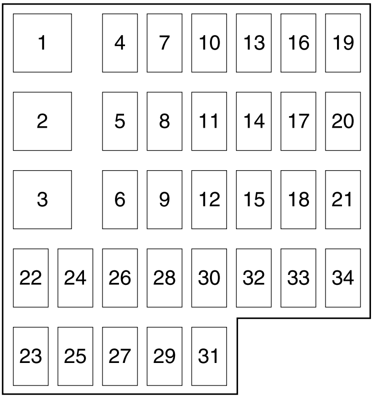
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- タイヤの位置交換を行うまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
  → 270 ページ「タイヤの点検」
- **タイヤパンク応急修理キット非搭載車について**
  タイヤの位置交換を行なうときは、搭載されているジャッキとスペアタイヤを使用して 1 輪ずつ交換して下さい。
  → 326 ページ「タイヤ交換」
- **タイヤパンク応急修理キット搭載車について**
  お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されていないため、搭載されているジャッキではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

ヒューズの受け持つ装置

室内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	BOSE	—	—
2	P SEAT	30 A	パワーシート グレード/仕様別装備
3	P.WIND	30 A	パワーウインドー
4	D.LOCK	25 A	パワードアロック
5	—	—	—
6	—	—	—
7	ESCL	15 A	ステアリングロック グレード/仕様別装備
8	SAS	15 A	エアバッグシステム
9	—	—	—
10	HAZARD	15 A	非常点滅灯、方向指示灯
11	METER	15 A	メーター

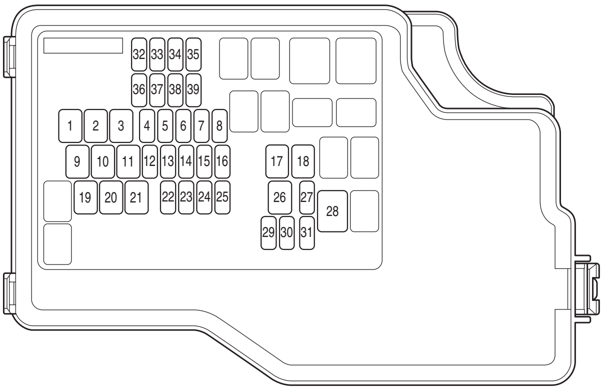
ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
12	OUTLET	15 A	電源ソケット
13	R.WIPER	15 A	リヤワイパー グレード/仕様別装備
14	CIGAR	15 A	電源ソケット
15	ROOM2	15 A	ルームランプ グレード/仕様別装備
16	HEATER	10 A	空調
17	MIRROR	10 A	電動ミラー
18	ST SIG	10 A	エンジンコントロールシステム
19	—	—	—
20	AUDIO	7.5 A	オーディオ グレード/仕様別装備
21	M.DEF	7.5 A	ミラーデフォッガー(曇り取り) グレード/仕様別装備
22	AFS	7.5 A	アダプティブフロントライティングシステム グレード/仕様別装備
23	—	—	—
24	ENG	20 A	エンジンコントロールシステム
25	—	—	—
26	METER2	7.5 A	メーター グレード/仕様別装備
27	—	—	—
28	AUDIO2	7.5 A	オーディオ グレード/仕様別装備
29	—	—	—
30	P.WIND	25 A	パワーウインドー
31	—	—	—
32	F.WIPER	25 A	フロントワイパー/ウォッシャー

位置	表示	容量	保護装置
33	BOSE2	25 A	オーディオ (Bose® サラウンドシステム装備車) グレード / 仕様別装備
34	—	—	—

エンジンルーム内ヒューズボックス

ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	DCDC*1	40 A	各種電源
	FAN 2*2		クーリングファン グレード / 仕様別装備
2	ENG MAIN	40 A	エンジンコントロールシステム
3	BTN 1	50 A	各種電源
4	A/C MAG	7.5 A	空調
5	H/L HI	20 A	ヘッドランプ (ハイビーム)
6	FOG	15 A	フォグランプ グレード / 仕様別装備

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
7	H/L WASH	20 A	—
8	SUNROOF	—	—
9	HEATER*1	40 A	空調
	F.DEF RH*2	—	—
10	EVVT*1	20 A	エンジンコントロールシステム
	F.DEF LH*2	—	—
11	FAN 1	40 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
12	ROOM	15 A	ルームランプ
13	TCM	15 A	トランスアクスルコントロールシステム グレード/仕様別装備
14	DSC	20 A	DSC グレード/仕様別装備
15	BTN 2	7.5 A	各種電源
16	AT PUMP	15 A*1	トランスアクスルコントロールシステム グレード/仕様別装備
		—*2	—
17	PTC*1	—	—
	HEATER*2	40 A	空調
18	INJ	30 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
19	R.DEF	30 A	リヤウインドーデフォッガー (曇り取り)
20	IGKEY 2	40 A	各種電源
21	IGKEY 1	40 A	各種電源
22	HORN	15 A	ホーン

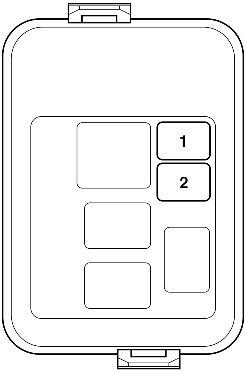
位置	表示	容量	保護装置
23	STOP	15 A	制動灯
24	ENG+B	10 A	エンジンコントロールシステム
25	FUEL PUMP	25 A	フューエルポンプ グレード/仕様別装備
26	ABS	40 A	ABS
27	SEAT WARM	—	—
28	EHPAS	80 A	パワーステアリング グレード/仕様別装備
29	—	—	—
30	ABS IG	7.5 A	ABS
31	SWS	—	—
32	H/L LO RH	15 A	ヘッドランプ 右 (ロービーム)
33	H/L LO LH	15 A	ヘッドランプ 左 (ロービーム)
34	ILLUMI	7.5 A	イルミネーション
35	TAIL	15 A	尾灯、番号灯、車幅灯
36	ENG INJ	15 A	エンジンコントロールシステム
37	ENG BAR	15 A	各種電源
38	ENG INJ2*1	15 A	エンジンコントロールシステム
	ENG BAR 2*2	20 A	各種電源
39	EHPAS IG*1	7.5 A	パワーステアリング
	ETV*2	15 A	エンジンコントロールシステム

*1 SKYACTIV-G 2.0
*2 SKYACTIV-G 2.0 以外

運転する前に
運転するときに
室内装備の使い方
お手入れのしかた
トラブルが起きたら
車両スペック
さくいん

ヒューズ切れ、電球切れのとき

リレーボックス (MZR 1.5、MZR 1.6、SKYACTIV-G 2.0)



位置	表示	容量	保護装置
1	DCDC SUB*1	20 A	各種電源
	GLOW 3 FAN 2*2	30 A	クーリングファン
2	—*1	—	—
	GLOW 2 FAN 3*2	30 A	クーリングファン

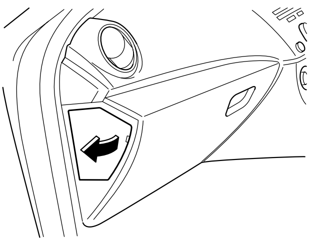
*1 SKYACTIV-G 2.0
*2 MZR 1.5、MZR 1.6

ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

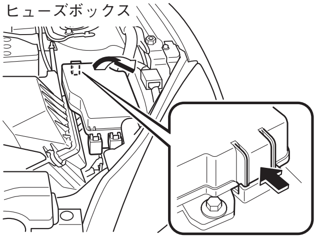
ヒューズの交換

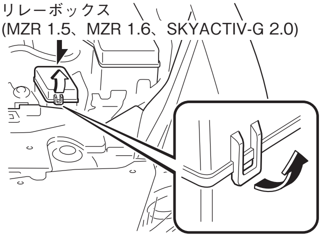
室内ヒューズボックス



1 電源ポジションを OFF にします。
2 ヒューズボックスのカバーを開きます。ヒューズボックスは助手席グローブボックスの左横と、エンジンルーム内にあります。

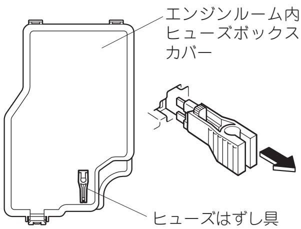
エンジンルーム内





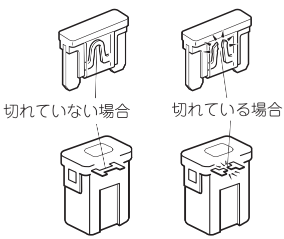
知識

- 各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。
- ヒューズボックスのカバー裏側に各ヒューズの規定容量が表示されています。



3 ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
→ 275 ページ「ヒューズの受け持つ装置」

4 ヒューズを抜き取ります。



5 ヒューズを点検し､切れている場合は､規定容量のヒューズと交換します。

6 ヒューズボックスのカバーを元の通り取り付けます。

警告

禁止

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しない。

配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

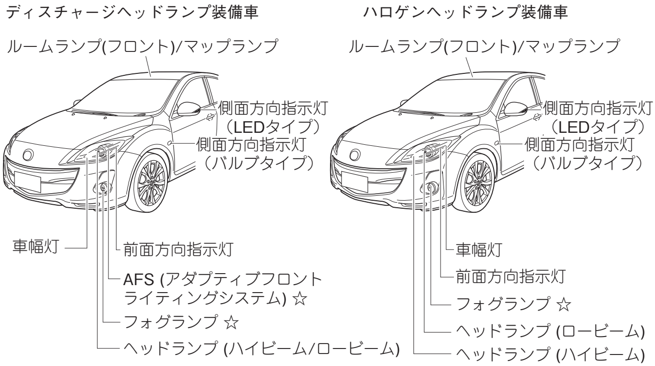
知識

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

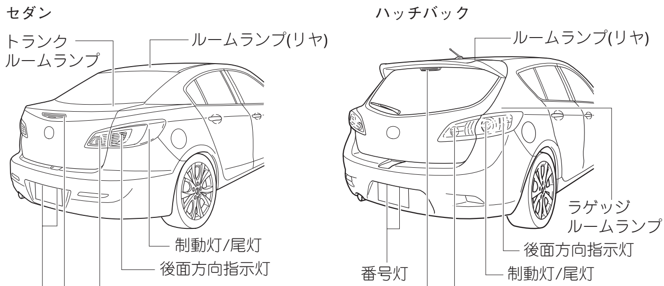
ヒューズ切れ、電球切れのとき

電球 (バルブ) の交換

フロント



リヤ



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

⚠ 注意

(必ず守る) 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

(必ず守る) 番号灯、ルームランプ、ラゲッジルームランプのレンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズに当たると、傷がつくおそれがあります。

知識

- **ハロゲン球の取り扱いについて**
  ハロゲン球を素手で触れてはいけませんが、万一、誤ってハロゲン球に触れてしまったときは、水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ってください。
- **交換する電球について**
  必ず同じ W 数の電球を使用してください。
- **ランプの曇りについて**
  ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ (ディスチャージヘッドランプ装備車)

ヘッドランプの上向き (ハイビーム)/ 下向き (ロービーム) にはディスチャージヘッドランプが装備されています。

警告

必ず守る

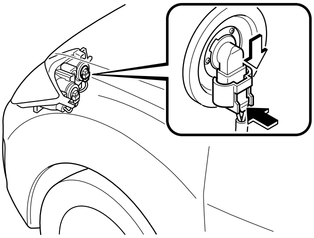
ディスチャージヘッドランプの交換・修理をするときは、必ずマツダ販売店へ相談する。

ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

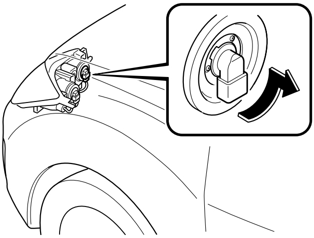
ヒューズ切れ、電球切れのとき

ヘッドランプ(ハロゲンヘッドランプ装備車)

上向き(ハイビーム)

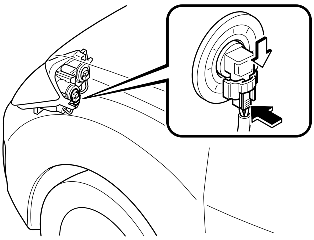


1 ボンネットを開けます。
2 ツメを押し、コネクターをはずします。

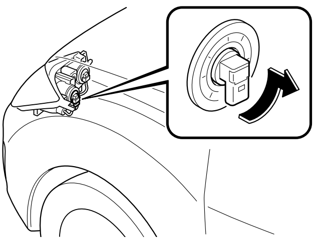


3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

下向き(ロービーム)

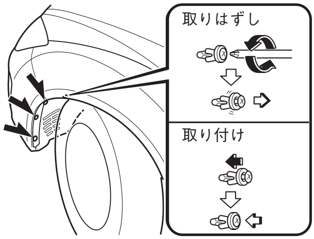


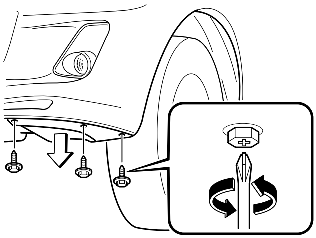
1 ボンネットを開けます。
2 ツメを押し、コネクターをはずします。



3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

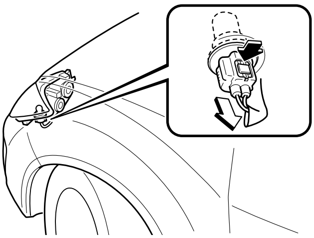
前面方向指示灯



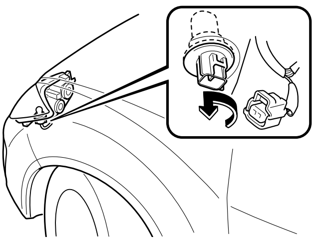


1 エンジンをかけ、交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。

2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。



3 ツメを押し、コネクターを取りはずします。



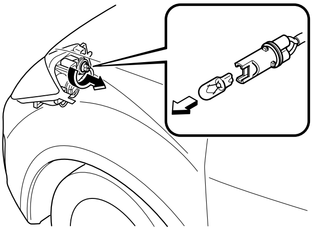
4 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

5 電球を取り換えます。

6 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

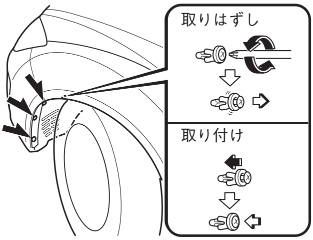
ヒューズ切れ、電球切れのとき

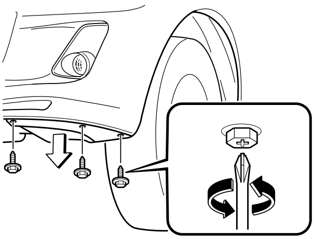
車幅灯(ディスチャージヘッドランプ装備車)



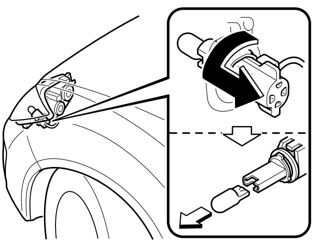
1 ボンネットを開けます。
2 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
3 電球を取り換えます。
4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

車幅灯(ハロゲンヘッドランプ装備車)





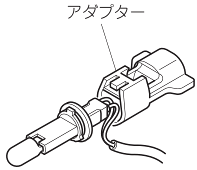
1 エンジンをかけ、交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。
2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。



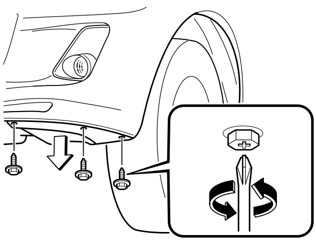
3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

知識

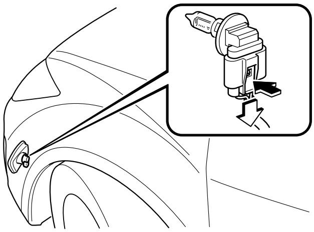
車幅灯を取りつけるときは、アダプターがソケットに装着されていることを確認してください。



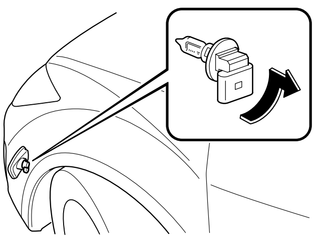
フォグランプ グレード/仕様別装備



1 ネジをはずし、マッドガードをめくります。



2 ツメを押し、コネクターを取りはずします。



3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

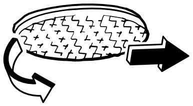
ヒューズ切れ、電球切れのとき

側面方向指示灯

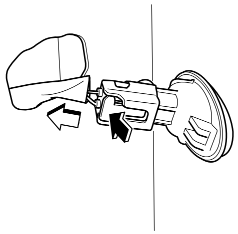
LED タイプ

ドアミラー横にある側面方向指示灯 / 非常点滅灯は LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

バルブタイプ



1 ユニットを車両の前後いずれかの方向へスライドさせ、スライドさせた方向と反対側を手前に引き、取りはずします。



2 ツメを押し、コネクターをはずします。
3 新しいユニットに取り換え、はずした手順と逆の手順で取り付けます。

知識

側面方向指示灯は電球 (バルブ) の交換はできません。ランプユニット本体の交換となりますので、側面方向指示灯を交換するときはマツダ販売店へご相談ください。

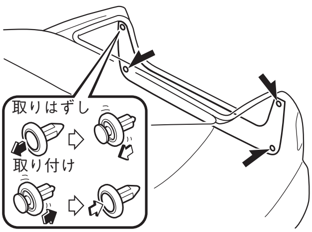
制動灯 / 尾灯、後面方向指示灯

LED タイプ

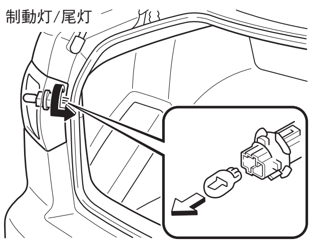
制動灯 / 尾灯は LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

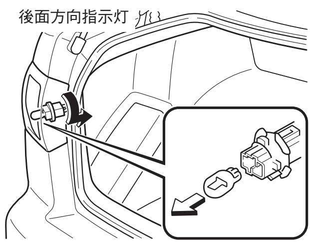
バルブタイプ

(セダン)



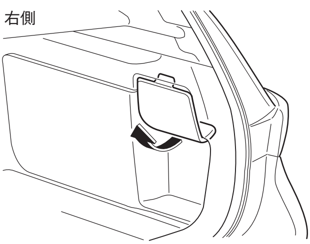
1 トランクを開けます。
2 ファスナーを取りはずしてトランクエンドトリムを取りはずします。

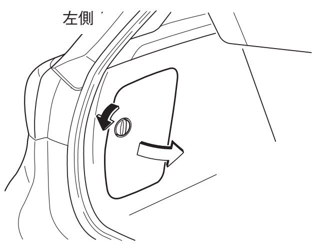




3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

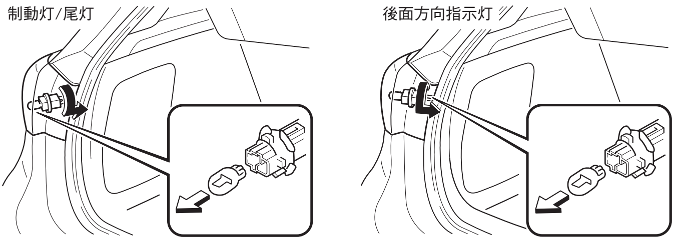
(ハッチバック)





1 リヤゲートを開けます。
2 カバーを取りはずします。

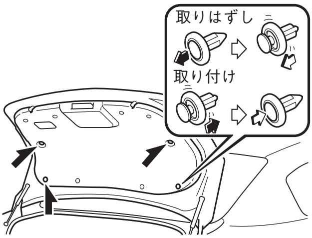
ヒューズ切れ、電球切れのとき



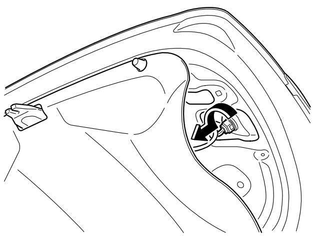
3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

後退灯

セダン

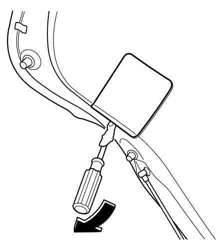


1 トランクを開けます。
2 ファスナーを取りはずしてトランクトリムをめくります。

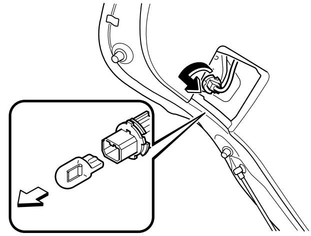


3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ハッチバック



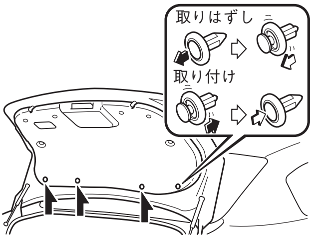
1 リヤゲートを開けます。
2 カバーを取りはずします。



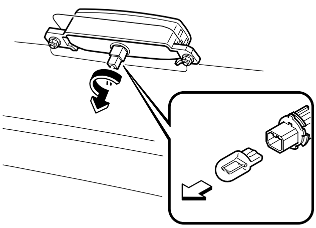
3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ハイマウントストップランプ

セダン



1 トランクを開けます。
2 ファスナーを取りはずしてトランクトリムをめくります。



3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4 電球を取り換えます。
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

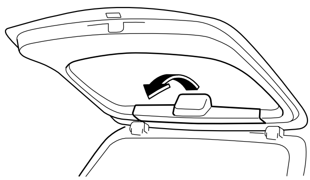
ハッチバック

(LED タイプ)

LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

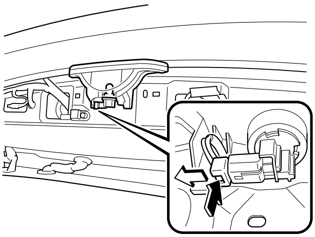
ヒューズ切れ、電球切れのとき

(バルブタイプ)

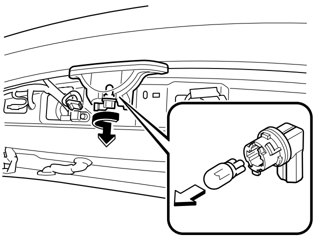


1 リヤゲートを開けます。

2 カバーを取りはずします。



3 ツメを押し、コネクターをはずします。

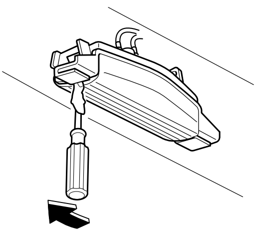


4 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

5 電球を取り換えます。

6 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

番号灯



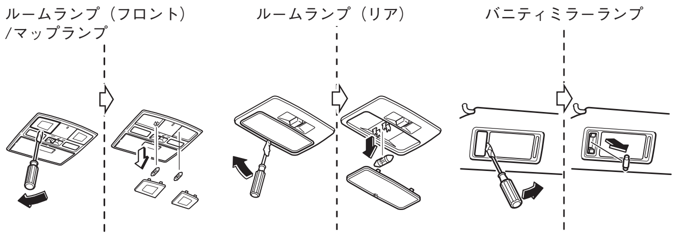
1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。

2 電球を抜き取ります。

3 電球を取り換えます。

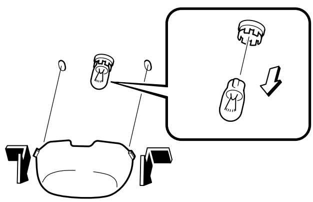
4 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

ルームランプ (フロント)/ マップランプ、ルームランプ (リヤ)、バニティミラーランプ グレード/仕様別装備



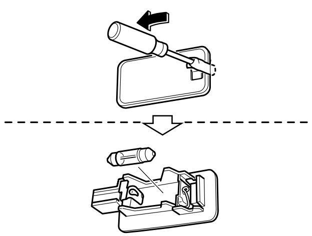
1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
2 電球を取りはずします。
3 電球を取り換えます。
4 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

トランクルームランプ (セダン)



1 レンズの両側を押さえ、レンズを取りはずします。
2 電球を抜き取ります。
3 電球を取り換えます。
4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ラゲッジルームランプ (ハッチバック)



1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
2 電球を抜き取ります。
3 電球を取り換えます。
4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

電池交換

電池を交換するときは

注意

必ず守る
電池の ＋ 側と － 側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。

禁 止
電池を交換するときは内部回路や電極に触れたり、電極を曲げたりしないように注意してください。また内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。

必ず守る
電池を交換してもキー / アドバンストキーが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。

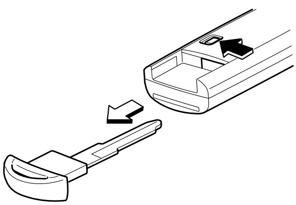
アドバンストキー

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

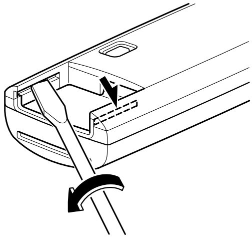
- エンジンをきったときにメーター内の KEY 表示灯 (緑) が点滅する
- アドバンストキーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

電池交換のとき、アドバンストキーが破損するおそれがあるため、マツダ販売店での交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

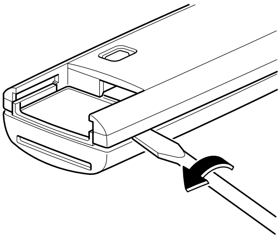
電池の規格 : リチウム電池 CR2025



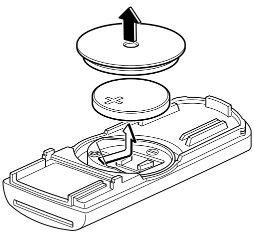
1 補助キーを引き出します。



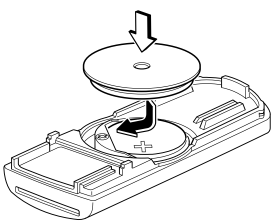
2 マイナスドライバーなどを使ってカバーを少し開けます。



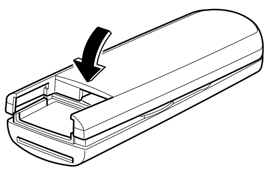
3 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外します。



4 キャップを外して、電池を取り出します。



5 新しい電池を、＋ 側を上にして差し込み、キャップをかぶせます。



6 カバーを取り付けます。

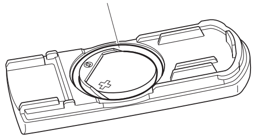
7 補助キーを差し込みます。

電池交換

⚠ 注意

禁止　**ゴムリングを傷つけないようにしてください。**

必ず守る　**ゴムリングが外れた場合は、新しい電池を入れる前にゴムリングを取り付けてください。**



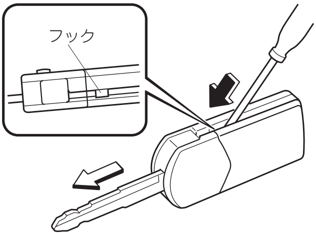
リトラクタブルタイプキー

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

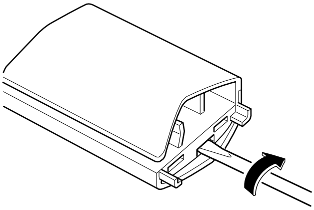
- リモートコントローラーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

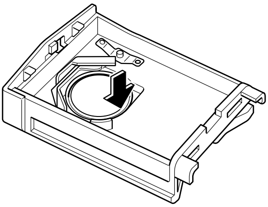
電池の規格 : リチウム電池 CR1620



1. キーを取り出します。
→ 17 ページ「リトラクタブルタイプキー」
2. マイナスドライバーなどを使ってフックを押し、キー部分とリモートコントローラー部分を取りはずします。



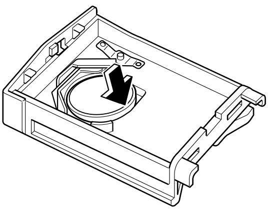
3 マイナスドライバーなどを慎重に使って、ゆっくりとまわしながらカバーを開きます。



4 電池の端を押して、電池を取り出します。

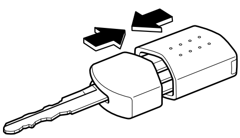
知識

指で押して取り出しにくい場合は、ドライバーなどで押すと取り出しやすくなります。



5 新しい電池の ＋ 側を下にして、電池を差し込み取り付けます。

6 カバーを閉めます。



7 リモートコントローラーとキーの向きを合わせ、カチッと音がするまで押し込みます。

注意

必ず守る

リモートコントローラーとキーはカチッと音がするまで確実に押し込んでください。取り付けが不完全な場合、外れるおそれがあります。

車の手入れ

外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのプラスチックを使用しているランプ類は、コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用しないでください。
- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。
  - 海岸地帯を走行したとき。
  - 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
  - ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
  - コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
  - 泥、ほこりが著しく付いたとき。
  - 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

洗車するとき

水洗いするとき

1. 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取ってください。

⚠ 注意

オートワイパー装備車は、ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。（必ず守る）

運転席 / 助手席側ワイパーアームを起こすときは、運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから降ろしてください。ワイパーアームとブレードが接触し損傷するおそれがあります。（必ず守る）

エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。（禁止）

洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。（必ず守る）

自動洗車機を使用するとき

- ドアミラーを格納してください。
- アンテナを取りはずしてください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーがひっかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入るおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは月に一回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

ワックスの使用について

- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

車の手入れ

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについた油膜を取るときは純正ガラスクリーナーを使用してください。
ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。

注意

必ず守る
熱線を損傷するおそれがあるため、熱線にそってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

フロントガラスの油膜をとるときは

雨の夜は、フロントガラスに油膜があると、対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

アルミホイールの手入れ グレード/仕様別装備

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

注意

必ず守る
中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。
変色・シミの原因となります。

知識

アルミホイールを洗うときは

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗膜はがれなどの原因となります。すみやかに軟らかい布でふき取ってください。
- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗膜を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

警告

禁止

室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

知識

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

シートベルトの手入れ

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなることがあります。早めに手入れを行なってください。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

車の手入れ

警告

必ず守る

シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。

有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

布張り部分の手入れ

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

1 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。

2 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

革張り部分の手入れ グレード/仕様別装備

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

1 掃除機などでホコリや砂を取り除きます。

2 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。

3 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

4 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

- 天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷が分かる場合があります。
- 品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
- シート表面についた砂やホコリなどは、本革表面の保護膜を傷つけ早期摩耗の原因になります。
- 本革部分に油汚れなどが付くとカビやシミなどの原因になります。
- シートがぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
- 直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
- ビニール製品を長時間シートの上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

樹脂部品の手入れ

樹脂部品に油脂類が付着すると、変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。
早めにやわらかい布などでふき取ってください。

⚠ 注意

禁止

つや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。

インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) の手入れ

ソフトパッド部の表皮には非常にやわらかい素材を使用しています。乾いた布などで強くこすると白い擦り傷となる場合があります。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。

車の手入れ

ピアノブラックパネルの手入れ グレード/仕様別装備

セレクトレバーパネルには特殊な塗装処理が施されたパネルが取り付けられています。パネルが汚れたときは、やわらかい布などでふき取ってください。

知識

硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
→ 368 ページ「エンジンオイル」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。
バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	使用温度範囲 (外気温)
30%	− 16° C 以上
50%	− 37° C 以上

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。

冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→ 273 ページ「ウォッシャー液の補充」

季節の準備

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

警告

必ず守る

タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

18 インチタイヤ装着車にはタイヤチェーンを装着することができません。タイヤチェーンを使用するときは、17 インチ冬用タイヤに前後輪とも交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみて手順を理解しておきましょう。
→ 306 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは 4WD 車も前輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズにあった純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

⚠ 注意

必ず守る
標準タイヤのみタイヤチェーンの装着ができます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、タイヤチェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。くわしくはマツダ販売店にご相談ください。

必ず守る
応急用スペアタイヤにタイヤチェーンは装着できません。前輪がパンクしたときは応急用スペアタイヤを後輪に、はずした後輪を前輪に取り付け、前輪にタイヤチェーンを装着してください。

必ず守る
純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

禁　止
積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。また、4WD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。

必ず守る
タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下で走行してください。30km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
- ホイールキャップ装着車は、キャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。
- 18 インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、ボディーなどに干渉し傷を付けることがあるため装着できません。タイヤチェーンを使用するときは、17 インチ冬用タイヤに前後輪とも交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- アルミホイール装着車にタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

季節の準備

夏にそなえて

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガス HFC134a (R134a) を使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。

MEMO

5 トラブルが起きたら

故障したとき

路上で動けなくなったとき

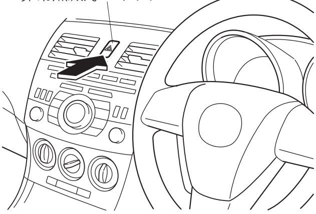
一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー / セレクトレバーを N にいれ、安全な場所まで押し出します。

警告

禁止

万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止める。

爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

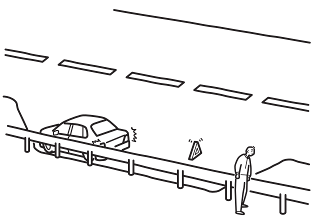


1 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。

2 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。

→ 315 ページ「発炎筒」

- 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務づけられています。
- 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。



3 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。

4 安全を確保した後、救援を求めます。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店へ連絡してください。

知識

停止表示板 (停止表示灯) について

停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

スタックしたとき

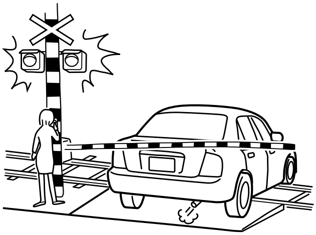
ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。

- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを D または R にいれて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー / セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

故障したとき

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき



1 踏切の非常ボタンを押します。緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→ 315 ページ「発炎筒」

2 付近の人に救援を求めます。

エンストで動けなくなったとき

1 エンジンをかけ直します。

2 エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→ 315 ページ「発炎筒」

3 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー / セレクトレバーを N にいれ、安全な場所まで押し出します。

知識

緊急避難について

スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

発炎筒

⚠ 警告

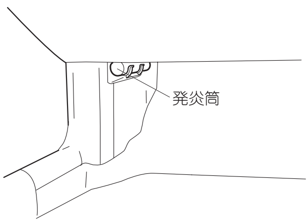
禁止
油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。
火災につながるおそれがあります。

禁止
使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけない。
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止
お子さまにはさわらせない。
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止
トンネル内では発炎筒を使用しない。
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について



事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

- 使用方法
- 使用上の注意事項
- 発炎時間
- 有効期限

緊急用具の取り扱い

工具、ジャッキの格納場所

⚠ 警告

車に搭載されているジャッキを使用する。（必ず守る）

車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

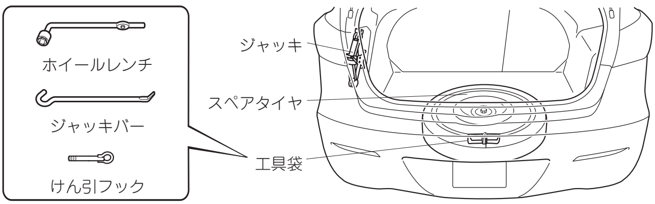
（禁止）**ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。**

（必ず守る）**工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。**

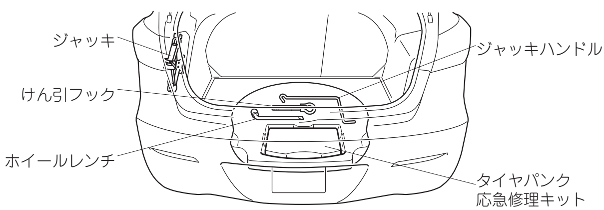
工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

セダン

スペアタイヤ搭載車



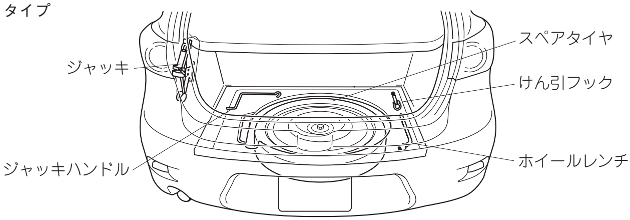
タイヤパンク応急修理キット搭載車



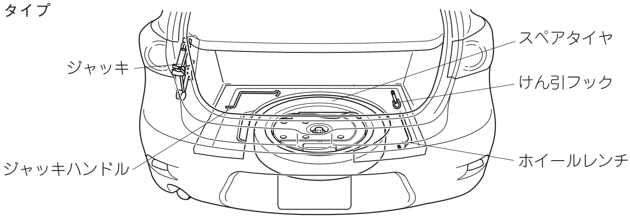
ハッチバック

スペアタイヤ搭載車

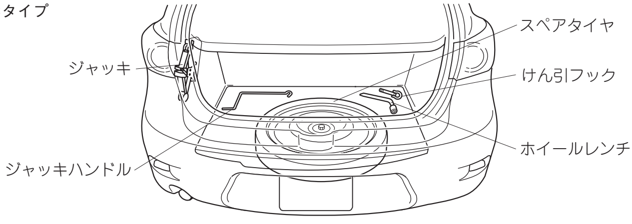
Aタイプ



Bタイプ



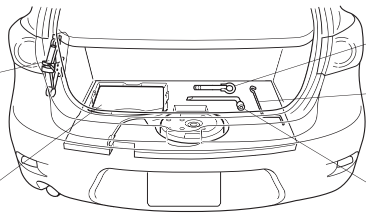
Cタイプ



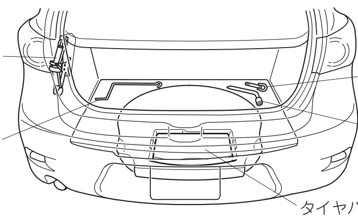
緊急用具の取り扱い

タイヤパンク応急修理キット搭載車

Aタイプ



Bタイプ



ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。

2 マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P にいれます。

3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。

4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。

5 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→ 316 ページ「工具、ジャッキの格納場所」

6 輪止めを用意します。

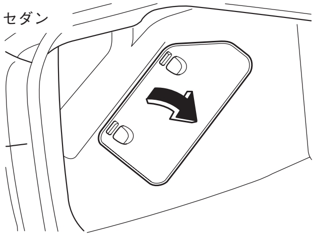
知識

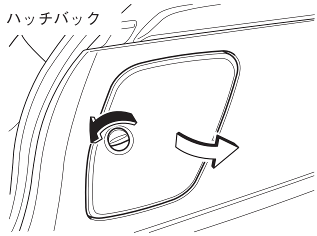
輪止めや停止表示板 (停止表示灯) について

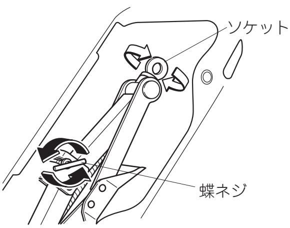
輪止めや停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

ジャッキを取り出すとき

1 カバーを取りはずします。







2 蝶ネジを左にまわしてはずし、ソケットをゆるめてジャッキを取り出します。

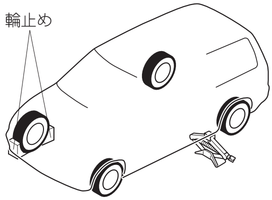
ジャッキアップするとき

⚠ 警告

必ず守る

ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P にいれ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。

チェンジレバーが 1 または R、セレクトレバーが P にはいっていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

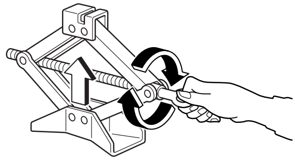


1 ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

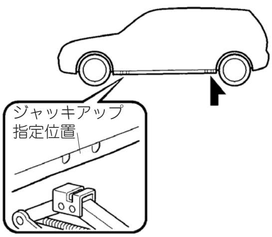
- 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
- 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後

2 ジャッキを地面に置きます。

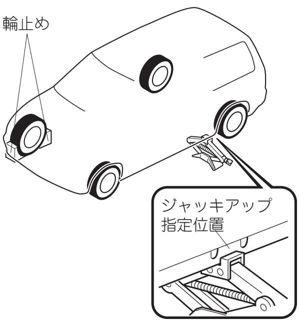
緊急用具の取り扱い



3 ジャッキの図の部分を手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



4 ジャッキをジャッキアップ指定位置 (目印となるふくらみの間) の中央に直角にセットします。



5 ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置 (目印となるふくらみの間) の中央にジャッキがはまっていることを確認します。

⚠ 警告

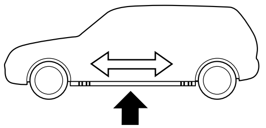
禁止

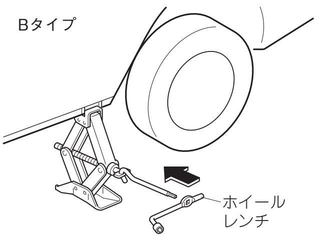
ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れない。

車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

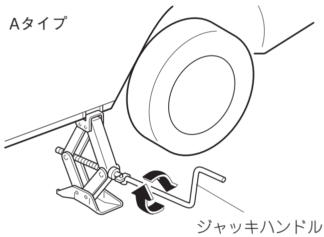
知識

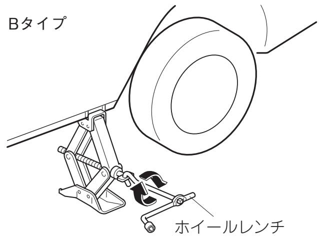
パンクなどで車高が下がりジャッキが入りにくい場合、車両中央部分からジャッキを入れてジャッキアップ指定位置までスライドさせてください。





6 **A タイプ**
ジャッキにジャッキハンドルを組み付けます。
B タイプ
ジャッキにジャッキバーをかけ、ジャッキバーにホイールレンチを組み付けます。





7 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。

⚠ 警告

禁止

必要以上にジャッキアップしない。
車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止

ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけない。
ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止

ジャッキアップした車の下には絶対にはいらない。
万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

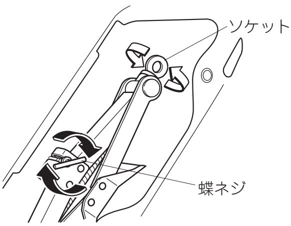
緊急用具の取り扱い

⚠ 注意

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

禁止

ジャッキを格納するとき



1 ソケットが上側になるような方向で蝶ネジをジャッキに差し込み、右にまわしていったん固定します。
2 ソケットを図の方向にまわします。
3 蝶ネジをしっかりまわしてジャッキを固定します。

知識

ジャッキが完全に固定されていないときは、走行中に音がする場合があります。
再度ソケットをまわしてジャッキを固定してください。

スペアタイヤ

タイヤパンク応急修理キット搭載車にはスペアタイヤが標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。スペアタイヤの取り扱いについては、スペアタイヤに付属の取扱説明書をご覧ください。
タイヤパンク応急修理キット非搭載車には応急用スペアタイヤが標準で搭載されています。

⚠ 警告

他のタイヤやホイールと組み合わせて使用したり、他の車に使用しない。

車に搭載されているスペアタイヤとホイールは、お客様のお車専用のものです。思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止

応急用スペアタイヤについて

応急用スペアタイヤはパンクしたとき一時的に使用するものです。

⚠ 注意

禁止

応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h 以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

必ず守る

応急用スペアタイヤを装着したときは、車体が少し傾き、車高が低くなります。地面の突起物などを乗り越えるときは、車体が地面に接触しないように慎重に運転してください。

知識

● **タイヤの点検について**

- 応急用スペアタイヤの空気圧を定期的に点検してください。
  → 380 ページ「タイヤ空気圧」
- 摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が表れたら、タイヤを交換してください。
  → 270 ページ「タイヤの点検」

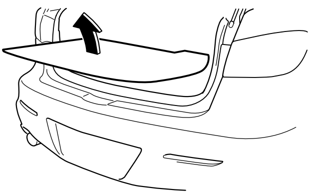
● **タイヤの装着について**

- 4WD 車に応急用スペアタイヤを装着したときは、4WD 警告灯が点滅します。4WD 警告灯が点滅したときは、4WD は作動しませんが、前輪駆動での通常走行は可能です。
- 応急用スペアタイヤに標準タイヤのホイールキャップは取り付けできません。

緊急用具の取り扱い

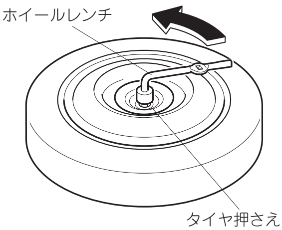
スペアタイヤを取り出すとき

セダン、ハッチバック (サブウーファー非装備車)



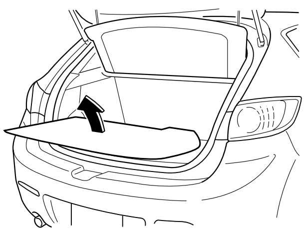
1 トランクマットを取りはずします。

2 **セダン**
ホイールレンチを工具袋から取り出します。
ハッチバック
ホイールレンチをトランクボードから取りはずします。



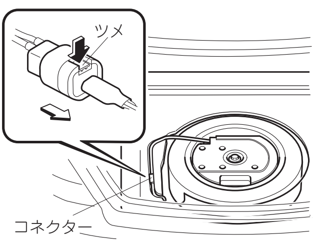
3 ホイールレンチを使って固定ボルトをはずし、スペアタイヤを取り出します。

ハッチバック (サブウーファー装備車)



1 電源ポジションを OFF にします。

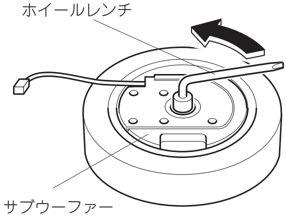
2 トランクマットを取りはずします。



3 コネクターを取りはずします。

知識

コネクターをはずすときは、ツメの部分を強く押しながらはずしてください。



4 トランクボードからホイールレンチを取りはずします。
5 ホイールレンチを使って固定ボルトをはずし、サブウーファーとスペアタイヤを取り出します。

スペアタイヤを収納するとき

取り出すときと逆の手順で格納します。
タイヤが確実に固定されていることを確認してください。

パンクしたとき

タイヤ交換

警告

必ず守る

タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

タイヤサイズの確認方法について

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤを交換する前に

1. 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P にいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5. 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。
   → 316 ページ「工具、ジャッキの格納場所」
   → 322 ページ「スペアタイヤ」
6. 輪止めを用意します。

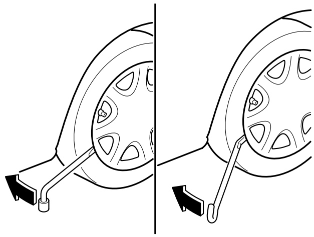
知識

輪止めや停止表示板 (停止表示灯) について

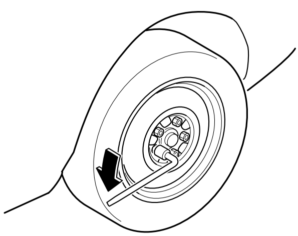
輪止めや停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。

必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

タイヤの取りはずし



1 ホイールキャップ装着車はホイールとホイールキャップの間にジャッキバー又はホイールレンチの端を入れ、図のようにこじりながらホイールキャップをはずします。

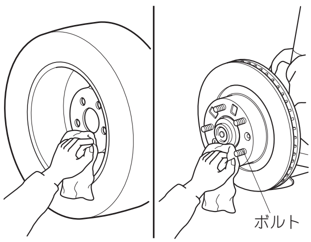


2 ホイールレンチでナットを左に約 1 回転まわしてゆるめます。

3 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。

→ 318 ページ「ジャッキアップする前に」

4 ナットをはずし、タイヤを取りはずします。



5 ボルトとホイール裏側の接触面に付着している汚れを布などでふき取ります。

⚠ 警告

必ず守る

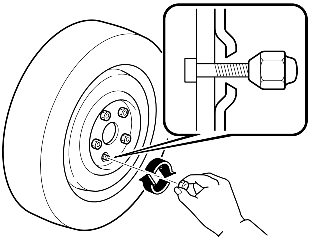
ボルトやホイール裏側の接触面が汚れていないことを確認する。

ボルトやホイール裏側の接触面がホコリなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転する前に
運転するときに
室内装備の使い方
お手入れのしかた
トラブルが起きたら
車両スペック
さくいん

パンクしたとき

タイヤの取り付け



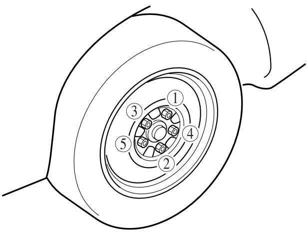
1 タイヤをスペアタイヤに取り替えます。

2 タイヤを取り付けてから、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたる程度まで、ナットを右にまわしてホイールにガタがない程度まで仮締めします。

警告

禁止

ナットやボルトにオイルやグリースをぬらない。
ナットがゆるんでタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。



3 ジャッキハンドルを左にまわし、車をおろします。

4 ホイールレンチで図の番号順にナットを２～３回に分けて締め付けます。

ナットの締め付けトルク :
88N·m ～ 118N·m (9kgf·m ～ 12kgf·m)

注意

禁止

ホイールレンチを足で踏んでナットを必要以上に締め付けないでください。ボルトが破損するおそれがあります。

タイヤを交換した後は

1 **(セダン)**
交換したタイヤは、トランクルームに格納します。
(ハッチバック)
交換したタイヤは、ラゲッジルームに格納します。

知識

- (セダン)
  標準タイヤはボルトを使ってトランクルームに固定することができません。
- (ハッチバック)
  標準タイヤはボルトを使ってラゲッジルームに固定することができません。
- (サブウーファー搭載車)
  スペアタイヤをラゲッジルーム内に固定していない状態で、サブウーファーを取り付けることはできません。

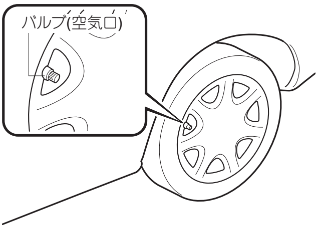
2 輪止めをはずし、工具、ジャッキを格納します。
→ 316 ページ「工具、ジャッキの格納場所」

3 タイヤの空気圧を点検します。
→ 380 ページ「タイヤ空気圧」

知識

タイヤ交換に応急用スペアタイヤを使用した場合は、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

パンクタイヤを修理した後は



1 応急用スペアタイヤを取りはずし、標準タイヤを取り付けます。

2 ホイールキャップ装着車はバルブ (空気口) とホイールキャップの切り欠きを合わせて取り付けます。

3 応急用スペアタイヤを格納します。

警告

必ず守る

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

純正品以外を使用すると、バルブの損傷により適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

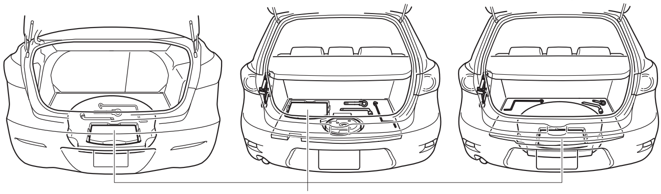
パンクしたとき

知識

標準タイヤに交換した後は

- 標準タイヤに交換してから約 1,000km 走行した後、ナットにゆるみが無いことを確認してください。
- 標準タイヤに交換した後はホイールバランスが狂うことがあります。
- 走行中に車体の振動などの異常を感じたら、マツダ販売店で点検を受けてください。

タイヤパンク応急修理キット グレード/仕様別装備



本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。

知識

修理・交換について

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤは、できるだけ早くマツダ販売店で修理、交換を行なってください。

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。



警告

万一飲用したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。（必ず守る）
修理剤を飲用すると健康に害があります。

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄する。（必ず守る）
それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

お子さまには修理剤をさわらせない。（禁止）
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

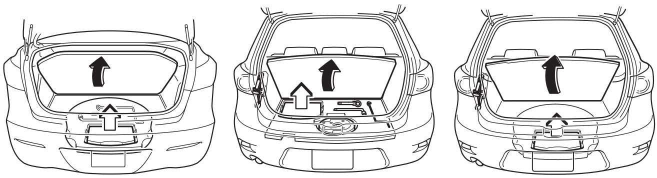
修理剤の使用について

- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限がきれているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが 2 本以上パンクしているとき

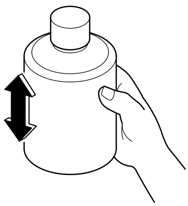
パンクしたとき

タイヤパンク応急修理キットの使いかた

1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。
2 セレクトレバーを P にいれます。
3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5 人や荷物を降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。



6 修理剤のボトルをよく振ります。



警告

注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。

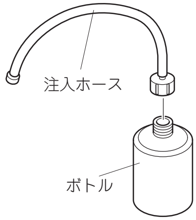
必ず守る

注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、修理剤が衣服などに付着すると取れないおそれがあります。

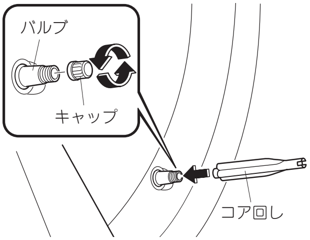
知識

修理剤の性質について

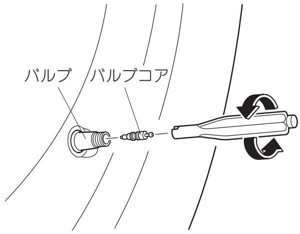
0°C 以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。



7 ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。



8 パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。



9 コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。

⚠ 注意

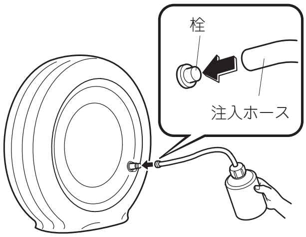
必ず守る

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

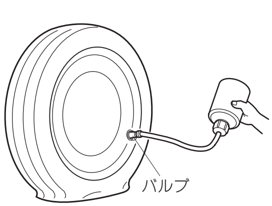
知識

バルブコアは汚れないように保管してください。

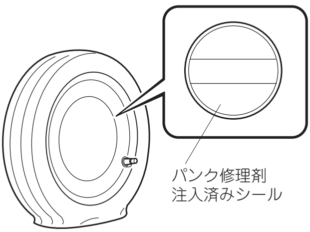
パンクしたとき



10 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。



11 ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤を全てタイヤの中に注入します。



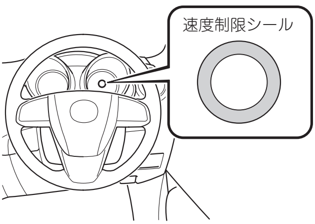
12 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブにバルブコアを取り付けます。

13 パンク修理剤注入済みシールをホイールの平らなところに貼ります。

知識

修理剤の回収について

注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または恒久修理の際に修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。

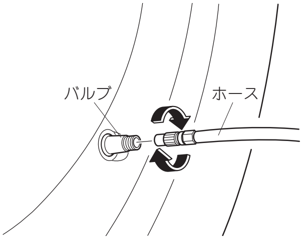


14 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。

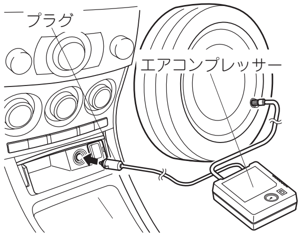
⚠ 警告

ハンドルのパッド部に制限速度シールを貼らない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

禁止



15 エアコンプレッサーのホースをバルブに取り付けます。



16 エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションを ACC にします。
→ 251 ページ「電源ソケット」

⚠ 注意

電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。

必ず守る

17 エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

パンクしたとき

知識

空気圧の調整について

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

18 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースをバルブから抜きます。

19 バルブキャップを取り付けます。

20 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、直ちに走行を始めます。

注意

必ず守る

80km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80km/h 以上の速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

21 10 分間もしくは 5km 程度走行後に手順 16 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧をチェックします。適正空気圧より低下していたら、手順 17 の作業から再度行ないます。

警告

禁止

空気圧が 130kPa (1.3kgf/cm^2) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店または JAF などに連絡する。

本修理キットによる応急修理はできません。

禁止

手順 16 〜 22 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。

マツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠ 注意

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

必ず守る

22 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、タイヤの交換を行なってください。

知識

応急修理をしたタイヤとホイールは

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、新しいタイヤに交換することをおすすめします。修理･再使用については、マツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤の有効期限について

修理剤には有効期限があります。有効期限がきれたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限がきれる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。

⚠ 警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

必ず守る

必ず保護メガネを着用する。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

必ず守る

バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、バッテリー液をこぼさない。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

必ず守る

絶対に火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

必ず守る

換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわない。また、充電中はバッテリーに近づかない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

必ず守る

ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検する。

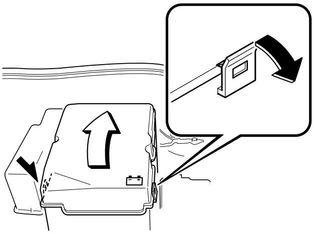
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売のブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。
自車と同じ 12V バッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

⚠ 注意

必ず守る **ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。**



1 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。
2 ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認します。
3 バッテリーカバーを取りはずします。

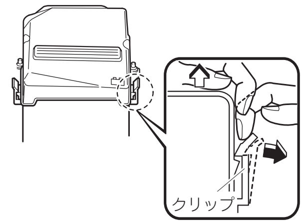
バッテリーがあがったとき

注意

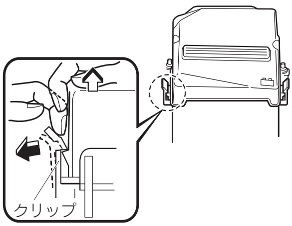
バッテリーカバーを取りはずす場合はドライバーやプライヤーなど、力のかかる工具を使わないでください。クリップに無理な力をかけると破損するおそれがあります。破損や傷つきを防止するため、次の手順で取りはずしてください。

必ず守る

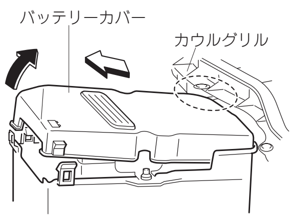
1 車両外側のクリップをゆっくり 4mm 程度広げ、バッテリーカバーを持ちあげてロック部分を解除します。



2 車両内側のクリップをゆっくり 4mm 程度広げ、バッテリーカバーを持ちあげてロック部分を解除します。

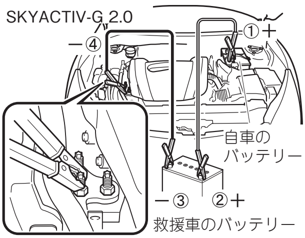


3 バッテリーカバーを、カウルグリルにあたらないよう持ちあげて、引き抜きます。



4 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
ブースターケーブルを接続する前に各バッテリーの端子 (＋、－) の位置を確認してください。

- **1本目**
  ① 自車のバッテリーの ＋ 端子
  ② 救援車のバッテリーの ＋ 端子
- **2本目**
  ③ 救援車のバッテリーの － 端子
  ④ 図で表示の箇所 (アースを取る)





⚠ 警告

禁止

バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、火花の発生を防ぐため次の点を必ず守ってください。

- **④ の接続は自車バッテリーの － 端子につながないでください。**
- **ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子がボディーや － 端子に触れないように十分注意してください。**

5 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。

6 自車のエンジンをかけます。約3分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。

⚠ 警告

禁止

充電中はバッテリーに近づかない。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

7 ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。

8 バッテリーカバーを取り付けます。

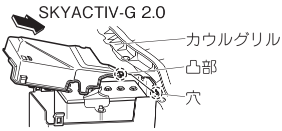
バッテリーがあがったとき

⚠ 注意

クリップに無理な力をかけると破損するおそれがあります。
破損や傷つきを防止するため、次の手順で取り付けてください。

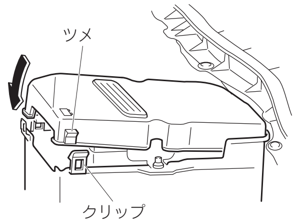
(必ず守る)

1 カウルグリルにあたらないよう注意しながら、バッテリートレイの穴にバッテリーカバーの凸部を挿しこみます。

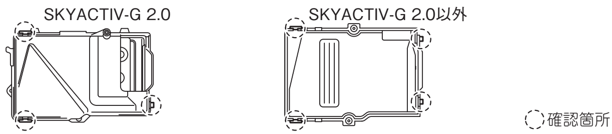




2 バッテリーカバーのツメをクリップに取り付けます。



- バッテリーカバーを取り付けたあとは、カバーが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと走行中他の装置と接触し故障につながるおそれがあります。



9 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

バッテリーがあがりやすいときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯 (赤) が点灯し、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠ 警告

禁止

エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。

エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。

禁止

✓エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。

エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。

特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

処置方法

1 安全な場所に車を止めます。

2 エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。

エンジンルームから蒸気が出ているときは

エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。

エンジンルームから蒸気が出ていないときは

エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。

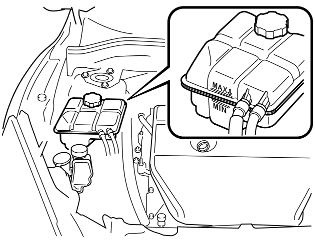
電動ファンが作動していることを確認し、高水温警告灯 (赤) が消灯したらエンジンを止めます。

オーバーヒートしたとき

注意

必ず守る

電動ファンが作動していないときは、エンジン温度がさらに上昇します。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。



3 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。量が不足しているときは ① ラジエーター ② リザーバータンクの順に冷却水を補充してください。
補充後はキャップを確実に取り付けてください。

4 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

冷却水がない場合は

一時的に水を補充してください。
水を補充したあとは、冷却水の濃度をもとにもどしてください。

アドバンストキーが作動しないとき

アドバンストキー一時停止機能

アドバンストキーが車内またはトランク内にあるとき、車内またはトランク内に置いてあるアドバンストキーの機能 (プッシュボタンスタートでのエンジン始動､リクエストスイッチの操作) が盗難防止のため、一時停止する場合があります。
次のいずれかの操作で復帰させてください。

- 一時停止したアドバンストキーのいずれかのスイッチを押す
- **(マニュアル車)**
  別のアドバンストキーを携帯し、KEY 表示灯 (緑) が点灯するまでクラッチペダルを踏み込みます。
  (オートマチック車)
  別のアドバンストキーを携帯し、KEY 表示灯 (緑) が点灯するまでブレーキペダルを踏み込みます。

けん引について

けん引してもらうとき

けん引はできるだけマツダ販売店またはJAFなどに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

警告

必ず守る
長い下り坂を降りるときは、レッカー車でけん引する。
ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

注意

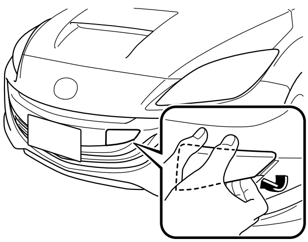
必ず守る
オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度30km/h以下、走行距離は30km以内にしてください。

必ず守る
4WD車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地状態で搬送してください。駆動装置の故障時は、トレーラーなどに搭載して搬送してください。前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る
金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

やむをえずロープでけん引してもらうときは、車両の前側にあるけん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

MZR 2.3 DISI Turbo



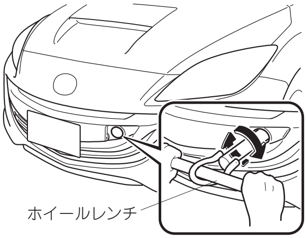
1 けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→316ページ「工具、ジャッキの格納場所」

2 カバーを手前に引き、取りはずします。

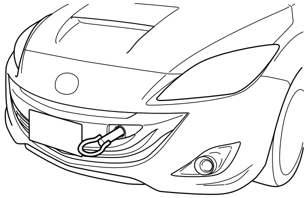
⚠ 注意

必ず守る

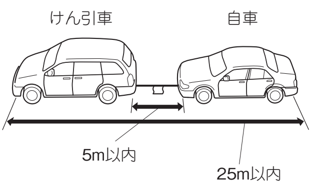
カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。



3 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



4 けん引ロープをフックにかけます。



5 ロープは 5m 以内にして、中央に 0.3m 平方 (0.3m × 0.3m) 以上の白い布を必ずつけてください。

6 けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー / セレクトレバーを N にいれます。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ACC にします。

⚠ 警告

必ず守る

やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

けん引について

⚠ 注意

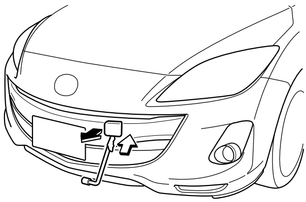
必ず守る

けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF (LOCK) にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

7 パーキングブレーキを解除します。

8 けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

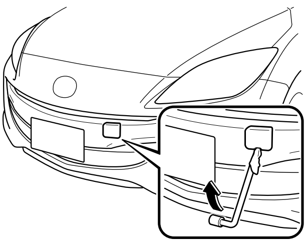
MZR 2.3 DISI Turbo 以外



1 けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。

→ 316 ページ「工具、ジャッキの格納場所」

2 カバーを手前にひき、下の隙間にやわらかい布を巻いたホイールレンチなどを差し込んでください。

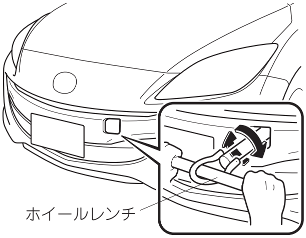


3 差し込んだホイールレンチなどを手前に倒し、カバーを取りはずしてください。

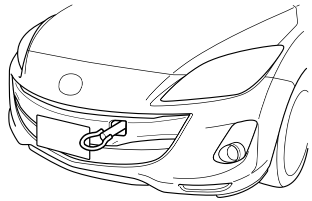
⚠ 注意

必ず守る

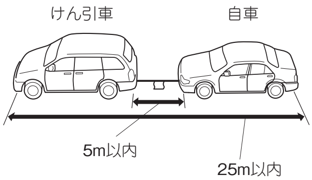
カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。



4 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



5 けん引ロープをフックにかけます。



6 ロープは 5m 以内にして、中央に 0.3m 平方 (0.3m × 0.3m) 以上の白い布を必ずつけてください。

7 けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー / セレクトレバーを N にいれます。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ACC にします。

⚠ 警告

やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。（必ず守る）

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

（必ず守る）**けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF (LOCK) にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

8 パーキングブレーキを解除します。

9 けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

けん引について

故障車をけん引するとき

一般路上でやむをえず故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

注意

必ず守る

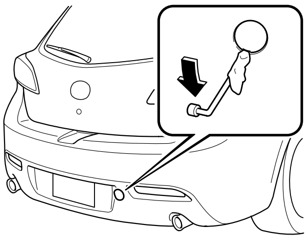
けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

- **自車の重量より重い車はけん引しないでください。**
- **急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。**
- **けん引フック以外にロープをかけないでください。**

必ず守る

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

MZR 2.3 DISI Turbo



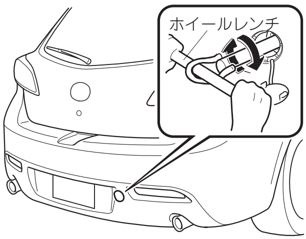
1 けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→ 316 ページ「工具、ジャッキの格納場所」

2 ホイールレンチの先端に布を巻いてフタを取りはずします。

注意

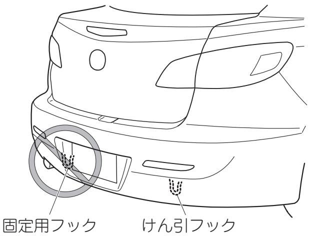
必ず守る

フタはバンパーから完全に取りはずすことができません。無理に取りはずそうとすると破損するおそれがあります



3 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。

MZR 2.3 DISI Turbo 以外



後ろ側のけん引フックはリヤバンパー下部の右側 (運転席側) にあります。

⚠ 注意

必ず守る

左側 (助手席側) のフックは、船舶で車を輸送するときの固定用フックです。けん引には使用しないでください。

万一事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

事故がおきたら

軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

チャイムがなったときは

システムの故障や、使用上の注意が必要な場合に警報チャイムでお知らせします。

チャイム	現象	確認してください
キー抜き忘れ防止チャイム **知識** 音量を変更できます。 → 141 ページ「セッティング」	電源ポジションを OFF または ACC にして運転席ドアを開けたときにチャイムが鳴りつづけるとき	キーまたは補助キーが差し込んだままになっていないか
ランプ消し忘れ防止チャイム **知識** 音量を変更できます。 → 141 ページ「セッティング」	キーまたは補助キーを抜いて (アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム使用時は、電源ポジションを OFF にして)、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りつづけるとき	ランプを点灯させたままになっていないか
エアバッグ警告チャイム / プリテンショナー警告チャイム	約 35 分のあいだに、毎分 5 秒間チャイムが鳴りつづけるとき	**警告** 禁止 **エアバッグ警告チャイム / プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しない。** 衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。
シートベルト着用忘れチャイム	車速が約 20km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴るとき	運転席 / 助手席シートベルトの着用を確認する。着用すると鳴り止む。

警報チャイム

<table>
<tr><th>チャイム</th><th>現象</th><th>確認してください</th></tr>
<tr><td>プッシュボタンスタートもどし忘れ警報</td><td>運転席ドアを開けたときに、チャイムが鳴り続けるとき</td><td>電源ポジションを OFF にしているか</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アドバンストキー車外持ち出し警報</td><td>運転席を開けたときにチャイムが 3 回鳴り、メーター内の KEY 警告灯 (赤) が点滅し続けるとき</td><td rowspan="2">電源ポジションを OFF にせずにアドバンストキーを車外に持ち出していないか</td></tr>
<tr><td>すべてのドアを閉めたときにチャイムが 6 回鳴り、メーター内の KEY 警告灯 (赤) が点滅し続けるとき</td></tr>
<tr><td rowspan="3">リクエストスイッチ不作動警報</td><td rowspan="3">アドバンストキーを携帯してドアのリクエストスイッチを押すと、チャイム 6 回鳴るとき</td><td>いずれかのドア、リヤゲートが開いていないか</td></tr>
<tr><td>電源ポジションを OFF にしているか</td></tr>
<tr><td>キースロットに補助キーをが差し込んだままになっていないか</td></tr>
<tr><td>アドバンストキートランク / リヤゲート内閉じ込み警報</td><td>リヤゲート / トランクを閉めたときにチャイムが約 10 秒間鳴るとき</td><td>アドバンストキーを荷室 / トランク内に置いていないか</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アドバンストキー車内閉じ込み警報</td><td>アドバンストキーを携帯して施錠しようとしたときに、チャイムが約 10 秒間鳴るとき</td><td rowspan="2">アドバンストキーを車内に置いていないか</td></tr>
<tr><td>フロントドアを施錠した状態でリヤゲート閉めたときにチャイムが約 10 秒間鳴るとき</td></tr>
</table>

チャイム	現象	確認してください
i-stop 警告チャイム	アイドリングストップ中にチャイムがなり、i-stop 警告灯 (橙) と他の警告灯も点灯したとき	運転席ドアが開いていないか
		ボンネットが開いていないか
		シートベルトを着用しているか
電動ハンドルロック警告チャイム	プッシュボタンスタートを押した後、チャイムが鳴るとき	ハンドルがロックしていないか

確認してもチャイムが鳴り止まないときは、マツダ販売店に連絡してください。

警告灯が点灯、点滅したときは

ブレーキ警告灯が点灯した



次のようなときは点灯し続けます。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

- ブレーキ液が不足しているとき。
- ブレーキ装置（電子制御制動力配分システム）に異常があるとき。

警告

禁止

ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

必ず守る

ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障警告表示灯が点灯した



次のようなときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

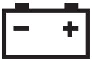
- ブレーキスイッチに異常があるとき
- 充電装置に異常があるとき グレード/仕様別装備

警告

禁止

故障警告表示灯が点灯したまま走行しない。
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

充電警告灯が点灯した



エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

警告

禁止

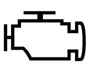
充電警告灯が点灯したまま走行しない。
エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

油圧警告灯が点灯した



エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止め、エンジンオイルの量を点検してください。
エンジンオイルの量が不足しているときは補充してください。
エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。

エンジン警告灯が点灯または点滅した



エンジン制御システムに異常があると点灯 / 点滅し続けます。
高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。
点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯 / 点滅したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。

高水温警告灯(赤)が点灯または点滅した



エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると点灯します。

点灯したときは

オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。

→ 343 ページ「オーバーヒートについて」

点滅したときは

エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅します。

エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。

i-stop 警告灯が橙色で点滅した グレード/仕様別装備



システムに異常があるときは点滅し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

RVM 警告灯が橙色で点灯した グレード/仕様別装備



システムに異常があるときは点灯し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

ABS 警告灯が点灯した



システムに異常があるときは点灯し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。

必ず守る

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

ABS 警告灯が点灯しているときは、ABS は作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯が点灯または点滅した



次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき。
- 点灯 / 点滅し続けるとき。

⚠ 警告

エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しない。

禁 止

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

4WD 警告灯が点灯した グレード / 仕様別装備

4WD

4WD システムに異常があると点灯します。マツダ販売店に連絡してください。

警告灯

4WD警告灯が点滅した グレード/仕様別装備

4WD

次のようなときは点滅します。警告灯が消灯するまでエンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。しばらくして警告灯が消灯すれば走行することができます。警告灯が消灯しないときは、マツダ販売店に連絡してください。

- ディファレンシャルオイルの温度が異常に高いとき。
- スタックからの脱出時など、前後輪の回転差が異常に大きい状態が続いたとき。

警告

禁止

脱輪やスタックなどにより、車輪が宙に浮いたときは、むやみに空転させない。

駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチックトランスミッション警告灯が点灯した グレード/仕様別装備

AT

システムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

電動パワーステアリング警告灯が点灯した グレード/仕様別装備



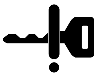
エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると点灯します。
警告灯が点灯したときはエンジンを停止してください。
エンジンを再始動した後でも警告灯が消灯しない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯が点灯したときは

- 電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ステアリング操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。
- 停車中または低速走行時にステアリング操作を繰り返すと、システム保護のためステアリング操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ステアリング操作を行わないでください。しばらくするともとにもどります。

KEY 警告灯が赤色で点灯または点滅した グレード/仕様別装備



点灯するとき

システムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

注意

必ず守る

メーター内の KEY 警告灯（赤）が点灯し続けるときは、プッシュボタンスタートの表示灯を確認してください。表示灯が赤で点灯している場合はエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。直ちにマツダ販売店で点検を受けてください。

禁 止

KEY 警告灯が赤色で点灯し続けるときは、アドバンストキーレスエントリー＆プッシュボタンスタートシステムによる運転を続けないでください。安全な場所に停車し、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯

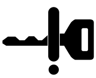
点滅するとき

- 次のようなとき、警告灯が点滅し、電源ポジションを OFF 以外にできないことをお知らせます。
  - アドバンストキーの電池が切れたとき
    → 294 ページ「アドバンストキー」
  - アドバンストキーが作動範囲内にないとき
  - アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
    → 23 ページ「アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
  - アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき
- 次のようなときは警告灯が点滅し続け、電源ポジションを OFF にせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したことを知らせます。
  アドバンストキーを車内にもどすと消灯します。
  - 電源ポジションを OFF にせずに、運転席ドアを開け、アドバンストキーを車外に持ち出したとき
  - 電源ポジションを OFF にせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき

知識

警告灯の点滅と同時にチャイムでもお知らせします。
→ 353 ページ「チャイムがなったときは」

KEY 表示灯が緑色で点滅した グレード / 仕様別装備



アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていることが考えられます。
このとき、電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたときに、30 秒間点滅します。
アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換してください。
→ 294 ページ「アドバンストキー」

電動ハンドルロック警告灯が点滅した グレード / 仕様別装備



プッシュボタンスタートを押した後、ハンドルのロックを解除できなかった場合に点滅します。
ハンドルを左右に動かしながらプッシュボタンスタートを押すとロックが解除され消灯します。

TCS/DSC 作動表示灯が点灯した グレード/仕様別装備



次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

AFS OFF 表示灯が点滅した グレード/仕様別装備



次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

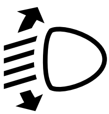
- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき。
- 点滅し続けるとき。

知識

AFS が故障したときは

AFS は作動しませんが、ヘッドランプは点灯します。

ヘッドランプオートレベリング警告灯が点灯した グレード/仕様別装備



システムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) 装備車は

ヘッドランプオートレベリング警告灯は装備されていません。ヘッドランプオートレベリング機能が故障した場合は AFS OFF 表示灯が点滅します。

警告灯

方向指示 / 非常点滅表示灯の点滅が異常に速くなった



電球切れが考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

低水温表示灯 (青) が暖機後も点灯し続ける



十分に暖機しても点灯したままのときは、温度センサーなどの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

セキュリティ表示灯が点灯または点滅するとき

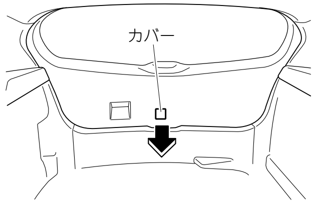


登録されたキー / アドバンストキーで電源ポジションを ON にしても表示灯が点灯 / 点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

セキュリティ表示灯が点灯 / 点滅したままの状態でエンジンを停止すると、再度エンジンを始動することができません。エンジンを停止せずマツダ販売店で点検を受けてください。

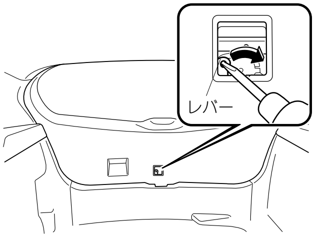
リヤゲートが開けられなくなったとき

バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リヤゲートの解錠ができず開けられなくなったときは応急処置として以下の方法で開けることができます。



1 リヤシートを倒します。
→ 39 ページ「荷室を作るとき」

2 マイナスドライバーなどを使ってリヤゲート車内側にあるカバーをはずします。

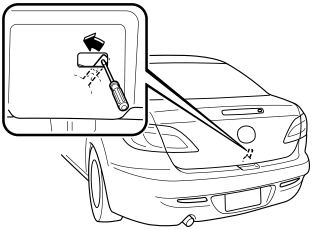


3 レバーを右側に動かして解錠します。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

トランク

トランクが開けられなくなったとき

バッテリーあがりや電気系統の故障などで、トランクの解錠ができず開けられなくなったときは応急処置として以下の方法で開けることができます。



1 リヤシートを倒します。
→ 39 ページ「荷室を作るとき」

2 レバーを左側に動かしてトランクを開けます。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

MEMO

燃料、オイル、液類

燃料

項目		サービスデータ
使用燃料	MZR 2.3 DISI Turbo 以外	無鉛レギュラーガソリン
	MZR 2.3 DISI Turbo	無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン
タンク容量 (参考値)	MZR 2.3 DISI Turbo 以外	55L
	MZR 2.3 DISI Turbo	60L

フューエルフィルター（SKYACTIV-G 2.0 を除く）

項目	サービスデータ
交換時期	160,000km 走行ごと

エンジンオイル

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。
交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。
寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

項目		サービスデータ	
交換時期	MZR 2.3 DISI Turbo 以外	標準	15,000km または 1 年ごと
		シビアコンディション *1	7,500km または 6 か月ごと
	MZR 2.3 DISI Turbo	標準	10,000km または 6 か月ごと
		シビアコンディション *1	5,000km または 3 か月ごと

項目			サービスデータ
オイルグレード	純正モーターオイルゴールデン ECO SM/SN[*2]		API SN/ILSAC GF-5、SAE 0W-20
			API SM/ILSAC GF-4、SAE 0W-20
	純正モーターオイルゴールデン SM		API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-20
			API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-30
			API SM/ILSAC GF-4、SAE 10W-30
	純正モーターオイルゴールデン SL		API SL/ILSAC GF-3、SAE 5W-30
交換量 (参考値)	MZR 1.5、MZR 1.6	オイルのみ	3.7L
		オイルとオイルフィルター	3.9L
	MZR 2.0	オイルのみ	3.9L
		オイルとオイルフィルター	4.3L
	SKYACTIV-G 2.0	オイルのみ	4.0L
		オイルとオイルフィルター	4.2L
	MZR 2.3 DISI Turbo	オイルのみ	5.3L
		オイルとオイルフィルター	5.7L

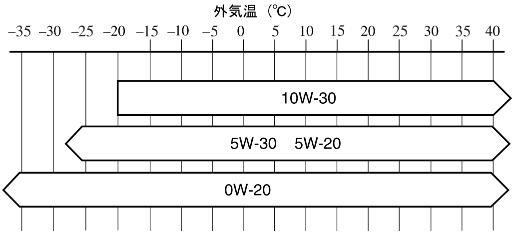
*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

*2 純正モーターオイルゴールデン ECO (SN もしくは SM) は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-G 2.0 には、SN の使用を推奨します。

燃料、オイル、液類

使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。



エンジンオイルフィルター

交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。

項目		サービスデータ	
交換時期	MZR 2.3 DISI Turbo 以外	標準	15,000km または 1 年ごと
		シビアコンディション *1	7,500km または 6 か月ごと
	MZR 2.3 DISI Turbo	標準	10,000km または 6 か月ごと
		シビアコンディション *1	5,000km または 3 か月ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

マニュアルトランスミッションオイル

項目		サービスデータ
推奨オイル		純正ロングライフ SAE 75W-80 (GL-4)
容量 (参考値)	5 速トランスミッション	2.91L
	6 速トランスミッション	2.5L

オートマチックトランスミッションフルード

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th>サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">推奨フルード</td><td rowspan="2">4 速トランスミッション</td><td>2WD 車</td><td>純正 ATF M-V</td></tr>
<tr><td>4WD 車</td><td>純正 ATF M-III</td></tr>
<tr><td colspan="2">6 速トランスミッション</td><td>純正 ATF FZ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">容量 (参考値)</td><td rowspan="2">4 速トランスミッション</td><td>2WD 車</td><td>7.0L</td></tr>
<tr><td>4WD 車</td><td>8.0L</td></tr>
<tr><td colspan="2">6 速トランスミッション</td><td>7.8L</td></tr>
</table>

CVT フルード

項目	サービスデータ
推奨フルード	Mobil CVTF 3320
容量 (参考値)	6.70L

ディファレンシャルオイル (4WD)

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>標準</td><td>無交換</td></tr>
<tr><td>シビアコンディション [*1]</td><td>60,000km 走行ごと</td></tr>
<tr><td>推奨オイル</td><td colspan="2">純正ロングライフハイポイド SAE 80W-90 (GL-5)</td></tr>
<tr><td>容量 (参考値)</td><td colspan="2">1.0L</td></tr>
</table>

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

燃料、オイル、液類

トランスファーオイル (4WD)

項目	サービスデータ
推奨オイル	純正ロングライフハイポイド SAE 80W-90 (GL-5)
容量 (参考値)	1.05L

パワーステアリングフルード

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
推奨フルード		純正 ATF M-III、純正 ATF M-V
容量 (参考値)	MZR 1.6	1.3L
	MZR 1.6 以外	1.0L

ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)

冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2 年ごと (初回は 3 年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1	100,000km 走行または 4 年ごと (初回は 180,000km 走行または 9 年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1
容量 (参考値)	MZR 1.5、MZR 1.6	6.0L
	MZR 2.0、MZR 2.3 DISI Turbo	7.5L
	SKYACTIV-G 2.0	8.1L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
タンク容量 (参考値)	2.5L

各部の点検値、交換時期

ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	4.0 ～ 8.4mm
フロアマットとのすき間 (踏力 147N {15kgf})	87.4mm 以上

パーキングブレーキ

項目	サービスデータ
引きしろ (操作力 98N {10kgf})	2 ～ 6 ノッチ

クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び	15mm 以下
フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)	66.1mm 以上

オルタネーターベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

エアクリーナーエレメント

項目		サービスデータ
交換時期	標準	50,000km 走行ごと
	シビアコンディション *1	25,000km 走行ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

電気部品 / 電球 (バルブ)

スパークプラグ

項目				サービスデータ
型式	イリジウムプラグ以外	MZR 1.6	NGK	BKR5E-11
			DENSO	K16PR-U11
			MAZDA	BP13 18 110
	イリジウムプラグ	MZR 1.5	DENSO	FK16PR11
		MZR 2.0	NGK	ILTR5A13G
		SKYACTIV-G 2.0	NGK	DILKAR7F8
			DENSO	FC20HPR8
		MZR 2.3 DISI Turbo	NGK	SILTR6A7G
電極のすき間		MZR 1.5、MZR 1.6		1.0 ～ 1.1mm
		MZR 2.0		1.25 ～ 1.35mm
		SKYACTIV-G 2.0		0.75 ～ 0.85mm
		MZR 2.3 DISI Turbo		0.6 ～ 0.7mm

⚠ 注意

イリジウムプラグは、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

バッテリー

項目		サービスデータ
型式、容量	MZR 1.5、MZR 1.6	75D23L、52AH (5 時間率)
	SKYACTIV-G 2.0	Q-85、52AH (5 時間率)
	MZR 2.0、MZR 2.3 DISI Turbo	55D23L、48AH (5 時間率)

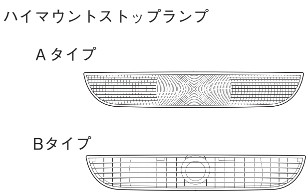
電球 (バルブ) の容量

電球 (バルブ)			W 数 (12V 用)	規格 (ECE R (SAE))
ヘッドランプ	ディスチャージヘッドランプ非装備車	上向き (ハイビーム)	60W	HB3 (#9005)
		下向き (ロービーム)	55W	H11 (H11)
	ディスチャージヘッドランプ装備車		35W	D2S (D2S)
フォグランプ グレード / 仕様別装備			55W	H11 (H11)
車幅灯			5W	W5W (—)
前面方向指示灯 / 非常点滅灯			21W	WY21W (—)
側面方向指示灯 / 非常点滅灯		バルブタイプ	5W[*1]	WY5W (—)
		ミラー内蔵タイプ	LED[*2]	— (—)
後面方向指示灯 / 非常点滅灯			21W	WY21W (32CP)
制動灯 / 尾灯	バルブタイプ		21/5W	21/5W (#7443)
	LED タイプ		LED[*2]	— (—)
後退灯			21W	W21W (#7440)

電気部品 / 電球 (バルブ)

電球 (バルブ)				W 数 (12V 用)	規格 (ECE R (SAE))
番号灯				5W	W5W (—)
ハイマウントストップランプ	セダン			21W	W21W (T20)
	ハッチバック	バルブタイプ	A タイプ	16W	W16W (#921)
			B タイプ	21W	W21W (T20)
		LED タイプ		LED[*2]	— (—)
ルームランプ (フロント)/ マップランプ				8W	— (—)
ルームランプ (リヤ)				10W	— (—)
トランクルームランプ (セダン)				3W	— (—)
ラゲッジルームランプ (ハッチバック)				5W	— (—)
バニティミラーランプ グレード / 仕様別装備				2W	— (—)

*1 電球 (バルブ) の交換はできません。ランプユニット本体の交換となります。
*2 LED は Light Emitting Diode の略で発光するダイオードです。



ヒューズ

→ 275 ページ「ヒューズの受け持つ装置」

タイヤ / ホイールサイズ

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

(MZR 2.3 DISI Turbo 以外)

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル直径
195/70R15 92H	15 × 6J	50.0mm	114.3mm
195/65R15 91H	15 × 6J		
205/55R16 91V	16 × 6-1/2J		
205/50R17 89W	17 × 7J	52.5mm	

(MZR 2.3 DISI Turbo)

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル直径
225/40R18 88Y	18 × 7-1/2J	52.5mm	114.3mm

応急用スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル直径
T115/70D15 90M	15 × 4T	45.0mm	114.3mm
T135/90D16 102M	16 × 4T		

タイヤ / ホイール

タイヤ空気圧

標準タイヤ

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
→ 270 ページ「タイヤの点検」

(MZR 2.3 DISI Turbo 以外)

タイヤサイズ		タイヤ空気圧	
		前輪	後輪
195/70R15 92H		220 kPa (2.2 kgf/cm^2)	220 kPa (2.2 kgf/cm^2)
195/65R15 91H	MZR 1.5、MZR 1.6	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
	SKYACTIV-G 2.0	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	240 kPa (2.4 kgf/cm^2)
205/55R16 91V		230 kPa (2.3 kgf/cm^2)	220 kPa (2.2 kgf/cm^2)
205/50R17 89W		220 kPa (2.2 kgf/cm^2)	210 kPa (2.1 kgf/cm^2)

(MZR 2.3 DISI Turbo)

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
225/40R18 88Y	240 kPa (2.4 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)

応急用スペアタイヤ

タイヤサイズ	タイヤ空気圧
T115/70D15 90M	420 kPa (4.2 kgf/cm^2)
T135/90D16 102M	

ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

設定変更 (カスタマイズ機能)

以下の機能の設定をマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

機能	内容	初期設定	変更内容
イルミネーテッドエントリーシステム	ドアを閉めてからルームランプが消灯するまでの時間を変更できます。	15 秒	7.5 秒 /30 秒 /60 秒
	運転席ドアを解錠してからルームランプが消灯するまでの時間を変更できます。	30 秒	7.5 秒 /15 秒 /60 秒
	電源ポジションを OFF にしたとき (アドバンストキー非装備車はエンジンスイッチからキーを抜いたとき)、ルームランプが点灯しないようにできます。	ON	OFF
	運転席ドアを解錠したとき、ルームランプが点灯しないようにできます。	ON	OFF
	ドアが確実に閉まっていないとき、ルームランプが自動的に消灯しないようにできます。	ON	OFF
	ドアが確実に閉まっていないとき、ルームランプが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。	30 分	10 分 /60 分
キーレスエントリーシステム	アンロックスイッチを押して解錠した後、ドアまたはリヤゲート / トランクを開けなかった場合に自動的に施錠される時間を変更できます。	30 秒	60 秒 /90 秒
	施錠 / 解錠したときに、非常点滅灯が点滅しないようにできます。	ON	OFF

設定変更 (カスタマイズ機能)

機能	内容	初期設定	変更内容
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム	オートロック機能を作動させることができます。	OFF	ON
	アドバンストキー電池切れ表示が作動しないようにできます。	ON	OFF
	施錠 / 解錠時のチャイムの音量を変更できます。	音量大	音量小 / なし
	警報音の音量を変更できます。	音量大	音量小
	アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム機能を作動しないようにできます。	ON	OFF
	アンロックスイッチ / リクエストスイッチを押して解錠した後、ドアまたはリヤゲート / トランクを開けなかった場合に自動的に施錠される時間を変更できます。	30 秒	60 秒 /90 秒
	電源ポジションを ACC (オートマチック車はセレクトレバーが P の位置になっていること) で放置した場合、約 1 時間で電源ポジションが OFF になる機能を作動しないようにできます。	ON	OFF
	電源ポジションが切り替わる順序を変更できます。	ON → OFF	ON → ACC → OFF
オートライト機能	ヘッドランプが点灯するタイミングを変更できます。	標準 (通常の暗さで点灯)	早く / 少し早く / 少し遅く / 遅く
エコゲージ	エコゲージを非表示にできます。	表示	非表示

機能	内容	初期設定	変更内容
インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージ	インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージを非表示にできます。	表示	非表示

以下の機能の設定をお客様自身で変更することができます。

機能	内容	初期設定	変更内容
アクションイルミネーション	アクションイルミネーションを作動しないようにできます。 → 234 ページ「音量 / 音質の調節」	ON	OFF
ウェルカムサウンド	ウェルカムサウンドを鳴らすことができます。 → 234 ページ「音量 / 音質の調節」	OFF	ON
キー抜き忘れ防止チャイム	キー抜き忘れ防止チャイムの音量を変更できます。 → 141 ページ「セッティング」	音量大	音量小
ランプ消し忘れ防止チャイム	ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更できます。 → 141 ページ「セッティング」	音量大	音量小
方向指示器のブザー音	方向指示器のブザーの音量を変更できます。 → 141 ページ「セッティング」	音量中	音量小
リアビークルモニタリングシステム	リアビークルモニタリングシステム警報チャイムの音量を変更できます。 → 141 ページ「セッティング」	音量大	音量小 / なし
ブースト計	ブースト計を非表示にできます。 → 125 ページ「ブースト計」	表示	非表示

A

C

D

E

I

S

T

ア

イ

ウ

ウ

エ

エ

オ

カ

キ

ク

チ

テ

ト

ナ

ニ

ネ

ハ

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

メ

ヤ

ヨ

ラ

ラ

リ

ル

MEMO

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ㈱コールセンター
全国共通フリーダイヤル
0120-386-919
受付時間
平日　9:00〜17:00
土・日・祝日　9:00〜12:00 13:00〜17:00
携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(http：//www.mazda.co.jp)

発行元 マツダ株式会社
〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地 3-1
発行　2011 年　7 月
印刷　2011 年 10 月
395 頁　2 版